

平成28事業年度に係る業務の実績及び第2期中期
目標期間に係る業務の実績に関する報告書
(資料編)

平成29年6月
長崎県公立大学法人

(資料編) 目次

No	頁	内容	中期計画No.		
			1	2	3
1	1	「長崎を学ぶ」「しまに学ぶ」科目群			
2	2	しまなびプログラム	3		
3	9	国際経営学科、国際社会学科におけるTOEICの変化	1	8	27
4	13	資格試験合格者数	4	5	6
5	14	経済学部グローバル人材育成プログラム	4	16	
6	16	海外ビジネス研修先一覧	4	16	
7	17	語学研修先一覧	1	7	
8	18	外国語プログラム(平成25年度入学生より適用)	7		
9	19	外国語の数値目標と実績(国際交流学科、経済学部)	7		
10	20	学部、研究科の学位授与方針、教育課程編成・実施方針、入学者受入方針	8	14	
11	57	留学生の受入・派遣状況	13		
12	58	国際交流基金の概要	13		
13	59	入学志願者及び入学者数	14		
14	61	オープンキャンパス参加者数	14		
15	62	就業力育成のための教育プログラム	16		
16	64	NICEキャンパス長崎について	17		
17	65	他大学との教育面の連携について	17	25	
18	67	授業評価結果の概要	19		
19	79	ファカルティ・ディベロプメントに関するガイドライン	20		
20	80	FDの取組	20		
21	82	長崎県立大学GPA制度活用基本方針	20		
22	83	学生支援基本方針	21		
23	85	「長崎県立大学やるばいプロジェクト」奨励金交付実績	22		
24	86	就職状況	24		
25	87	業種別就職状況等	24		

(資料編) 目次

No	頁	内容	中期計画No.		
26	89	県内就職率向上に向けた取組	24		
27	90	インターンシップ実施状況	24		
28	91	学長裁量研究実績一覧	26	30	
29	93	市町との連携協定事業	27	34	
30	101	産学官連携の主な取組	27	31	32
			35		
31	109	学長プロジェクト研究費について	27	32	
32	110	研究論文数及び学会発表数	29		
33	111	受託研究・共同研究一覧	32	34	
34	112	交流協定校一覧	33		
35	113	シンポジウム・フォーラム開催実績一覧	33		
36	114	東アジア研究所「東アジア研究ネットワーク」について	33		
37	115	公開講座・地域公開講座・学術講演会実施状況	36	38	
38	120	教員の研究活動内容一覧	36		
39	126	高大連携などに関する記事	37		
40	132	佐世保校建替え	40		
41	136	長崎県公立大学法人の経営戦略	42		
42	139	クロスアポイントメント制度	42		
43	141	長崎県立大学の教員評価の実施に関する基本方針	45		
44	147	教員の年齢・性別構成	47		
45	148	職員評価制度	49		
46	149	外部資金獲得状況	51		
—	150	用語解説			

※ 資料については既存の資料より抜粋し、活用しています。

「長崎を学ぶ」「しまに学ぶ」科目群

平成25年度より「長崎を学ぶ」、平成26年度より「しまに学ぶ」科目群を設置し、平成28年度時点で以下の科目を開講している。

科目群	科 目	単位数	
		必修	選択 必修
長崎を学ぶ	長崎と文化		2
	長崎の歴史と今		
	長崎と宗教		
	シーボルトと長崎		
	長崎と産業		
	長崎と平和		
しまに学ぶ	長崎のしまに学ぶ	2	
	しまのフィールドワーク	2	

すべての学部で「長崎を学ぶ」科目群から2単位（1科目）以上選択必修、「しまに学ぶ」科目群は2科目必修として設定。

長崎県の多くの「しま」や地域においては、急激な人口減少や少子高齢化の進行により、地域コミュニティの低下、基幹産業の不振、伝統・文化の衰退など、日本において数年先に生じるであろう問題にいち早く直面しており、課題の解決が急務である。長崎県立大学では、「しま」を佐世保校、シーボルト校（長与町）に次ぐ第3のキャンパスとして位置づけ、「しま」での実践的な体験学習を全学的に導入する。そして、グローバルな視野をもち、かつ地域課題に主体的に取り組むことができるグローバル人材育成のため、学長のリーダーシップのもとに地域を志向した教育改革や、地域における教育拠点の中心を担うための学部学科再編に全学的に取り組む。また、大学が「しま」に学んだ成果は、地域における人材育成や産業振興等を通じて地域に還すとともに、地域と大学が連携して、地域の宝（しま）を再生・創造する。



「しまなび」プログラムとは

「しまなび」プログラムとは、本県の「しま」（対馬、壱岐、五島、小値賀、新上五島、宇久、的山大島）を佐世保校、シーボルト校に次ぐ第3のキャンパスとして位置づけ、PBL学習法（project based learning 課題解決型学習法）の導入による「しま」での実践的な体験学習を通じて、グローバルな視点を持つとともに、ローカルな視点で地域課題に取り組むことができる人材の育成を目的とした教育プログラムです。

本プログラムは全学必修科目で、講義科目「長崎のしまに学ぶ」（4～8月）と演習科目「しまのフィールドワーク（4泊5日）」（8～9月）の2つの科目から構成され、「しま」の課題等に対し、学生自身が解決策や対応方法を考えることで、課題発見力、分析力、積極性、協調性などの社会人として求められる能力を涵養します。

「しまなび」プログラム 年間スケジュール

前期				夏休み			後期			
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1月	
長崎のしまに学ぶ(講義科目)				しまのフィールドワーク(演習科目)						
一斉講義(4回)	しま毎説明	グループワーク(9回) 計画作成・中間発表		最終確認	フィールドワーク (1回+4泊5日) 最終報告書作成 (3回)		発表会 (2回)	最終提出 (報告書・作品など)		

「長崎のしまに学ぶ」スケジュール概要

授業回	1回	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
スタイル	一斉講義(教室)				しま枚(教室)	グループワーク(教室)									
講義内容	オリエン・授業概要	長崎のしま概要	フィールドワークとは	しまの紹介	しま毎の説明(しまの協力者)	基礎計画書(課題・テーマ・到達目標・達成方法の検討)		中間発表Ⅰ	実施計画書(具体策の内容・日時・宿泊と船の時間・アンケート様式等の作成)			最終計画書(島内移動の入力・現地への連絡・最終仕上げ)		中間発表Ⅱ	
チェックポイント	しま決定				リーダー決定		希望課提出	船・宿泊希望提出			リーダー交代	最終確認			
	課題検討開始					しまに相談・協力者の検討(コーディネーター)									

「しまのフィールドワーク」スケジュール概要

授業回(相当)	1回	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
スタイル	教室	フィールドワーク									自習(教室)	教室			
実施内容	出発前確認・オリエン	フィールドワーク1日目 しまへ移動	フィールドワーク2日目	フィールドワーク3日目	フィールドワーク4日目	フィールドワーク5日目	しまでの報告会		しまから移動		最終報告書の作成(報告書・作品・発表スライドなどの作成)			発表会 Ⅰ・Ⅱ	
チェックポイント	予約確認	日報提出	日報提出	日報提出	日報提出	チェックリスト提出	計画書完成								

平成28年度「しまなび」プログラム実施一覧

1. 対馬市

	日程	タイトル	指導教員	学生数
1	8/16～8/20	みんなの対馬の知らない世界	菅 宜紀	10
2	8/16～8/20	観光から知る対馬の魅力		9
3	8/23～8/27	Let's be つしまんちゅ！！ ～対馬暮らし始めませんか～	荻野 晃	11
4	8/30～9/2	対馬の魅力ある漁業と観光 ～観光客が見る第一次産業～	鶴指 眞志	10
5	8/30～9/2	対馬の交通施策における多方向性の発掘 ～経済的視点での交通・人口・観光の融合～		11
6	9/13～9/17	対馬の郷土料理の継承 「忘れない、対馬の美味しいを」	奥山 忠裕 石田 聖	13
7	9/13～9/17	対馬の魅力に投資してみませんか？		12
			小計	76名

2. 壱岐市

	日程	タイトル	指導教員	学生数
1	8/16～8/20	壱岐ブランド	代田 義勝	11
2	8/16～8/20	壱岐に行きたくなるグルメロード		10
3	8/23～8/27	壱岐を活かして、壱岐で生きる	下野 孝文	10
4	8/23～8/27	壱岐を知りたい。壱岐に行きたい	中村 貴治	11
5	8/23～8/27	生き生き壱岐 ～若者から見た壱岐～		9
6	8/30～9/2	壱岐に行きたい！生きたい！移きたい！活きたい！	後藤 正之	10
7	8/30～9/2	壱岐のブランド品の発掘・発信		11
8	9/6～9/10	壱岐の粋な魅力	植野 貴之	11
9	9/6～9/10	壱岐のもつ魅力を活かしたフルマラソンイベントを 考案する。		11
10	9/13～9/17	また壱岐たい！	長濱 幸一	12
11	9/13～9/17	生き生き壱岐市 ～元気な行政が島に喜びをもたらす～		13
			小計	119名

平成28年度「しまなび」プログラム実施一覧

3. 五島市

	日程	タイトル	指導教員	学生数
1	8/30～9/2	五島から生まれる温故知新 ～伝統文化と観光業 まち(五島)からまちの架け橋に～	竹部 隆昌	11
2	8/30～9/2	体験を用いた五島の魅力の発見と効果的なPR方法の提案	吉本 諭	12
3	8/30～9/2	車窓から見える五島の魅力 ～島内産業、交通を活かした総合体験型観光モデルコースの作成～		11
4	9/6～9/10	五島に行こじゃんな	西岡 誠治	10
5	9/6～9/10	You Know 五島		11
6	9/13～9/17	五島の観光客をより多く誘致できるような発案・提示「Let go to GOTO」 ～未来の五島が観光客、来航客で溢れるように～	津久井 稲緒	12
7	9/13～9/17	五島の観光コース・特産品の超変革		12
8	9/21～9/24	食べ物まるごと	四本 雅人	11
9	9/21～9/24	五島まるごとシッテQ ～日本一椿あふれるしまの魅力とは？～		12
			小計	102名

4. 新上五島町

	日程	タイトル	指導教員	学生数
1	8/16～8/20	GO TO 五島 ～行きたい住みたい残りたい 新たな魅力発信 新上五島～	松尾 晋一	11
2	8/23～8/27	人生の楽園・新上五島町	三戸 浩	10
3	8/23～8/27	離島婚活大作戦 in 新上五島		10
4	8/30～9/2	新上五島町の郷土料理	古河 幹夫	11
5	8/30～9/2	広めよう焼酎に合う新上五島町の新しいうまかもん！		11
6	9/6～9/10	Go to 新上五島 ～食と伝統芸能から上五島の魅力を発信しよう～	板垣 太郎	11
7	9/6～9/10	新上五島の特産品をPRし広めるためには		12
			小計	76名

平成28年度「しまなび」プログラム実施一覧

5. 小値賀町

	日程	タイトル	指導教員	学生数
1	8/23～8/27	ぢかに触れよう小値賀の魅力	関谷 融	11
2	9/6～9/10	小値賀の教育と観光の架け橋	黒木 誉之 宮崎 明人	11
3	9/6～9/10	イベント、自然と、小値賀。		12
4	9/13～9/17	小値賀を第2の故郷に ～発展と情報発信～	橋本 優花里	11
5	9/13～9/17	小値賀の魅力を発見する。		12
			小計	57名

6. 宇久

	日程	タイトル	指導教員	学生数
1	8/16～8/20	たくさんの人を宇久に呼ぶには！ ～情報発信から考える～	柳田 芳伸	10
2	8/16～8/20	宇久島の魅力発掘発見とイベント立案		10
3	8/23～8/27	宇久島の独自産業の発掘と魅力発信 ～癒しの島宇久から元気を～	和田 一哉	11
4	9/6～9/10	宇久で家族の思い出のページを作ませんか？	馬場 晋一	13
5	9/6～9/10	宇久の魅力を再発見！そして発信！ ～私たちが見つめる宇久の未来～		12
			小計	56名

7. 的山大島

	日程	タイトル	指導教員	学生数
1	8/30～9/2	的山大島の林間学校、フリースクール制度の提案 ～やったね大島 子供が増えるよ！～	車 相龍	10
2	8/30～9/2	よし、的山大島にでも行こう ～的山大島の観光の発展と発信～		12
3	9/13～9/17	あいうえおおしま ～カルタで広げるあづちの輪～	鳥丸 聡	11
4	9/13～9/17	～遊び、学ぶ～「遊学」的山大島プロジェクト		11
			小計	44名

合計(48グループ) 530名

・「しまなび」プログラムの成果の活用について

1 目的

「しまなび」プログラムにおいて学生が作成した成果のうち、「しま」での活用が期待できるものについて「しま」の関係者と協議し活用策を考える。

2 協議概要

①五島市（かんころ餅パッケージについて）



【協議月日】 2月17日（金）

【協議者】 学生、五島市

②宇久町

- ・ボランティア等参加（宇久町の秋祭り）
- ・観光パンフレットの修正作業への参加

③小値賀町



- ・平成29年度実施に向けて、学生が計画案を作成（農業体験を主としたボランティア）
- ・学生団体「値賀女（ちかじょ）」の立ち上げ

④平戸市的山大島

学生が、地域の方と一緒に作成したカルタを老人会のお弁当の包み紙として提供



3 その他

① 苓崎市におけるポスター贈呈式

【日時】平成28年8月10日（水）

【場所】苓崎市役所 郷ノ浦庁舎 2階会議室

【出席者】苓崎市政策企画・苓崎市観光連盟事務局長



② 五島フェア（五島の観光とよか産品まつり）における「かんころ餅」の販売

【日時】平成29年2月28日（火）～3月6日（月）

【場所】長崎浜屋



③ 五島紹介ブックレット贈呈式

【日時】平成29年3月29日（水）

【場所】九州商船本社



国際経営学科におけるTOEICスコアの変化

1. 最高点・最低点・平均点の変化

	4月1日	学生別最高点 (3月31日現在)
最高点:	735	910
最低点:	275	575
平均点:	435.9	695.3

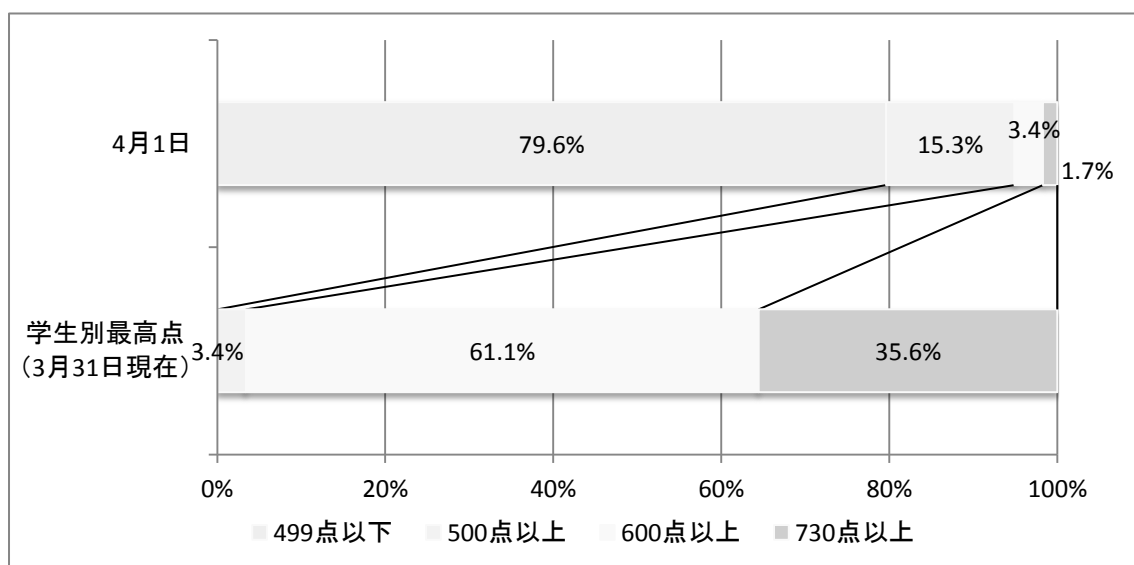
2. 点数分布について

(人数)

	4月1日	学生別最高点 (3月31日現在)
730点以上	1	21
600点以上	2	36
500点以上	9	2
499点以下	47	0
	59	59

(割合)

	4月1日	学生別最高点 (3月31日現在)
730点以上	1.7%	35.6%
600点以上	3.4%	61.1%
500点以上	15.3%	3.4%
499点以下	79.6%	0.0%
	100.0%	100.0%

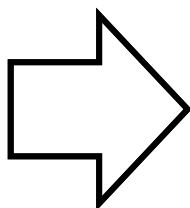


730点以上
600点以上730点未満
500点以上600点未満
400点台

【国際経営学科】

順位	入学時入刀
1	735
2	690
3	625
4	575
5	550
5	550
7	545
8	535
9	530
10	525
11	520
12	515
13	495
14	490
14	490
14	490
17	480
18	465
19	455
20	450
21	440
21	440
21	440
24	435
25	430
25	430
25	430
25	430
29	425
29	425
29	425
29	425
32	420
32	420
32	420
32	420
32	420
32	420
37	415
37	415
39	405
39	405
41	385
42	370
42	370
44	365
45	355
45	355
47	350
47	350
47	350
50	345
50	345
52	340
53	335
53	335
53	335
56	325
56	325
58	295
59	275

平均点：435.7



順位	最高入刀
1	910
2	885
3	835
4	820
5	800
5	800
7	795
7	795
9	790
9	790
11	780
12	775
13	750
13	750
15	745
15	745
15	745
18	740
18	740
20	735
21	730
22	725
23	720
24	715
25	705
26	700
27	695
28	680
28	680
28	680
31	675
32	670
32	670
34	660
35	655
36	650
36	650
36	650
36	650
40	645
40	645
42	640
42	640
44	630
44	630
44	630
44	630
48	615
48	615
48	615
48	615
52	610
53	605
53	605
53	605
53	605
57	600
58	580
59	575

平均点：695.3

TOEIC実施

第1回：4月1日

第2回：5月24日

第3回：6月21日

第4回：7月23日

第5回：9月27日

第6回：12月22日

第7回：1月26日

※TOEIC公開テスト結果を含む。

730点以上
600点以上730点未満
500点以上600点未満
400点台

国際社会学科におけるTOEICスコアの変化

1. 最高点・最低点・平均点の変化

	4月2日	学生別最高点 (3月31日現在)
最高点:	705	880
最低点:	290	415
平均点:	438.7	641.8

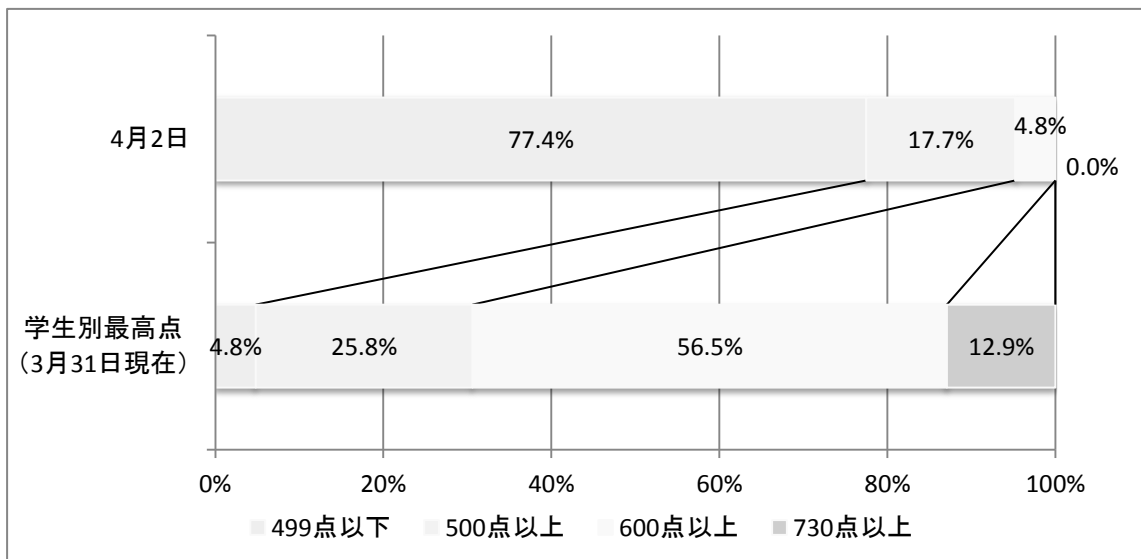
2. 点数分布について

(人数)

	4月2日	学生別最高点 (3月31日現在)
730点以上	0	8
600点以上	3	35
500点以上	11	16
499点以下	48	3
	62	62

(割合)

	4月2日	学生別最高点 (3月31日現在)
730点以上	0.0%	12.9%
600点以上	4.8%	56.5%
500点以上	17.7%	25.8%
499点以下	77.4%	4.8%
	100.0%	100.0%



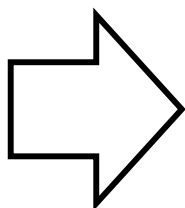
730点以上
600点以上730点未満
500点以上600点未満
400点台

TOEICスコア推移表（国際社会学科）

【国際社会学科】

順位	入学時入刀
1	705
2	700
3	645
4	595
5	585
6	560
7	550
8	535
9	525
10	515
10	515
12	510
13	505
14	500
15	485
16	470
16	470
18	465
18	465
20	460
20	460
20	460
23	455
24	440
24	440
24	440
27	435
28	430
28	430
28	430
28	430
32	425
32	425
34	420
35	415
35	415
35	415
35	415
35	415
35	415
40	405
41	400
41	400
43	390
43	390
45	385
45	385
47	380
48	375
48	375
48	375
51	370
51	370
53	360
54	350
55	345
56	340
57	330
58	320
59	315
60	305
61	290
61	290

平均点：438.7



順位	最高入刀
1	880
2	820
3	790
4	785
5	770
6	765
7	750
8	735
9	725
9	725
9	725
9	725
13	720
14	715
15	710
16	695
16	695
16	695
19	690
20	685
21	675
22	670
23	665
23	665
23	665
26	660
27	655
28	650
28	650
30	645
30	645
32	640
33	635
33	635
35	625
36	620
37	610
37	610
37	610
40	605
41	600
41	600
41	600
44	595
45	590
46	585
46	585
46	585
49	580
50	575
50	575
52	570
52	570
54	565
54	565
56	555
57	520
58	505
58	505
60	475
61	440
62	415

12平均点：641.8

TOEIC実施

第1回：4月2日

第2回：7月24日

第3回：8月5日

第4回：9月25日

第5回：11月20日

第6回：1月29日

第7回：2月11日

※TOEIC公開テスト結果を含む。

730点以上
600点以上730点未満
500点以上600点未満
400点台

資格試験合格者数

<佐世保校>

(単位:人)

項目		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
販売士検定	2級	9	15	11	4	15	13
	3級	17	19	9	11	9	5
ファイナンシャル・プランニング技能検定	2級	3	10	8	8	9	4
	3級	47	32	48	28	16	23
日商簿記検定	2級	12	8	1	6	4	4
	3級	35	8	11	10	15	11
秘書技能検定	1級	-	-	-	-	-	-
	準1級	14	8	8	6	2	-
	2級	81	94	42	44	53	37

<シーボルト校>

(単位:人)

項目		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
秘書技能検定	1級	-	-	-	-	-	1
	準1級	-	-	3	-	8	6
	2級	13	8	7	26	19	16
応用情報技術者資格		1	0	0	0	0	0
基本情報技術者資格		2	3	2	1	1	3

(単位:%)

項目		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
看護師国家試験	合格率	98.4	100	100	100	97.1	96.6
	国公立平均	98.8	97.0	98.3	98.4	98.6	98.0
保健師国家試験	合格率	95.6	100	98.2	100	-	-
	国公立平均	95.3	99.1	96.0	99.9	-	-
管理栄養士国家試験	合格率	92.7	90.7	100	95.1	93.0	90.7
	国公立平均	95.2	91.0	96.8	95.8	90.9	95.0

経済学部グローバル人材育成プログラム

1. プログラムの目的

経済活動が地球規模で展開する今日、変化する世界の状況を理解し、グローバルな視野をもって活躍できる人材の育成が求められている。そのためには、使える英語など高い語学力はもちろんのこと、とりわけアジア地域における経済の実態と多様な文化・価値観を理解したうえで、演習（ゼミ）等での課題解決型の学習や海外での研修を通じて、ビジネスの現場で諸課題に取り組む際に基礎となる「考え抜く力」、「チームで働く力」や行動力を育成する。

2. プログラムの概要

養成する力として、語学運用能力、グローバル化を理解する力、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を融合した教育を行う（別紙）

① 語学運用能力

- ・新語学プログラムと連動し、必修8単位に加え、さらに難易度の高い科目を取得する。
- ・eラーニングを活用し、語学運用能力を高める。

② グローバル化を理解する力

- ・理解する力として、アジア地域における経済の実態と多様な文化・価値観を理解する関連科目を1年次～3年次までに受講する。

③ コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力

- ・初年次から4年次まで、各学年毎に配科された演習科目を受講することにより、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を高める。
また、2年前期の「しま体験プログラム」により、実践的な学習を体験させる。
- ・2年後期に海外語学研修を実施し、さらに語学運用能力を高める。
- ・このプログラムの総仕上げとして、3年前期に海外ビジネス研修を実施し、外国語による報告会を行う。

(別紙)

経済学部グローバル人材育成プログラム

特に養成する力			
	語学運用能力	グローバル化を理解する力	コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力
1年	英語 8単位+12単位 (必修) (上限)	アジア地域における経済の実態と 多様な文化・価値観を理解する関 連科目	新入生セミナー
2年	中国語 8単位+12単位 (必修) (上限)		総合演習
3年		e-ラーニング	しま体験プログラム
4年			卒業論文
			海外語学研修
			海外ビジネス研修※

※語学研修、職場体験、インターンシップなどを内容とするもの

海外ビジネス研修先一覧

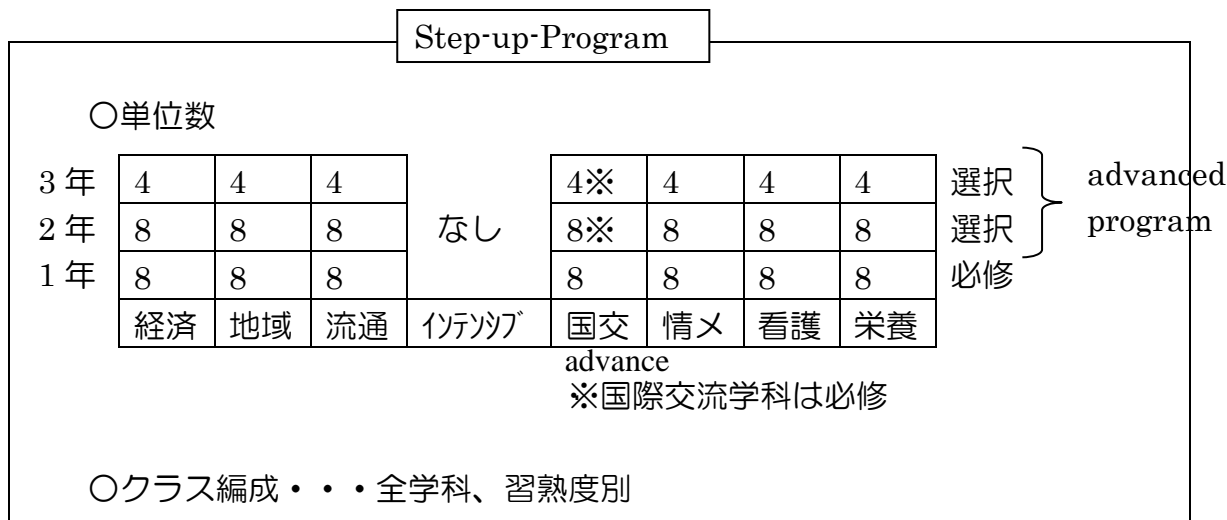
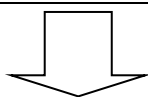
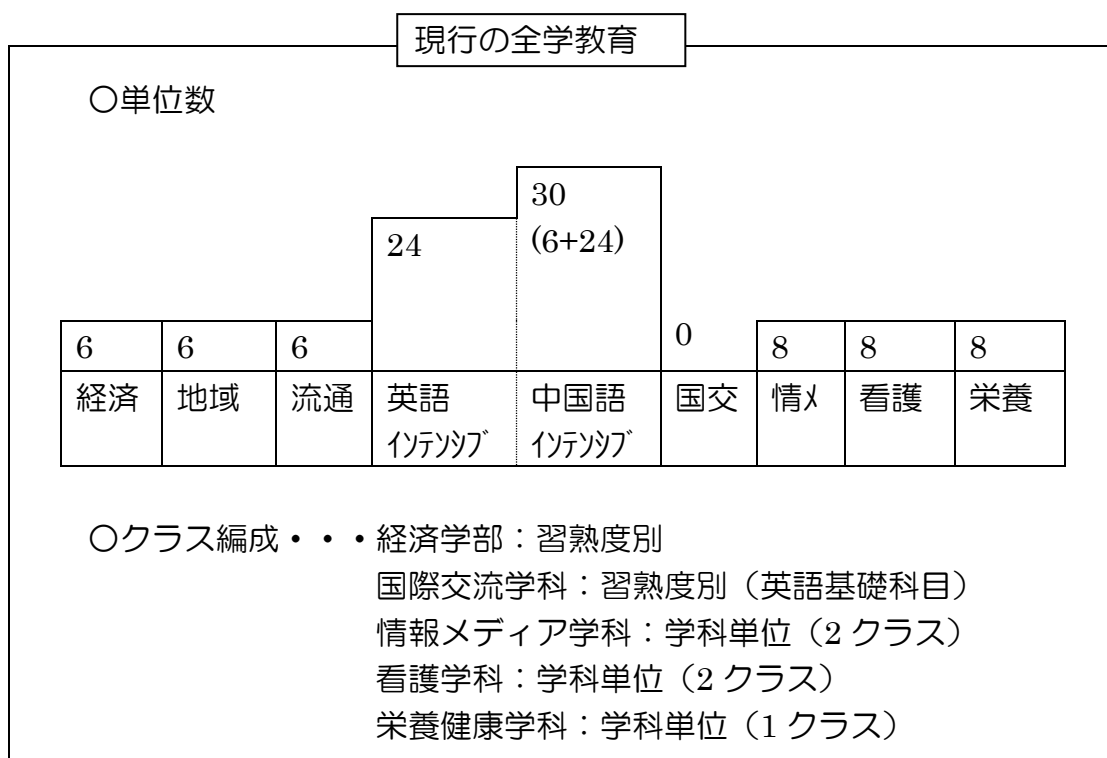
	企業名	国名	備考
1	シンガポール伊勢丹	シンガポール	
2	ベスト電器シンガポール	シンガポール	
3	西日本鉄道	シンガポール	
4	JTBシンガポール	シンガポール	
5	西海陶器	シンガポール	
6	AAIC	シンガポール	
7	Tennis Factory	シンガポール	
8	ダナン人民政府	ベトナム	
9	ベトナム日本通運	ベトナム	
10	H.I.S.ダナン支店	ベトナム	
11	NHHK	ベトナム	
12	MPテレコム	ベトナム	
13	廈門TDK有限公司	中国	
14	廈門歌楽電子企業有限公司	中国	

語学研修先一覧

	大 学 名	国 名	備 考
1	ウィスコンシン大学オシュコシュ校	アメリカ	
2	マウントアイダカレッジ	アメリカ	
3	エドモンズコミュニティカレッジ	アメリカ	
4	ディアブロバリーカレッジ	アメリカ	
5	ランガラカレッジ	カナダ	
6	バンクーバー・アイランド大学	カナダ	旧名称: マラスピーナ大学
7	ビクトリア大学	カナダ	
8	ウーロンゴン大学	オーストラリア	
9	スウインバーン工科大学	オーストラリア	
10	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	イギリス	
11	イデアアカデミア	フィリピン	
12	北京大学	中国	
13	上海外国語大学	中国	
14	華僑大学	中国	
15	高麗大学校	韓国	

外国語教育改革について

- 英語（中国語）の科目を 19 科目 20 単位配科し、全ての科目をスキルに特化した内容へ改革
- 国際交流学科は、全科目（19 科目 20 単位）を必修、他学科は 8 科目 8 単位を必修とし、向上心のある学生は、プラス単位取得できるようにする
- TOEIC 試験の結果により、一定レベルの学生は、最大 6 科目 6 単位を科目認定し、次のステップへ履修できる制度へ
- 平成 25 年度入学生から適用



国際交流学科及び経済学部における外国語の数値目標と実績

《国際交流学科》

- 英語 中期計画数値目標： 国際交流学科で英語を選択する学生については、卒業時まで
TOEIC600点以上の能力取得に加え、さらに高得点を目指す

		H23	H24	H25	H26	H27	H28
全学生	学生数(人)	330	320	328	324	332	258
	うち600点以上(人)	146	137	156	150	185	170
	600点以上の割合(%)	44.2	42.8	47.6	46.3	55.7	65.9
4年次生	学生数(人)	98	87	94	90	97	99
	うち600点以上(人)	48	48	51	49	65	73
	600点以上の割合(%)	49.0	55.2	54.3	54.4	67.0	73.7

- 中国語 中期計画数値目標： 国際交流学科で中国語を選択する学生については、卒業時まで
中国語検定2級以上の能力取得に加え、さらに高得点を目指す

		H23	H24	H25	H26	H27	H28
全学生	学生数(人)	12	16	20	18	14	14
	うち2級以上(人)	1	1	8	7	4	7
	2級以上の割合(%)	8.3	6.3	40.0	38.9	28.6	50.0
4年次生	学生数(人)	2	2	6	5	5	4
	うち2級以上(人)	1	1	3	3	2	4
	2級以上の割合(%)	50.0	50.0	50.0	60.0	40.0	100

《経済学部》

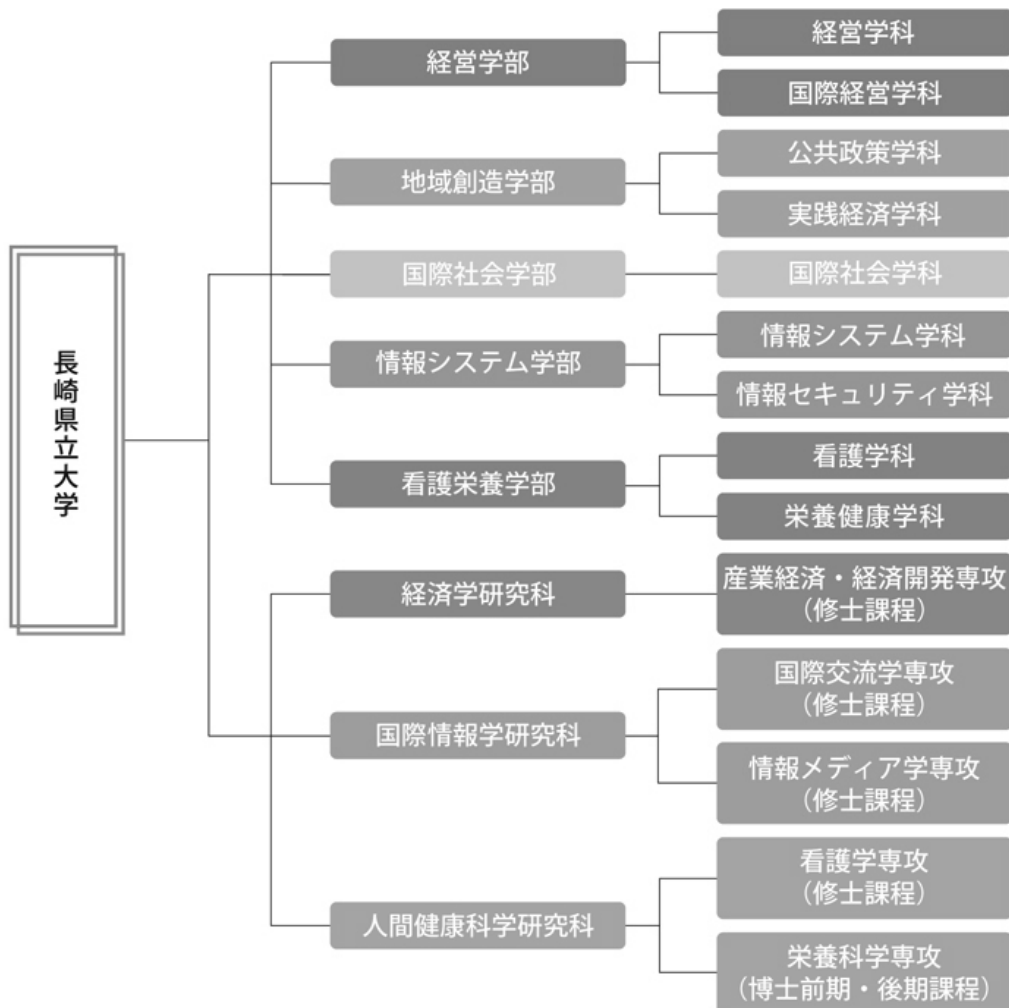
- 英語 中期計画数値目標： 経済学部の英語インテンシブプログラム受講生については、卒業時
までにTOEIC600点以上の能力取得を目指す(H23～27)
経済学部の平成25年度以降入学生で英語を選択する学生については、
50人以上が卒業時までTOEICテスト600点以上の能力取得を目指す(H28)

		H23	H24	H25	H26	H27	H28
全学生	学生数(人)	161	165	125	92	49	-
	うち600点以上(人)	28	27	19	15	10	-
	600点以上の割合(%)	17.4	16.4	15.2	16.3	20.4	-
4年次生	学生数(人)	38	41	40	44	49	-
	うち600点以上(人)	10	16	7	5	10	11
	600点以上の割合(%)	26.3	39.0	17.5	11.4	20.4	-

- 中国語 中期計画数値目標： 経済学部の中国語インテンシブプログラム受講生については、卒業時
までに中国語検定3級以上の能力取得を目指す(H23～27)
経済学部の平成25年度以降入学生で中国語を選択する学生については、
20人以上が卒業時まで中国語検定試験3級以上の能力取得を目指す(H28)

		H23	H24	H25	H26	H27	H28
全学生	学生数(人)	45	55	41	32	16	-
	うち3級以上(人)	6	16	20	17	8	-
	3級以上の割合(%)	13.3	29.1	48.8	53.1	50.0	-
4年次生	学生数(人)	8	13	9	17	16	-
	うち3級以上(人)	1	1	6	9	8	5
	3級以上の割合(%)	12.5	7.7	66.7	52.9	50.0	-

アドミッション・ポリシー



長崎県立大学のアドミッション・ポリシー

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

求める学生像

- 人や自然を尊重できる人
- 何事にも好奇心をもち、積極的に挑戦したいと考えている人
- 目的をもって、忍耐強く努力したいと思っている人

- 長崎の歴史・文化や地域的特性に関心をもっている人
- 地域社会や国際社会に貢献したいと考えている人

このページの先頭へ↑

経営学部のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- 企業の仕組み、マーケティング、簿記・会計などに関心を持つ人
- 国際的に展開する企業活動や、日本企業の現場の仕組みに関心を持つ人
- 企画力と課題解決能力を学び、チームで良質な製品・商品・サービスを顧客に提供することに強い関心を持つ人
- 外国語を用いて、グローバルに活躍するビジネスパーソンを目指す人

このページの先頭へ↑

経営学科のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- 経営に関する専門知識を学び、企業を立ち上げたり、企業の成長に貢献したい人
- マーケティング・流通に関する専門知識を学び、小売・サービス・金融・運輸などの分野で活躍したい人
- 会計の専門的知識を学び、税理士や企業の経理部門で活躍したい人
- 経営に関する企画・立案能力を高めて、企業や地域社会の成長に貢献したい人

入学者選抜の基本方針

経営学科では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- 一般入試（前期日程）
基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科4科目）を課すとともに、個別学力検査等（英語）では、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
- 一般入試（後期日程）
基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科4科目）を課すとともに、小論文で、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
- 推薦入試（アカウンティングコース）
小論文で、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。
- 推薦入試
小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適正などを総合的に評価します。

- 帰国子女入試
小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。
- 社会人入試
小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。
- 私費外国人留学生入試
小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
面接では、日本語能力を評価するとともに、出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

[このページの先頭へ↑](#)

国際経営学科のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- 語学力向上に意欲を持ち、国際社会の中で活躍したい人
- 国際的な経営に関する専門知識を学び、グローバルに活動する企業で活躍したい人
- 他国の人とも協働しながら経営に関する企画・立案能力を高めて、国際社会の成長に貢献したい人

入学者選抜の基本方針

国際経営学科では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- 一般入試（前期日程）
基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科4科目）を課すとともに、個別学力検査等（英語）では、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
- 一般入試（後期日程）
基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科4科目）を課すとともに、小論文で課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
- 推薦入試
個別学力検査等（英語）で、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。
- 帰国子女入試
小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- 社会人入試

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- 私費外国人留学生入試

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、日本語能力を評価するとともに、出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

[このページの先頭へ↑](#)

地域創造学部のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- 地域社会や地域経済の課題に関心を持ち、その課題解決方法を学びたい人
- 積極的に地域に入って、課題の発見や分析を行いたい人
- 他者と協働してよりよい地域社会や地域経済を創造したい人

[このページの先頭へ↑](#)

公共政策学科のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- 地域や私たちの身の回りのさまざまな政策課題について習得した知識を活かして、地域の豊かな暮らしの構築に向けて貢献したい人
- 政策の企画・立案について習得した知識を活かして、行政や民間企業で活躍したい人
- 地域の諸問題を分析・考察するための知識やスキルを活用して、地域づくりに貢献したい人

入学者選抜の基本方針

公共政策学科では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- 一般入試（前期日程）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科5科目）を課すとともに、個別学力検査等（英語又は数学）では、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

- 一般入試（後期日程）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科5科目）を課すとともに、小論文で、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

- 推薦入試（県内離島高校区分）

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専

門分野に対する適正などを総合的に評価します。

- 推薦入試

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科5科目）を課すとともに、面接により、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適正などを総合的に評価します。

- 帰国子女入試

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- 社会人入試

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- 私費外国人留学生入試

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、日本語能力を評価するとともに、出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

[このページの先頭へ↑](#)

実践経済学科のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- 地域経済や企業の動向などの分析に興味・関心を持つ人
- 地域社会や企業において経済に関する実践的なスキルを活かして活躍したい人
- 経済学分野の実践的能力や立案能力を要する職種で活躍したい人
- 企業の国内外における取引や事業等においてグローバルな経済活動を目指す人

入学者選抜の基本方針

実践経済学科では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- 一般入試（前期日程）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科5科目）を課すとともに、個別学力検査等（英語又は数学）では、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

- 一般入試（後期日程）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科5科目）を課すとともに、小論文で課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

- 推薦入試

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- 帰国子女入試
小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。
- 社会人入試
小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。
- 私費外国人留学生入試
小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
面接では、日本語能力を評価するとともに、出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

[このページの先頭へ↑](#)

国際社会学部のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- 国際政治や経済など国際社会の諸事象や仕組みについて幅広い関心を持つ人
- グローバル化する現代社会における諸問題を解決しようとする意欲を持つ人
- 現代社会におけるメディアに関心を持ち、社会の様々な出来事に対して自らの考えを論理的に展開できる人
- 東アジアに関心を持ち、東アジア諸国を中心とした国際交流の推進に貢献したい人
- 英語や中国語などの外国語による高いコミュニケーション能力を習得する意欲を持つ人

入学者選抜の基本方針

国際社会学部では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、アドミッション・オフィス入試、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- 一般入試（前期日程、後期日程）
基礎学力の把握ため、大学入試センター試験（4教科5科目又は6科目、又は5教科5科目又は6科目）を課すとともに、個別学力検査等（英語）では、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
- アドミッション・オフィス入試（AO入試）
第1次選考では、出願書類に基づき、学科が求める学生像に合致しているか、学科を志望する理由が明確であるか、入学後の学習意欲や将来の展望が的確に示されているか、などの観点から評価します。
第2次選考では、小論文で課題に対する理解力、論理的思考力、表現力などの能力をみて、面接で出願書類を参考に、目的意識、学習意欲、学科が提供する専門分野に対する適性などを評価します。
- 推薦入試
小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- 帰国子女入試

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- 社会人入試

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- 私費外国人留学生入試

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

[このページの先頭へ↑](#)

情報システム学部のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- 情報技術や情報セキュリティ技術に強い関心を持つ人
- 高度情報化社会における諸問題について解決を図ろうとする意欲を持つ人

[このページの先頭へ↑](#)

情報システム学科のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- Web、モバイル、ネットワークなどの情報技術に強い関心を持つ人
- プログラミングやシステム構築などにより問題解決を図ろうとする意欲を持つ人
- 多様な情報メディアを活用して、コンテンツを制作する知識を深め、技術や感性を高めたい人

入学者選抜の基本方針

情報システム学科では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- 一般入試（前期日程、後期日程）
 - 基礎学力の把握ため、大学入試センター試験（5教科6科目又は7科目）を課すとともに、個別学力検査等（数学）では、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
- 推薦入試
 - 小論文では、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等

を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- 帰国子女入試

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- 社会人入試

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- 私費外国人留学生入試

本学科が示す要件等をすべて満たしていること条件に、面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

[このページの先頭へ↑](#)

情報セキュリティ学科のアドミッション・ポリシー

求める学生像

- 情報セキュリティに関する基本的な知識・技術を修得し、情報セキュリティ分野で活躍したい人
- Web、モバイル、ネットワークなどの情報技術に強い関心を持つ人
- プログラミングやシステム構築などにより問題解決を図ろうとする意欲を持つ人

入学者選抜の基本方針

情報セキュリティ学科では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- 一般入試（前期日程、後期日程）

基礎学力の把握ため、大学入試センター試験（5教科6科目）を課すとともに、個別学力検査等（数学）では、高等学校で得た基礎学力を前提に、理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。
- 推薦入試

小論文では、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。
- 帰国子女入試

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。
- 社会人入試

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

- 私費外国人留学生入試

本学科が示す要件等をすべて満たしていること条件に、面接では、調査書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、基礎知識、本学科が提供する専門分野に対する適性などを総合的に評価します。

[このページの先頭へ↑](#)

看護栄養学部のアドミッション・ポリシー

看護学科と栄養健康学科の学生は、単にその領域の科目を学習するだけでなく、国家試験を経て人々の健康に直接関わる職業に就くことを社会から期待されています。その基本は、憲法25条に定められているように国民が健康で文化的な生活を営むことができるよう、社会的使命を実践することにあります。本学部では、豊富な科学的専門的知識を習得するとともに大学生として幅広く学び、あらゆる年齢層のさまざまな健康状態の人々と接することができる豊かな人間性を育成することを教育目標としています。

求める学生像

- いのちの尊さを理解し、まじめに努力する人
- 人に対する思いやりを持ち、人の苦しみを共有できる人
- 科学を重視し、適確に物事を行える人
- 社会制度の変化に敏感かつ適正に対応できる人
- 協調性があり、他の職種の人々とチーム医療のできる人

[このページの先頭へ↑](#)

看護学科のアドミッション・ポリシー

看護学科では、生命の尊厳と人権の尊重を基本とし、生活する人々の健康問題の解決と生活の質の向上に向けて保健・医療・福祉を統合した看護ができる看護職、国際的視野をもち、専門職として看護の発展に自律的・創造的に貢献できる看護職の育成を目指しています。

そのため、「看護の対象である人間を理解し、生命の尊厳にもとづいた支援ができる能力」、「人々の健康状態を的確にとらえ、生活の質の向上を目指した看護ができる能力」、「保健・医療・福祉などの他の専門職の人々と連携しながら、看護の専門性を発揮した活動ができる能力」、「広い視野に立って考え、生涯に渡って学習を継続していくための基礎的な能力」を養うことを教育目標としています。

求める学生像

- いのちを大切に思う心と人間を深く理解しようとする姿勢を持っている人
- 疑問を持ち、自分から問題に取り組む意欲を持っている人

- ものごとを科学的に追究し、計画的に行動できる人
- 人間の多様性を認め、柔軟かつ建設的に考え行動できる人
- 人々との共同作業において協調性があり、率先して活動ができる人

入学者選抜の基本方針

看護学科では、一般入試（前期日程、後期日程）、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- 一般入試（前期日程、後期日程）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（5教科6科目又は7科目）を課すとともに、小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、提示した素材により、読解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接で、調査書等の出願書類を参考に、学習意欲、理解力、表現力、社会性等、本学科が提供する専門領域に対する適性などを総合的に評価します。
- 推薦入試

小論文で、高等学校で得た基礎学力を前提に、提示した素材により、読解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接で、志望理由書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、理解力、表現力、社会性等、本学科が提供する専門領域に対する適性などを総合的に評価します。
- 推薦入試（離島看護師特別枠）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（5教科6科目又は7科目）を課すとともに、面接で、志望理由書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、理解力、表現力、社会性等、本学科が提供する専門領域に対する適性などを総合的に評価します。
- 帰国子女入試

小論文で、日本の高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、提示した素材により、読解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接で、志望理由書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、理解力、表現力、社会性等、本学科が提供する専門領域に対する適性などを総合的に評価します。
- 社会人入試

小論文で、高等学校で習得される程度の基礎学力を前提に、提示した素材により、読解力、論理的思考力、表現力等を評価します。

面接で、志望理由書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、理解力、表現力、社会性等、本学科が提供する専門領域に対する適性などを総合的に評価します。
- 編入学入試

総合問題で、高等学校で得た基礎学力を前提に、提示した素材により、読解力、論理的思考力、表現力等を評価します。また、英語による記述試験を行います。

面接で、志望理由書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、理解力、表現力、社会性等、本学科が提供する専門領域に対する適性などを総合的に評価します。
- 私費外国人留学生入試

面接で、志望理由書等の出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、理解力、表現力、社会性、日本語による会話的表現力等、本学科が提供する専門領域に対する適性などを総合的に評価します。

[このページの先頭へ↑](#)

生命科学に立脚した「食と健康」に関する専門的知識や技能を保持した、健康社会実現のために社会の幅広い分野で貢献できる管理栄養士を育成します。特に、「地域の人々の健康と福祉の向上に貢献できる問題解決能力を持った人材」、「人々の健康維持・増進と疾病の予防・回復に貢献できる栄養マネジメント・アセスメント能力を持った人材」、「食品開発、食糧資源の有効利用、食品衛生管理などの分野で活躍できる人材」や「次世代社会を拓く子供たちの食育を担う人材」育成等を教育目標としています。

求める学生像

- 身近な「食と健康」を通して健康・福祉社会の創出に貢献したい人
- 保健・医療・健康分野や県や市町村などの管理栄養士を志す人
- 食品開発、食品の安全性や機能性などに興味を持っている人
- 子供たちの食育を通して健康生活づくりに寄与したい人
- 生命科学に根ざした「食と健康」を科学するスペシャリストになりたい人

入学者選抜の基本方針

栄養健康学科では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

- 一般入試（前期日程）
基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（5教科7科目）を課すとともに、個別学力検査で、高等学校で得た化学の基本的な知識と理解力について評価します。
- 一般入試（後期日程）
基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（5教科6科目又は7科目）を課すとともに、個別学力検査（面接）で、志望動機や将来の展望などとともに、高等学校の一般的学習を前提とした栄養・健康・生命科学に関する時事的諸問題についての理解力や理科学的思考などを総合的に問います。
- 推薦入試
和文及び英文の小論文で、課題に対する基礎的知識、読解力、分析力、論理的思考力、表現力等を評価します。
面接で、志望動機、学科への関心、生命科学への関心、健康観、将来展望、高校生活等の質疑応答から、目的意識と意欲を総合的に判断します。
- 帰国子女入試
小論文で、課題に対する基礎的知識、読解力、分析力、論理的思考力、表現力等を評価します。英語に関する問題も含みます。
面接で、志望動機、学科への関心、生命科学への関心、健康観、将来展望、高校生活等の質疑応答から、目的意識と意欲を総合的に評価します。
- 社会人入試
小論文で、課題に対する基礎的知識、読解力、分析力、論理的思考力、表現力等を評価します。英語に関する問題も含みます。
面接で、志望動機、学科への関心、生命科学への関心、健康観、将来展望、高校生活等の質疑応答から、目的意識と意欲を総合的に評価します。
- 私費外国人留学生入試
学力試験では、化学の基本的な知識と理解力について評価します。
面接で、志望動機、学科への関心、生命科学への関心、健康観、将来展望等の質疑応答から、目

[このページの先頭へ↑](#)

経済学研究科（産業経済・経済開発専攻）のアドミッション・ポリシー

本研究科は、専門化・地域化・国際化という教育理念の下、地域社会に貢献できる高等専門教育研究機関および生涯教育機関（キャリア・アップ教育機関）として寄与することを目的とし、現実の産業経済社会に対して様々な側面から問題発見・問題解決の能力を持つ人材の育成を目標とする。

1. 産業経済・経済開発に関する理論および分析技法の理解の上に、数量的・定性的な分析能力を持った研究者の育成。
2. 経済・産業に幅広い視野と高度専門知識を持った産業エキスパートの育成。
3. 税務・会計に関する高度専門知識を持った専門的職業人の育成。
4. 国内外の経済活動に関する高度専門知識の修得の上に、より優れた判断力と指導力を持った社会的リーダーの育成。
5. 外国人留学生の人材養成によるグローバルなネットワークの構築の上に、国際社会に貢献できる人材の育成。

産業経済・経済開発専攻の基本目標

1. グローバルな問題発想のできる専門的職業人の養成
従来の学問分野の枠を超えたグローバルな発想ができるだけでなく、社会の多様な方面で活動しうる高度な能力と豊かな学識を有する人材を養成する。
2. 地域社会に根差した大学院
長崎県という地域の特性を配慮した研究・教育に重点を置く。地域の産業技術の向上に対応しうる技術の指導や各種職業資格取得に役立つ教育を行う。
3. 国際的に貢献しうる人材の育成
国際交流の伝統を有する長崎県の特性を活かし、新たなる国際交流のための有能な人材を育成する。

求める学生像

- 高度な学術的専門知識を身につけ、教育・研究に携わりたい人
- 地域産業社会への貢献を考えている人
- 地域社会の多様な方面でリーダー的な活躍を考えている人
- グローバルな発想を持ち、国際連携・国際貢献に関心を持つ人
- 税理士を目指す人
- 中学校教諭専修免許（社会）・高等学校教諭専修免許（地理歴史・公民・商業）を取得したい人

[このページの先頭へ↑](#)

国際情報学研究科のアドミッション・ポリシー

本研究科は、国際性、学際性、先端性を重視した教育研究に基づく幅広い知識と技術を合わせ持った高度専門職業人の育成を図り、地域社会や国際社会へ貢献できる大学院（修士課程）を目指しています。

具体的には、IT革命の急進展やそれに伴うグローバル化の深化などによる社会の激しい変化に対応できる人材の育成や、情報と社会との関わりについての幅広い

知識を修得し、活用できる能力を有した人材の育成を行います。また、最先端の情報技術を駆使した情報システムの高度な知識や技術を修得し、高度情報化社会を担うことができる専門職業人の育成をも目指します。さらに、時代や社会の要請に応えることができる高度な知識と技術を有し、国際社会、地域社会、企業、官庁などで中心的・指導的役割を担える高度専門職業人の育成や、高度な語学力とコミュニケーション能力を有し、国内外における国際的場面で活躍できる人材の育成を目指します。

求める学生像

- 国際関係に興味を持って、国際機関や多国籍企業で働き、国際社会に貢献したいという意欲のある人
- 歴史文化や異文化間コミュニケーションに関心を持ち、これらの分野の専門知識やコミュニケーション能力を通して、地域社会や国際社会に貢献したいという意欲のある人
- 情報技術や情報デザインに興味を持って、高度な技術開発に貢献したいという意欲のある人
- 社会と情報との関わりに関心を持って、高度情報化社会に貢献したいという意欲のある人
- 高度な関連知識を修得し、中学校教諭専修免許（英語・社会）、高等学校教諭専修免許（英語・公民・情報）の取得を目指す人

[このページの先頭へ↑](#)

国際交流学専攻のアドミッション・ポリシー

本専攻は、国際性と学際性を重視した教育研究に基づき、現代の複雑な国際社会の諸問題を分析するための学識を養い、世界的な視野に立って問題を解決できる高度専門職業人の養成を目指します。また、高度な語学力とコミュニケーション能力を有した人材、比較文化、歴史、文学などに精通した国際性を有する人材の育成も行います。

具体的には、国際社会、言語、文化について国際理解とそれに基づく国際協調の精神を持ち、国際社会に貢献できる高度専門職業人の育成や外国語でコミュニケーションが十分でき、国際的に活躍できる人材の育成を行います。また、国際機関、多国籍企業、NGOなどで語学力と国際関係の知識を活用し、国際社会に貢献できる高度専門職業人の育成、および国際交流を目的とした団体、官庁や地方公共団体において国際関係の分野で活躍できる人材の育成を目指します。

求める学生像

- 国際社会の様々な問題に興味を持ち、国際機関や多国籍企業、NGOを舞台に世界的な視野に立って問題を解決し、国際社会に貢献したいという意欲のある人
- 国際交流の基礎をなす言語、歴史、異文化間コミュニケーションなどに関心を持ち、これらの分野の専門知識やコミュニケーション能力を使って、国内および国際社会で活躍したいという意欲のある人
- 官庁、地方公共団体などで国際交流の分野で働きたいという意欲のある人
- 高度な関連知識を修得し、中学校教諭専修免許（英語・社会）、高等学校教諭専修免許（英語・公民）の取得を目指す人

情報メディア学専攻のアドミッション・ポリシー

本専攻は、先端性と学際性を重視した教育研究に基づき、情報と社会の関わりについての幅広い知識を持った人材の育成を目指します。また、最先端の情報技術を修得し、活用できる人材、情報システムを創造的に構築できる高度な知識と技術を持った専門職業人の養成を行います。

具体的には、情報と社会、経済、法などとの関わりについて幅広い知識を修得し、様々なメディアを介した情報が社会に及ぼす影響を分析できる能力を有した人材の育成や、情報システムの開発や情報コンテンツをデザインする能力を修得し、高度情報化社会において指導的立場に立つことができる専門職業人の育成を目指します。また、企業、官庁、地方公共団体において、情報技術の分野で中心的な立場に立てる人材の育成も行います。

求める学生像

- 情報システムの開発や高度な画像処理技術などに関心を持ち、最先端の情報技術の開発に意欲のある人
- 画像、映像、音声などのコンテンツをデザインすることに興味を持ち、高度な技術開発に貢献したいという意欲のある人
- 社会、経済、法など情報との関わりに関心を持って、情報が社会に及ぼす影響について研究し、高度情報化社会に貢献したいという意欲のある人
- 企業、官庁、あるいは地方公共団体において情報技術の分野で指導的役割を担おうとする意欲のある人
- 高度な関連知識を修得し、高等学校教諭専修免許（情報）の取得を目指す人

人間健康科学研究科のアドミッション・ポリシー

本研究科は、本学が公立大学であることを強く意識し、大学の知的財産を地域社会や住民・企業等に還元することが大きな責務であると認識しています。

島嶼の多い長崎県では過疎化と高齢化が他の都道府県より進んでおり、保健・医療・福祉関係の出費の比率は極めて高くなっています。これらの領域における課題解決のための高度な専門的知識や技術を創造する研究者および高度専門職業人を育成することが本研究科の教育目標です。

このことを踏まえ、県民の健康の保持増進ならびに疾病の予防に寄与する最新の知識や技術を研究開発する能力、最新の知識や技術を活用して県民の健康水準を向上させていく能力、地域の専門職と連携して県民の生活習慣に変革をもたらす政策を考案し、保健・医療・福祉・介護システムを変革する能力、健康保持増進の視点に立って次世代の専門職を育てる能力などをもった高度専門職業人を育成すると共に、地場産業の発展・活性化に寄与する研究・開発に取り組みます。その育成の対象は、学部卒の一般学生のみならず、社会人、外国人留学生などを含んでいます。

- 保健・医療・福祉・介護領域において社会に貢献したい人
- 柔軟な発想を持ち、応用力、適応力、分析力、行動力に富んだ人
- 科学技術の進歩を人の健康や生活のために積極的に調製・活用する社会性を身に付けたい人
- 高度の専門知識や技術を習得したスペシャリストを目指す人

[このページの先頭へ↑](#)

看護学専攻のアドミッション・ポリシー

少子高齢化の加速や保健・医療・福祉のコストの増加は、人々に疾病の予防の意識や医療費の高騰に関する関心を高めてきています。本研究科は、運動と食事に関する科学としての栄養科学と、健康の回復と向上に関する看護の科学の総合により、国民の保健・医療に関する多角的・総合的な研究を可能とし、本県のみならず将来の日本や世界の保健・医療の一翼を担うことを目指しています。

今日の超高齢社会に対応するための社会保障制度改革においては、健康のリスクマネジメントや保健医療のケアシステム構築および医療の制度改革を推進できる実践力のある人材の養成が期待されています。

また、生活習慣病の予防や緩和ケア等の保健・医療の課題を解決するためには、医師のみでなく、看護職等医療従事者の資質の向上がなければなりません。本学の看護学専攻では、これらの医療の改革にリーダーシップを発揮する改革者としての資質を持った者を養成し、高度専門医療のみならず地域医療、国際保健等において貢献することを確信しています。

平成28年度より看護学専攻に「看護学実践分野」と保健師の国家資格の受験資格が得られるとともに修士の学位が得られる「公衆衛生看護学分野」を設置しました。

これらの看護学専攻の分野の入学者は、大学の学部の卒業生とともに、看護の実践経験を積んだ社会人も歓迎します。初学者と経験者がお互いにディスカッションし刺激し合うことで学びを深めるカリキュラムを用意しています。社会人は勤務を継続して履修できるように夜間・休日開講など、開講時間に配慮し、長期履修制度も設けています。

求める学生像

- ひとに関心があり、広く人文科学および自然科学の知見に興味がある人
- 論理的に思考し、分析できる人
- 学習意欲が旺盛で探究心の強い人
- ねばり強く、研究的な取り組みのできる人
- 看護学の実践の発展に貢献したい人
- 思慮深く、協働できる人
- 将来、保健看護学領域において指導者を目指す人

[このページの先頭へ↑](#)

栄養科学専攻のアドミッション・ポリシー

本専攻は、急速な少子高齢化社会の推移に対応できる「食と健康」を中心とした領域の高度専門的職業人、教育指導者、研究者を養成するとともに、地域住民の保健・医療・福祉の向上ならびに地場産業の発展・活性化などに寄与することを目的としています。

このため、断片化した高度の専門知識を統合理解し、新しい課題に向けての栄養学的基礎知識を形成することにより、加齢や疾病による生体機能の変化を栄養学的見地から理解し、健康の保持・増進や生活習慣病の予防に役立てることを目標に取り組んでいきます。またヒトを対象とした栄養学研究を通して、実生活における栄養学的、健康科学的問題点を明らかにして、それらに対応するための有用な方策を探り、その成果を社会に還元することを目標に教授します。こうした教育・研究を通して、高度の専門的学力と研究能力を持ち、健康施策への応用可能な研究、食品・医薬関連産業における商品開発ならびに健康・保健・医療行政を推進できる高度専門職業人を育成します。

求める学生像

- 病院等医療機関におけるチーム医療で栄養専門家として活躍したい人
- 保健・医療・福祉・介護等の領域で地域栄養活動に従事したい人
- 食品・医薬品の開発・設計などの研究または普及啓発活動を行いたい人
- 管理栄養士・栄養士養成施設における教育・研究に携わりたい人
- 公的試験・研究機関等において栄養・食品分野の研究を行いたい人

経営学部

長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

経営学部

教育目標

経営学部では、現代の国内外の企業経営に必要な知識・知見と実践力を身に付け、幅広い視野で経営上の課題を解決できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 経営に関する専門的・総合的な視野を備え、企業の経営における様々な課題を理解し、分析・解決できる人材
- 外国語を用いたコミュニケーション能力と国際的な視野を備え、グローバルに活躍できる人材

ディプロマポリシー

経営学部では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学位を授与します。

1. 経営に関する基礎理論と企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識
2. 経営、マーケティング、会計等に関する専門的な知識をもとに、経営上の諸問題を発見・分析・解決できる実践的能力
3. 外国語を用いたコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力
4. 他者の意見や人格を尊重しながら提案・行動をすることができる能力

カリキュラムポリシー

経営学部では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 経営に関する理論や企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識を修得させるため、学部共通科目として会計学、経営学、マーケティングや経済に関する基礎的な科目を配置する。
2. 経営上の諸問題を理解するために必要な専門的知識を修得させるため、基幹科目として企業や経営全般に関する科目を配置する。
3. 経営上の諸問題を発見・分析・解決し、ビジネスの場で活躍できる実践能力を育成するため、発展科目として経営・国際経営・会計等関連科目、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させ、それまで学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養させるため、ゼミナール科目を配置する。
5. 国際経営学科では、全学教育と専門教育の連携により語学力を向上させ、英語を用いたコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力向上させるため、英語による授業等の科目を配置する。

経営学科

教育目標

経営学科では、現代の企業経営に必要な知識・知見と実践力を身に付け、幅広い視野で様々な企業の課題に主体的に対応できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 経営、マーケティング、金融等に関する知識・知見を有し、企業の各分野において活躍できる人材
- 会計、簿記、税法等に関する専門的知識をもとに、企業や団体の経理部門で活躍できる人材
- 経営、会計等に関する知識・知見を有し、教員として活躍できる人材

ディプロマポリシー

経営学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（経営学）の学位を授与します。

1. 経営に関する基礎理論と企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識
2. 経営、マーケティング等に関する知識・知見をもとに、経営上の諸問題を発見・分析・解決できる実践的能力
3. 会計、簿記、税務等に関する専門的知識
4. 他者の意見や人格を尊重し、自分の考えを伝えることができる能力

カリキュラムポリシー

経営学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 経営に関する理論や企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識を修得させるため、学部共通科目として会計学、経営学、マーケティングや経済に関する基礎的な科目を配置する。
2. 経営上の諸問題を理解する専門的知識を修得させるため、基幹科目として企業や経営全般に関する科目並びに会社法や簿記に関する科目を配置する。
3. 経営上の課題を発見・分析・解決するための知識を修得させるため、発展科目として経営学・マーケティング分野及び会計関連分野の科目を配置する。また、それらの知識を統合し実践能力を育成するため、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させるため、基礎演習及び専門演習を配置する。

5. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

国際経営学科

教育目標

国際経営学科では、現代の企業経営に必要な知識・知見と実践力及び国際的な経営感覚を身に付け、グローバルな視点で様々な企業の課題に主体的に対応できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 経営に関する知識・知見及び外国語を用いたコミュニケーション能力を有し、東アジア地域をはじめ海外展開をする企業や団体で活躍できる人材

ディプロマポリシー

国際経営学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（経営学）の学位を授与します。

1. 経営に関する基礎理論と企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識
2. 海外に事業展開している企業の仕組みやグローバルな環境を理解し、国際的なビジネスの場で活用できる実践的能力
3. 外国語を用いたコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力
4. 他者の意見や人格を尊重し、自分の考えを伝えることができる能力

カリキュラムポリシー

国際経営学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 経営に関する理論や企業が活動する社会の仕組みについての基本的な知識を修得させるため、学部共通科目として会計学、経営学、マーケティングや経済に関する基礎的な科目を配置する。
2. 経営上の諸問題を理解する専門的な知識を修得させるため、基幹科目として企業や経営全般に関する科目並びにグローバルな経営に関する科目を配置する。
3. 海外に事業展開している企業の仕組みやグローバルな環境を理解し、国際的なビジネスの場で活躍するために必要な知識を修得させるため、発展科目として国際経営及び経営・経済関連分野の科目を配置する。また、それらの知識を統合し実践能力を育成するため、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション能力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させるため、基礎演習及び専門演習を配置する。
5. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。
6. 全学教育と専門教育の連携により語学力を向上させ、英語を用いたコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を向上させるため、英語による授業等の科目を配置する。

地域創造学部

長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

地域創造学部

教育目標

地域創造学部では、地域の発展に必要な知識・知見と実践力を身に付け、幅広い視野で地域の課題を解決できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 地域社会や地域経済が抱える様々な課題を専門的、総合的視野に立って理解し、分析・解決できる人材
- リーダーシップを有し、他者と協働して地域社会や地域経済のあり方を創造できる人材

ディプロマポリシー

地域創造学部では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学位を授与します。

1. 地域の諸課題を理解し、調査・分析できる能力
2. 政策や企画を立案するプロセスを修得し、公的団体等の政策を企画・立案できる能力
3. 経済に関する知見をもとに、地域経済動向を分析できる能力
4. 地域企業の海外事業展開などをグローバルな視野で推進できる能力
5. 他者の意見や人格を尊重しながら提案・行動をすることができる能力

カリキュラムポリシー

地域創造学部では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 地域や経済に関する知識を修得させるため、学部共通科目として地域経済論等の基礎的な科目を配置する。また、地域創造学部の教育内容を概観するため、「地域創造概論」を配置する。
2. 公共政策や基礎的な経済理論を理解するために必要な知識を修得させるため、基幹科目として公共政策や地方政治、経済学に関する科目を配置する。
3. 地域の諸問題に関する見識を高めさせるとともに、それらの分析に必要なスキルを修得させるため、発展科目として高度な政策関連科目及び経済関連科目、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させ、それまで学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養させるため、ゼミナール科目を配置する。

公共政策学科

教育目標

公共政策学科では、公共という視点に立って、政策の企画・立案及び評価に関する知識・知見と実践力を身に付け、幅広い視野で地域の政策課題を解決できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 公共政策に関する知識・知見を有し、地方自治体等において活躍できる人材
- 公共政策に関する知識・知見を有し、教員として活躍できる人材

ディプロマポリシー

公共政策学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（公共政策学）の学位を授与します。

1. 地域が抱える諸問題を理解する能力
2. 社会調査及び分析手法を修得し、諸分野に活用できる能力
3. 政策や企画を立案するプロセスを修得し、公的団体等の政策を企画・立案できる能力
4. 他者の意見や人格を尊重し、自分の考えを伝えることができる能力

カリキュラムポリシー

公共政策学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 地域創造学部の教育内容を概観するための「地域創造概論」や、地域や経済に関する知識を修得させるため、学部共通科目として地域経済論等の基礎的な科目を配置する。
2. 地域社会が抱える様々な課題を分析・考察し、政策や企画を立案するプロセスを理解させるため、基幹科目として必要な科目を配置する。
3. 地域の諸課題に関する見識を高めるため、発展科目として高度な政策関連科目及び公共政策の諸分野に関する科目を配置する。また、それらの知識を統合し実践的能力を育成するため、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション能力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させるため、基礎演習及び専門演習を配置する。
5. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

実践経済学科

教育目標

実践経済学科では、企業活動における企画・立案能力を有し、地域経済の動向を分析しその発展に寄与できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 経済学や地域経済に関する知識・知見を有し、地域企業において活躍できる人材
- 経済学や地域経済に関する知識・知見を有し、教員として活躍できる人材

ディプロマポリシー

実践経済学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（経済学）の学位を授与します。

1. 地域経済動向などの分析に必要な知識とスキル
2. 地域経済が抱える諸課題に関する分析能力や解決能力
3. 地域企業の海外事業展開などをグローバルな視野で推進できる能力
4. 他者の意見や人格を尊重し、自分の考えを伝えることができる能力

カリキュラムポリシー

実践経済学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 地域創造学部の教育内容を概観するための「地域創造概論」や、地域や経済に関する知識を修得させるため、学部共通科目として地域経済論等の基礎的な科目を配置する。
2. 地域経済動向などの分析に必要な知識を修得させるため、基幹科目として基礎的な経済理論を理解するための科目を配置する。
3. 経済の諸課題に関する見識を高めるため、発展科目として高度な経済関連科目並びに地域経済及び企業経済関連科目を配置する。また、それらの知識を統合し、実践能力を育成するため、実践科目を配置する。
4. コミュニケーション能力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させるため、基礎演習及び専門演習を配置する。
5. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

国際社会学部

長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

国際社会学部

教育目標

国際社会学部では、国際社会及びメディアに関する知識と実践力を身に付け、グローバルな視野での課題解決能力及び情報発信能力を有する人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- 政治、経済、社会をグローバルな視野でとらえ、地域社会や国際社会で活躍できる人材
- 高いコミュニケーション能力と情報収集・分析及び批判的・論理的思考能力を備え、自治体や企業の国際部門・マスコミ・多国籍企業等で活躍できる人材
- 東アジア地域に対する広い知見を深め、東アジア諸国を中心とした国際交流の推進や社会の発展に寄与できる人材
- 国際社会に関する知識を有し、教員として活躍できる人材

ディプロマポリシー

国際社会学部では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（国際社会学）の学位を授与します。

1. 国際社会の構造、現状及び動向について基本的な知識を修得し、現代社会における諸問題を多面的に理解する能力
2. グローバル化する現代社会の諸課題を自ら発見し、解決に導く能力
3. メディアに関する基礎知識を修得し、自らの意見を発信する能力
4. 国際感覚と高い外国語能力に裏づけられたコミュニケーション能力を有し、地域社会や国際社会のために積極的に働きかけができる能力

カリキュラムポリシー

国際社会学部では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 国際社会に関する知識を修得させるため、入門科目として国際関係やメディア社会に関する基礎的な科目を配置する。
2. 国際社会が直面する問題の理解を目指し、基幹科目として国際政治学、国際経済学、メディア社会学、マスコミュニケーション論等の学術的知識を修得させる科目を配置する。
3. 国際社会を多角的に分析・考察できるように、発展科目としてグローバル社会の研究、地域研究、メディア研究に関する科目を配置する。
4. 論理的な表現力とコミュニケーション力を育成するための演習科目、専門知識を実践的に活かすための実践科目を配置する。
5. コミュニケーション能力（意見の発信・傾聴）、協働する力を向上させるため、基礎演習及び専門演習を配置する。
6. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。
7. 外国語教育については、全学教育科目及び専門教育において英語または中国語を必修とし、コミュニケーション能力の向上のため、外国語による授業、留学生との討論、発表等の科目を配置する。

情報システム学部

長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

情報システム学部

教育目標

情報システム学部では、情報システムに関する知識と実践力を身に付け、高度情報化社会における課題を解決できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- システム開発にかかる知識や技術を有し、情報技術分野で幅広く活躍できる人材
- 感性豊かな実践的創造力を有し、情報技術を駆使して創造的デザイン分野で活躍できる人材
- 情報セキュリティに関する知識や技術を有し、情報セキュリティ分野で活躍できる人材

ディプロマポリシー

情報システム学部では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学位を授与します。

1. 情報技術者として必要なネットワーク、データベース、OS、プログラミング、システム開発等に関する知識や技術
2. CGや映像、サウンドなどの各種コンテンツを制作するための感性豊かな実践的創造力
3. 情報セキュリティ分野において活躍するための基本的な知識や技術
4. 高度情報化社会における諸問題を自ら発見し、解決する能力

カリキュラムポリシー

情報システム学部では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 情報技術者として身につけておくべき知識や技術を修得させるため、学部共通科目として情報数理

やIT技術に関する基本的な科目を配置する。

2. 情報システム学科では、プログラミングやコンテンツ制作に関する知識を深めるため、学科専門科目として情報システムに関する応用科目と情報デザインに関する科目を配置する。
3. 情報セキュリティ学科では、セキュリティに関する知識を深めるため、学科専門科目として情報セキュリティ技術とセキュリティマネジメントに関する科目を配置する。
4. 専門知識を修得しながら、コミュニケーション能力、課題解決能力及び協働する力を身につけさせるため、演習科目を配置する。
5. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

情報システム学科

教育目標

情報システム学科では、情報システムに関する広い視野と知識を備え、システム開発のプロフェッショナルとして活躍できる人材を育成します。具体的には次のような分野で活躍できる人材です。

- システム開発にかかる知識や技術を有し、情報技術分野で幅広く活躍できる人材
- 感性豊かな実践的創造力を有し、情報技術を駆使してデザイン分野で活躍できる人材

ディプロマポリシー

情報システム学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士（情報システム学）の学位を授与します。

1. 情報技術者として必要なネットワーク、データベース、OS、プログラミング、システム開発等に関する知識や技術
2. CGや映像、サウンドなどの各種コンテンツを制作するための感性豊かな実践的創造力
3. 高度情報化社会における諸問題を自ら発見し、解決する能力

カリキュラムポリシー

情報システム学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 情報技術者として身につけておくべき知識や技術を修得させるため、学部共通科目として情報数理やIT技術に関する基本的な科目を配置する。
2. プログラミングやコンテンツ制作に関する知識を深めるため、学科専門科目として情報システムに関する応用科目と情報デザインに関する科目を配置する。
3. 専門知識を修得しながら、コミュニケーション能力、課題解決能力及び協働する力を身につけさせるため、演習科目を配置する。
4. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

情報セキュリティ学科

情報セキュリティ学科では、情報セキュリティ全般にわたる広い視野と知識を備え、情報セキュリティのプロフェッショナルとして活躍できる人材を育成します。具体的には次ような分野で活躍できる人材です。

- 情報セキュリティに関する知識や技術を有し、企業や行政などの情報セキュリティ分野で活躍できる人材

ディプロマポリシー

情報セキュリティ学科では以下の能力等を有し、所定の単位を修得した者に学士(情報セキュリティ学)の学位を授与します。

1. 情報セキュリティ分野において活躍するための基本的な知識や技術
2. 情報技術者として必要なネットワーク、データベース、OS、プログラミング、システム開発等に関する知識や技術
3. 高度情報化社会における諸問題を自ら発見し、解決する能力

カリキュラムポリシー

情報セキュリティ学科では、教育目標を実現するため、以下のような方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 情報技術者として身につけておくべき知識や技術を修得させるため、学部共通科目として情報数理やIT技術に関する基本的な科目を配置する。
2. セキュリティに関する知識を深めるため、学科専門科目として情報セキュリティ技術とセキュリティマネジメントに関する科目を配置する。
3. 専門知識を修得しながら、コミュニケーション能力、課題解決能力及び協働する力を身につけさせるため、演習科目を配置する。
4. それまでに学んだ全てを統合し、課題の設定・調査・分析・考察・解決法の提案等の能力を涵養するため、卒業論文の作成を課す。

看護栄養学部

長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

看護栄養学部

教育目標

看護栄養学部は、統合的な学習体験を積み重ね、創造的な思考力を身につけることで、看護や栄養に関する高度な専門知識と実践能力を持ち、人びとの健康と福祉の向上に貢献するとともに、あらゆる年齢層のさまざまな健康状態の人びとと接することができる豊かな人間性を持った人材を育成することを目指します。

ディプロマポリシー

1. 看護師、管理栄養士の国家資格を得て、高度な専門知識と実践能力を駆使して人びとの健康と福祉の向上に貢献できる。
2. 食の知識が豊富な看護師、医療や看護の知識が豊富な管理栄養士として、「チーム医療」の一員として活躍できる。
3. 看護の知識や技術が豊富な養護教諭、「食と健康」の中核的役割を担う栄養教諭および学校栄養職員として、教育現場で活躍できる。
4. 看護や地域保健、栄養の分野で活躍する高度専門職業人、研究者、教育者をめざすことができる能力を有する。

看護学科

教育目標

看護学科は、生命の尊厳と人権の尊重を基本とし、生活する人々の健康問題の解決と生活の質の向上に向けて保健・医療・福祉を統合した看護ができる看護職、国際的視野をもち、専門職として看護の発展に自律的・創造的に貢献できる看護職の育成を目指します。

そのため、「看護の対象である人間を理解し、生命の尊厳にもとづいた支援がで

きる能力」、「人々の健康状態を的確にとらえ、生活の質の向上を目指した看護ができる能力」、「保健・医療・福祉などの他の専門職の人々と連携しながら、看護の専門性を発揮した活動ができる能力」、「広い視野に立って考え、生涯に渡って学習を継続していくための基礎的な能力」を養うことを教育目標としています。

ディプロマポリシー

1. 人間性豊かな看護職として、看護の対象である人々を生き方や多様な価値観を持つ個人として理解することができる。
2. 人々の健康ニーズ(健康増進、疾病予防・早期発見、健康回復、安寧な人生の看取り)に対応できる基礎的看護実践能力を有する。
3. 健康支援に関わる保健・医療・福祉等他職種との連携の必要性と看護職の役割について理解し、人々の健康生活を支える基礎的看護実践力を有する。
4. 看護専門職として、生涯にわたり看護の質向上へ向け自己学習、自己研鑽できる基礎的能力を有する。
5. 保健・医療・福祉の分野で看護サービスの質向上に寄与できるリーダーシップの基礎的能力を有する。
6. 所定の条件を満たすことにより、養護教諭一種の資格を得て、看護職としての専門性を備えた教育職として活躍できる。

カリキュラムポリシー

1. 教養教育の充実をはかり、人間性豊かな看護職養成のために全学教育科目単位を24単位以上とする。
2. 看護栄養学部の特長を活かした学部共通科目を構成し、食と運動について理解した上で看護職として実践に活かすことができる科目を設置する。
3. 看護専門職としての実践力を備えた看護職養成のため、カリキュラムおよび学習内容の順序性を考慮したカリキュラム編成とする。
4. 地域で暮らす人々の生活と健康との関係を理解したうえで役割が果たせるように、保健医療福祉の連携と看護の役割について講義、演習、実習を通して理解できるように構成する。
5. 保健師養成を大学院教育とするが、学部における看護師養成においても地域における人々の生活の理解と健康教育支援の科目を設置する。
6. 看護職として基礎的学習の統合として「しまの保健・医療・福祉」「しまの健康実習」「災害看護学」「災害看護学実習」を位置づける。
7. 養護教諭免許取得希望者で所定の条件を満たす学生のために、養護教諭1種免許取得のカリキュラムを設置する。

カリキュラムツリー

栄養健康学科

教育目標

栄養健康学科は、生命科学に立脚した「食と健康」に関する専門的知識や技能を保持した、健康社会実現のために社会の幅広い分野で貢献できる管理栄養士の育成を目指します。特に、「地域の人々の健康と福祉の向上に貢献できる問題解決能力を持った人材」、「人々の健康維持・増進と疾病の予防・回復に貢献できる栄養マ

ネジメント・アセスメント能力を持った人材」、「食品開発、食糧資源の有効利用、食品衛生管理などの分野で活躍できる人材」や「次世代社会を拓く子供たちの食育を担う人材」育成等を教育目標としています。

ディプロマポリシー

1. 「食と健康」に関する生命科学・健康科学の基本的・最新の知識および技術を修得しており、それらの実践的展開に必要な能力を有する。
2. 病院や高齢者福祉施設等の管理栄養士として、個々の対象者の病態や栄養状態の特徴に基づく栄養ケアプランの作成、実施、評価の総合的なマネジメント能力を有する。
3. 学校の栄養教諭・栄養職員および保育施設等の管理栄養士として、子供たちへの食育を通し、健康的な成長・発達を支援する能力を有する。
4. 保健所・市町村等の管理栄養士として、地域社会の健康保持・増進および疾病予防に関するマネジメント能力を有する。
5. 食品の研究・開発や食品衛生管理等の分野で活躍できる能力を有する。

カリキュラムポリシー

1. 初年次に栄養専門家教育の導入科目として「管理栄養士活動論」を設け、専門科目の理解の前提となる基礎科目として、「基礎化学」および「基礎生物学」を設置する。また、各種機器分析法の基礎的な原理と分析技術の理解を深める「機器分析演習」を設置する。
2. 看護栄養学部の特長を活かした学部共通科目を構成し、医療や看護の知識について理解した上で管理栄養士として実践に活かすことができる科目を設置する。
3. 専門基礎科目としての『社会・環境と栄養』『生命と健康』『食べ物と健康』の各分野では、講義とそれらの実験・実習を設置し、栄養学を学ぶための基礎知識・技術の修得および生命科学への関心を養う。
4. 栄養学の基幹となる専門科目としての『栄養学の基礎』をはじめ、『個人と栄養』および『栄養教育・指導』の各分野では、講義や実験・実習・演習を通し、専門知識・基本技術の修得を行う。
5. 栄養学の実践的な専門科目としての『臨床栄養』『地域栄養』『フードマネジメント栄養』の各分野では、講義および実習を通し、各職域の管理栄養士として必要な高度な専門知識と技術の修得を行う。
6. 学内において各専門科目で修得した知識と技術を統合し、総合演習を経て、病院、保健所、学校・福祉施設等の協力のもと学外での実習(臨地実習)を行い、社会性や協調性および問題解決能力を養う。
7. 本学教員の研究・教育専門分野に関わる「卒業研究」を通して最新の研究を行い、管理栄養士育成のみならず企業への就職や将来の研究者も視野に入れ、研究計画の立案力、創造力、総括力を養い、併せて実験または調査研究から得られたデータの解析・洞察の能力を養う。

経済学研究科

長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

経済学研究科

教育目標

経済学研究科は、専門化・地域化・国際化という教育理念の下、地域社会に貢献できる高等専門教育研究機関および生涯教育機関（キャリア・アップ教育機関）として寄与することを目的とし、現実の産業経済社会に対して様々な側面から問題発見・問題解決の能力を持つ人材の育成を目指します。

1. 産業経済・経済開発に関する理論および分析技法の理解の上に、定量的・定性的な分析能力を持った研究者の育成。
2. 経済・産業に関する幅広い視野と高度専門知識を持った産業エキスパートの育成。
3. 税務・会計に関する高度専門知識を持った専門的職業人の育成。
4. 国内外の経済活動に関する高度専門知識の修得の上に、より優れた判断力と指導力を持った社会的リーダーの育成。
5. 外国人留学生の人材養成によるグローバルなネットワークの構築の上に、国際社会に貢献できる人材の育成。

ディプロマポリシー

21世紀の知識基盤社会を迎え、産業経済・経済開発などの分野においても「専門化」、「情報化」、「国際化」という現代社会の要請に適応する人材養成や高等専門教育などが求められている。このような状況の中で、本研究科の修了生は、産業界、官公庁、あるいは研究分野からの幅広い人材養成ニーズに対応し、現実の産業地域社会に対して様々な側面から課題探究能力を備え持つ高度な専門職業人としての能力を有する。

1. 産業・経営領域で学位を取得した学生は、産業・経済に関する広い視野と、高度な専門知識を持ち、産業分野における活力創出のニーズに応える高度な専門職業人としての能力を有する。また、税理士などの国家資格を取得し、地域産業の活性化に寄与できる税務・会計に関する高度な知識を備えた会計工エキスパートとしての能力を有する。
2. 地域・公共政策領域で学位を取得した学生は、地域経済・地域産業振興や公共政策等に関する政策の企画・立案をリードする政策エキスパートやまちづくりコンサルタントとしての能力を有する。また、国際社会の変化に対応し、国際間および地域間の諸問題を多元的に分析することにより社会に貢献できる高度な専門職業人としての能力を有する。

カリキュラムポリシー

【領域共通科目】

1. 現実の産業社会に対して様々な側面から課題探究能力を持つ高度な専門的職業人を養成することを目的として「経済学特論Ⅰ、Ⅱ」「経済統計特論Ⅰ、Ⅱ」「情報処理特論Ⅰ、Ⅱ」を設置する。

【産業・経営領域】

1. 産業・経営に関する理解を深めるため「産業組織特論Ⅰ、Ⅱ」「流通産業特論Ⅰ、Ⅱ」「農業経済特論Ⅰ、Ⅱ」「経営学特論Ⅰ、Ⅱ」を設置する。
2. 流通に関する理解を深めるため「流通経済特論Ⅰ、Ⅱ」「マーケティング特論Ⅰ、Ⅱ」「流通システム特論Ⅰ、Ⅱ」「流通情報特論Ⅰ、Ⅱ」「流通と消費者特論Ⅰ、Ⅱ」「流通史特論Ⅰ、Ⅱ」を設置する。
3. 税務・会計に関する理解を深めるため「会計学特論Ⅰ、Ⅱ」「財務諸表特論Ⅰ、Ⅱ」「財務会計特論Ⅰ、Ⅱ」「企業税法特論Ⅰ、Ⅱ」「租税法特論Ⅰ、Ⅱ」などを設置する。

【地域・公共政策領域】

1. 地域に関する知識と理解を深めるため「国際経済学特論Ⅰ、Ⅱ」「貿易特論Ⅰ、Ⅱ」「国際政治学特論Ⅰ、Ⅱ」「国際金融特論Ⅰ、Ⅱ」「中国経済特論Ⅰ、Ⅱ」「西洋経済史特論Ⅰ、Ⅱ」「経済システム特論Ⅰ、Ⅱ」などを設置する。
2. 公共政策に関する理解を深めるため「公共政策特論Ⅰ、Ⅱ」「地域経済特論Ⅰ、Ⅱ」「計量経済学特論Ⅰ、Ⅱ」「財政学特論Ⅰ、Ⅱ」「地方財政特論Ⅰ、Ⅱ」「地域計画特論Ⅰ、Ⅱ」「都市地理学特論Ⅰ、Ⅱ」「社会情報特論Ⅰ、Ⅱ」などを設置する。
3. 長崎県が離島を多く抱えている地理的特性から「離島研究特論Ⅰ、Ⅱ」を設置する。

国際情報学研究科

長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

国際情報学研究科

教育目標

国際情報学研究科は、国際性、学際性、先端性を重視した教育研究に基づく幅広い知識と技術を合わせ持った高度専門職業人の育成を図り、地域社会や国際社会へ貢献できる大学院（修士課程）を目指します。

具体的には、IT革命の急進展やそれに伴うグローバル化の深化などによる社会の激しい変化に対応できる人材の育成や、情報と社会との関わりについての幅広い知識を修得し、活用できる能力を有した人材の育成を行います。また、最先端の情報技術を駆使した情報システムの高度な知識や技術を修得し、高度情報化社会を担うことができる専門職業人の育成をも目指します。

さらに、時代や社会の要請に応えることができる高度な知識と技術を有し、国際社会、地域社会、企業、官庁などで中心的・指導的役割を担える高度専門職業人の育成や、高度な語学力とコミュニケーション能力を有し、国内外における国際的場面で活躍できる人材の育成を目指します。

ディプロマポリシー

急速に進行する国際化、情報化に十分対応するためには、自らが設定した研究課題について、情報の収集、分析を主体的に行い独創的な成果を導き出し、研究成果を論理的に整理し、将来を見据えた視点と的確な表現で国内外に発信する能力を有する。

国際交流学専攻の修了生は、国際間の政治や経済を学際的に分析研究するための専門知識、長崎や日本を東アジアの一員として世界に発信するための専門知識を有

する。(国際関係領域) 世界の人々と交流するために必要となる異文化理解に関する専門知識と、高度な英語、中国語のコミュニケーション能力を有する。また、英語を主専攻とした者は、英語圏の社会や文化、英語コミュニケーション、次世代の英語教育に関する専門知識を有する。(国際コミュニケーション領域)

情報メディア学専攻の修了生は、情報技術理論やそれを応用したコンピュータソフトウェア開発、高度な画像処理技術、セキュリティの高いシステム開発能力とともに、画像、映像、音声などの様々な情報発信のためのコンテンツを企画、創造、開発する能力を有する。(情報技術・コンテンツ領域) 高度情報化社会についての国際、社会、経済、法的な理論を基に、様々なメディアを介したコミュニケーションにおける情報内容や表現方法が社会に及ぼす影響について理解し、実践的活用能力を有する。(社会情報領域)

カリキュラムポリシー

国際交流学専攻

- 21世紀の国際関係、国際社会の諸問題を学際的に研究考察する際に必要となる学識を涵養する。
 - 国際関係、国際経済、国際協調、日本を取り巻く国際環境について研究する科目群として、「日本政治外交史」「日米関係と安全保障」「朝鮮半島の政治」「中国の政治欧州統合論」「国際関係史」「国際紛争と法」「国際機構と法」「国際ビジネス論」「国際経営論」「国際金融論」「国際経済学」などを設置する。
 - 国際社会、国際交流や異文化への理解を深めるための科目群として、「異文化間コミュニケーション」「比較文化論」「異文化共生論」「中国文化論」「韓国文化論」「東洋史特論」「西洋中世史」「文化とパフォーマンス」などを設置する。
- 国際社会の一員として発信できる高度なコミュニケーション能力を涵養する。
 - 世界に向けて発信していくための外国語コミュニケーション能力を涵養する科目群として、「英語コミュニケーション論」「中国語コミュニケーション論」「韓国語コミュニケーション論」などを設置する。
 - 世界に情報を発信する際に必要となる日本に関する知識を高める科目群として、「日本文化論」「日本近世史」「日本近代文学」「長崎地域資料論」などを設置する。
- 英語圏の文学、英語コミュニケーションの専門家としての専門知識を涵養する。
 - 高度な英語コミュニケーション能力や英語に関する専門知識の習得のための科目として、「英語音声学・音韻論」「英語学概論」「英語学特論」「国際英語論」「応用言語学」「英語教育研究」「翻訳論」「イギリス文学」「アメリカ文学」などを設置する。

情報メディア学専攻

- 情報システムの開発や普及に貢献するための能力を涵養する。
 - 情報技術理論とシステム開発、画像処理技術の科目として、「微分幾何学」「カオス時系列解析」「情報セキュリティ」「画像情報処理」「画像計測」「ヒューマンインターフェース」などを設置する。
 - 情報発信のためのコンテンツの企画、創造、開発の科目として、「視聴覚コミュニケーション」「色彩情報」「メディアコンテンツプランニング」「視覚認知」などを設置する。
- 高度情報社会の学際的理解を涵養する。
 - 社会情報関連の科目として、「映像ジャーナリズム論」「情報ネット経済」「情報法」「メディア・コミュニケーション」「情報政策」などを設置する。
 - メディア関連の科目として、「映像と社会」「文化と社会」「メディアと表現」「教育とメディア」「広告と文化」などを設置する。

人間健康科学研究科

長崎県立大学の理念と教育目標

長崎県立大学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を基本理念として掲げています。

このため、人間を尊重し世界の平和を希求する精神を基本に、深い洞察力と実践力を備えた感性豊かな人材を育成します。また、理論と実践を融合した高度な教育研究を推進するとともに、長崎の地理的・歴史的・文化的特性を踏まえた新たな知の創造を目指します。

さらに、社会における諸問題に大きな関心をもち、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成します。

人間健康科学研究科

教育目標

人間健康科学研究科は、本学が公立大学であることを強く意識し、大学の知的財産を地域社会や住民・企業等に還元することが大きな責務であると認識しています。

島嶼の多い長崎県では過疎化と高齢化が他の都道府県より進んでおり、保健・医療・福祉関係の出費の比率は極めて高くなっています。これらの領域における課題解決のための高度な専門的知識や技術を創造する研究者および高度専門職業人を育成することが本研究科の教育目標です。

このことを踏まえ、県民の健康の保持増進ならびに疾病の予防に寄与する最新の知識や技術を研究開発する能力、最新の知識や技術を活用して県民の健康水準を向上させていく能力、地域の専門職と連携して県民の生活習慣に変革をもたらす政策を考案し、保健・医療・福祉・介護システムを変革する能力、健康保持増進の視点に立って次世代の専門職を育てる能力などをもった高度専門職業人を育成すると共に、地場産業の発展・活性化に寄与する研究・開発に取り組みます。その育成の対象は、学部卒の一般学生のみならず、社会人、外国人留学生などを含んでいます。

ディプロマポリシー

看護学専攻

保健医療福祉に関わるニーズの多様化・複雑化、社会の変化に対応するには、自ら課題を探求し、幅広い視野にたって柔軟かつ総合的な判断ができるための知識、技能、研究能力が必要とされている。また、過疎化・高齢化が急速に進んでいる本

県において、高度化・細分化および特性化した地域の社会的ニーズに応えるためのマンパワーの育成および再教育が必要である。

看護領域に関する多くの諸問題を解決ができる指導的人材、すなわち高度専門職業人としての能力を有する。

看護医療について実践的な教育指導ができる高度な専門家としての能力を有している。

将来の看護学や保健医療の基盤を支え、学術研究を通じて社会に貢献できる研究者、教育者としての能力を有する。

栄養科学専攻

食品の機能性を科学的に追究し、その成果を健康の増進や質の高い食生活、体調の調節などに役立てること、また食品・食糧の質的向上およびそれらの生産技術の向上に役立てることを目標とする。これらを達成するために食品科学分野で活躍できる高度専門職業人としての能力を有する。健康の保持増進の視点に立って次世代の専門職を育てる能力を育成する教育指導者としての能力を有する。また必要な専門知識や基礎研究を修得させて栄養科学分野における研究者としての能力を有する。機能性食品や消費者にニーズに合った食品を開発するための高度な知識や能力を有する。

カリキュラムポリシー

看護学専攻

上記ディプロマポリシーの目標を達成できるよう、以下に示す教育方針で教育課程を編成し科目を設置する。

1. 看護研究において理論と方法に基づき分析し検討を行うことができる。
2. 地域の健康問題に関してヘルスアセスメントを行うことができる。
3. 看護行政についての的確な判断・提案をすることができる。
4. 地域住民の立場に立って健康に関する問題点を見つけ出すことができる。
5. 自分の専門の分野において高度な看護実践能力発揮し、現場の指導者となることができる。

具体的には、看護学専攻においては、看護管理能力の育成と健康管理・指導能力の育成に重点を置き、『看護学共通科目』及び『看護学専攻科目』を設置する。

『看護学共通科目』は、看護研究の基盤となる「看護研究の理論と方法」や「保健統計」はもちろん、理論的検討を行う「看護理論」、看護に求められる「ヘルスアセスメント」、変化する保健・医療・福祉政策の中での看護行政を検討する「看護政策論」、対人関係能力の育成科目として「看護カウンセリング」など6科目を設置する。

『看護学専攻科目』においては、『看護管理学』『母子看護学』『成人・高齢者看護学』『地域看護学』『障害福祉ケア』の5分野を設置して、より高度な看護実践能力の育成を図るとともに、現場の指導者となる管理的能力を備えた高度専門職の育成を行う。

また、看護学専攻は、4年制大学の卒業生のみを主対象とせず、社会で経験を積んだ人材の中からも大学卒業と同等の能力のある看護職にも道を開き、勤務を続け

栄養科学専攻

1. 栄養科学分野における高度な専門的職業人、教育指導者および研究者を育成するために、栄養科学専攻では『領域共通科目』『基礎栄養科学領域』『実践栄養科学領域』および『専門科目』の教育を行う。
2. 栄養科学専攻における全体的な教育・研究内容について理解するための導入として「領域共通科目」として「栄養科学特論」「栄養科学演習」を設置する。
3. 専門的な基礎知識および理論を修得するために『基礎栄養科学領域』の各特論を設置する。
4. 生命科学の本質である遺伝子発現に対する栄養素、ひいては食事の制御メカニズムを研究し、その成果に基づいた教育に重点をおくために、「細胞生化学特論」「栄養生理学特論」を設置する。
5. 超高齢社会における健康志向に応えられる食品の機能性の開発とその利用性に力点を置いた教育・研究を推進するため、人体の健康的な機能統合、代謝調節およびそれらに必要な栄養素補給、微生物と人間の共存、食品の安全性および食品の機能性とその利用を内容とする教育に重点をおく。そのために、「機能形態学特論」「代謝栄養学特論」「高分子化学特論」「共生微生物学特論」「食品機能学特論」を設置する。
6. 社会における健康問題の背景を食・栄養の面から疫学的な手法を用いて解析し、長期展望に立った栄養・健康の計画および実践に力点を置いた教育（「栄養疫学特論」）に重点をおく。
7. 人間を対象としたものの考え方に視点をおいた実践科学としての栄養学を修得するために『実践栄養科学領域』の各特論を設置する。
8. 人体の健康的な機能統合、代謝調節およびそれらに必要な栄養素補給、腸内環境を含めた健康影響、健康づくりのための栄養状態の評価・判定、食生活、身体活動、ストレスなどの生活習慣によってもたらされる慢性疾患の予防および治療のための栄養補給、栄養管理のあり方、疾病回復のための食養法、運動負荷と健康増進・体力向上・疾病回復、栄養補給の適・不適の診断とその対応、加齢にともなう機能変化や生活環境と栄養との関連などについて、栄養効果と生体側の状態に関する教育に重点をおく。そのために、「保健栄養学特論」「臨床栄養学特論」「生活習慣病医療学特論」「栄養診断学特論」「健康体力科学特論」「栄養管理学特論」「調理科学特論」「健康増進科学特論」を設置する。
9. 国際感覚を持った栄養専門家の人材育成を目指し、長崎ならではの食と健康を通じた国際交流を実践するための教育（「国際保健学特論」）に重点をおく。
10. 栄養科学分野の研究者として必要な知識や研究開発するための能力を『専門科目』で養成する。
11. 研究課題を設定し、研究計画を立案、研究方法の展開、データ収集、データ解析などを行い、健康科学を探究する修士論文・博士論文の作成に取り組むために、「栄養科学特別研究Ⅰ」「栄養科学特別研究Ⅱ」を設置する。
12. ゼミ形式により各専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文を精読・理解する。また、研究成果の学会での発表、学術論文誌への原稿作成や投稿について修得することを目的として、「栄養科学特別演習Ⅰ」「栄養科学特別演習Ⅱ」を設置する。

外国人留学生の状況(平成28年度在籍者数実績)

○外国人留学生の受入状況

区分	佐世保校					シーボルト校					合計		
	中国	韓国	ベトナム	タイ	計	中国	韓国	米国	ベトナム	タイ		計	
学部	交換留学生	9	1			10	18	1	8		5	32	42
	私費留学生	4		2	0	6	4	1		0		5	11
	計	13	1	2	0	16	22	2	8	0	5	37	53
大学院	交換留学生	10				10						0	10
	私費留学生	2	0		0	2	6			0		6	8
	計	12	0	0	0	12	6	0	0	0	0	6	18
研究生	交換留学生					0						0	0
	私費留学生	0				0	1					1	1
	計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
合計	交換留学生	19	1	0	0	20	18	1	8	0	5	32	52
	私費留学生	6	0	2	0	8	11	1	0	0	0	12	20
	計	25	1	2	0	28	29	2	8	0	5	44	72

国別状況	中国	ベトナム	韓国	米国	タイ	その他	合計
(人)	54	2	3	8	5	0	72
(%)	75.0%	2.8%	4.2%	11.1%	6.9%	0.0%	100.0%

※短期私費は協定に基づく受入れの為、交換に含む

○交換留学 派遣状況(平成27年度からの継続者+28年度新規派遣)

区分	佐世保校					シーボルト校					合計
	中国	韓国	米国	その他	計	中国	韓国	米国	タイ	計	
学部	4	0	1		5	4	1	5	6	16	21
大学院					0					0	0
合計	4	0	1	0	5	4	1	5	6	16	21

○受入、派遣学生数の推移

区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28
受入	67	83	93	95	85	72
派遣	23	24	20	19	20	21

長崎県立大学国際交流基金設置要綱

(設置及び目的)

第1条 長崎県公立大学法人は、長崎県立大学（以下「大学」という。）における国際交流事業の一環として「長崎県立大学国際交流基金」（以下「基金」という。）を設置する。

2 基金は、本学における国際交流の推進を目的とする。

(基金の管理)

第2条 基金は、理事長が長崎県立大学法人寄附金等取扱規程（平成17年規程第25号。）に基づき管理する。

(基金の資金)

第3条 基金は、第1条の目的により寄附された資金により実施する。

(事業)

第4条 基金の設置目的を達成するために、次の各号に掲げる事業を行なう。

- (1) 交流推進事業
- (2) 受入留学生支援事業
- (3) 留学促進支援事業
- (4) 日本文化体験支援事業
- (5) 交歓プログラムの推進
- (6) その他本学の国際交流等に必要なる事業に対する援助

(事務)

第5条 基金の事務は、大学の国際交流センターにおいて行う。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

【学部】[平成29年度]

(単位：人、倍、%)

区	分	定員 A	志願者 B	受験者 C	合格者 D	入学者	志願倍率 B/A	受験倍率 C/A	競争率 C/D	
経営学部	経営学科	推薦	55	79	78	55	55	1.4	1.4	1.4
		一般入試(前期)	70	203	194	97	65	2.9	2.8	2.0
		一般入試(後期)	15	363	129	44	26	24.2	8.6	2.9
		一般入試計	85	566	323	141	91	6.7	3.8	2.3
		帰国子女	若干名	-	-	-	-	-	-	-
		社会人	若干名	-	-	-	-	-	-	-
		留学生	若干名	4	2	2	2	-	-	1.0
		小計	140	649	403	198	148	4.6	2.9	2.0
	国際経営学科	推薦	20	27	27	21	21	1.4	1.4	1.3
		一般入試(前期)	30	51	49	40	25	1.7	1.6	1.2
		一般入試(後期)	10	66	17	43	29	6.6	1.7	0.4
		一般入試計	40	117	66	83	54	2.9	1.7	0.8
		帰国子女	若干名	-	-	-	-	-	-	-
		社会人	若干名	-	-	-	-	-	-	-
留学生		若干名	1	1	0	-	-	-	-	
小計	60	145	94	104	75	2.4	1.6	0.9		
学部計		200	794	497	302	223	7.1	4.4	2.9	
地域創造学部	公共政策学科	推薦	30	40	40	29	29	1.3	1.3	1.4
		一般入試(前期)	60	172	151	80	70	2.9	2.5	1.9
		一般入試(後期)	30	207	78	31	24	6.9	2.6	2.5
		一般入試計	90	379	229	111	94	4.2	2.5	2.1
		帰国子女	若干名	-	-	-	-	-	-	-
		社会人	若干名	1	1	0	-	-	-	-
		留学生	若干名	-	-	-	-	-	-	-
	小計	120	420	270	140	123	3.5	2.3	1.9	
	実践経済学科	推薦	45	51	51	43	43	1.1	1.1	1.2
		一般入試(前期)	65	267	252	93	69	4.1	3.9	2.7
		一般入試(後期)	20	122	51	36	28	6.1	2.6	1.4
		一般入試計	85	389	303	129	97	4.6	3.6	2.3
		帰国子女	若干名	-	-	-	-	-	-	-
		社会人	若干名	-	-	-	-	-	-	-
留学生		若干名	1	1	1	1	-	-	1.0	
小計	130	441	355	173	141	3.4	2.7	2.1		
学部計		250	861	625	313	264	6.9	5.0	4.0	
国際社会学部	国際社会学科	A O	5	9	8	7	7	1.8	1.6	1.1
		推薦	19	34	34	19	19	1.8	1.8	1.8
		一般入試(前期)	30	72	71	36	27	2.4	2.4	2.0
		一般入試(後期)	6	95	24	13	12	15.8	4.0	1.8
		一般入試計	36	167	95	49	39	4.6	2.6	1.9
		帰国子女	若干名	0	-	-	-	-	-	-
		社会人	若干名	0	-	-	-	-	-	-
		留学生	若干名	2	1	0	-	-	-	-
小計	60	212	138	75	65	3.5	2.3	1.8		
情報システム学部	情報システム学科	推薦	12	23	23	14	14	1.9	1.9	1.6
		一般入試(前期)	20	67	63	25	25	3.4	3.2	2.5
		一般入試(後期)	8	146	49	8	6	18.3	6.1	6.1
		一般入試計	28	213	112	33	31	7.6	4.0	3.4
		帰国子女	若干名	0	-	-	-	-	-	-
		社会人	若干名	0	-	-	-	-	-	-
		留学生	若干名	0	-	-	-	-	-	-
	小計	40	236	135	47	45	5.9	3.4	2.9	
	情報セキュリティ学科	推薦	12	19	19	12	12	1.6	1.6	1.6
		一般入試(前期)	20	57	53	25	24	2.9	2.7	2.1
		一般入試(後期)	8	95	34	11	7	11.9	4.3	3.1
		一般入試計	28	152	87	36	31	5.4	3.1	2.4
		帰国子女	若干名	0	-	-	-	-	-	-
		社会人	若干名	0	-	-	-	-	-	-
留学生		若干名	0	-	-	-	-	-	-	
小計	40	171	106	48	43	4.3	2.7	2.2		
学部計		80	407	241	95	88	10.2	6.0	5.1	

区 分		定員 A	志願者 B	受験者 C	合格者 D	入学者	志願倍率 B/A	受験倍率 C/A	競争率 C/D	
看護 栄養 学部	看護学科	推 薦	16	56	56	16	16	3.5	3.5	3.5
		一般入試(前期)	38	115	111	41	41	3.0	2.9	2.7
		一般入試(後期)	6	128	40	6	6	21.3	6.7	6.7
		一般入試計	44	243	151	47	47	5.5	3.4	3.2
		帰国子女	若干名	0	-	-	-	-	-	-
		社会人	若干名	1	1	0	-	-	-	-
		留学生	若干名	0	-	-	-	-	-	-
	小 計	60	300	208	63	63	5.0	3.5	3.3	
	栄養健康学科	推 薦	10	26	26	10	10	2.6	2.6	2.6
		一般入試(前期)	24	47	47	26	20	2.0	2.0	1.8
		一般入試(後期)	6	57	18	13	13	9.5	3.0	1.4
		一般入試計	30	104	65	39	33	3.5	2.2	1.7
		帰国子女	若干名	0	-	-	-	-	-	-
		社会人	若干名	1	1	1	0	-	-	1.0
留学生		若干名	1	1	1	1	-	-	1.0	
小 計	40	132	93	51	44	3.3	2.3	1.8		
学 部 計	100	432	301	114	107	8.3	5.8	5.1		
A O 計		5	9	8	7	7	1.8	1.6	1.1	
推 薦 計		219	355	354	219	219	1.6	1.6	1.6	
一般入試(前期) 計		357	1,051	991	463	366	2.9	2.8	2.1	
一般入試(後期) 計		109	1,279	440	205	151	11.7	4.0	2.1	
一般入試 合計		466	2,330	1,431	668	517	5.0	3.1	2.1	
帰国子女 計		若干名	0	0	0	0	-	-	-	
社会人 計		若干名	3	3	1	0	-	-	3.0	
留学生 計		若干名	9	5	4	4	-	-	1.3	
合 計		690	2,706	1,801	899	747	3.9	2.6	2.0	

※A O入試の受験者数は2次選考受験者数

【大学院】[平成29年度]

(単位：人、倍、%)

区 分		定員 A	志願者 B	受験者 C	合格者 D	入学者	志願倍率 B/A	受験倍率 C/A	競争率 C/D		
経済学研究科	産業経済・経済開発専攻(修士課程)	12	9	9	9	9	0.8	0.8	1.0		
国際情報学 研究科	国際交流学専攻(修士課程)	6	3	3	3	3	0.5	0.5	1.0		
	情報メディア学専攻(修士課程)	4	1	1	1	1	0.3	0.3	1.0		
	研究科 計	10	4	4	4	4	0.4	0.4	1.0		
人間健康科学 研究科	看護学専攻(修士課程)	一般選抜	8	8	8	7	1.4	1.4	1.1		
		社会人特別選抜		3	3	3			3	1.0	
		専攻 計		11	11	10			9	1.4	1.4
	栄養科学専攻	博士前期課程	一般選抜	8	2	2	2	0.3	0.3	1.0	
			社会人特別選抜	若干名	0	0	0	0	-	-	-
			外国人留学生特別選抜	若干名	0	0	0	0	-	-	-
		前期課程 計	8	2	2	2	2	0.3	0.3	1.0	
		博士後期課程	一般選抜	3	1	1	1	1	0.3	0.3	1.0
			外国人留学生特別選抜	若干名	0	0	0	0	-	-	-
	後期課程 計		3	1	1	1	1	0.3	0.3	1.0	
研究科 計	19	14	14	13	12	0.7	0.7	1.1			
大学院 計		41	27	27	26	25	0.7	0.7	1.0		

※平成28年10月入学志願者を含む

オープンキャンパス参加者数

(単位:人、校)

年度	キャンパス名	開催日	区分	県内 高校生	県外 高校生	その他 (保護者等)	計	合計
28 年度	佐世保校	7月17日	参加者	250	92	125	467	1,704
			(高校)	(51)	(107)	—		
	シーボルト校	7月18・19日	参加者	693	163	381	1237	
			(高校)	(53)	(137)	—		
27 年度	佐世保校	7月19日	参加者	230	95	163	488	1,695
			(高校)	(40)	(59)	—		
	シーボルト校	7月19・20日	参加者	625	187	395	1207	
			(高校)	(58)	(93)	—		
26 年度	佐世保校	7月20日	参加者	192	79	131	402	1,490
			(高校)	(43)	(50)	—		
	シーボルト校	7月20・21日	参加者	588	189	311	1088	
			(高校)	(50)	(91)	—		
25 年度	佐世保校	7月14日	参加者	178	64	136	378	1,342
			(高校)	(38)	(39)	—		
	シーボルト校	7月14・15日	参加者	583	127	254	964	
			(高校)	(49)	(79)	—		
24 年度	佐世保校	7月15日	参加者	182	61	109	352	1,390
			(高校)	(40)	(38)	—		
	シーボルト校	7月15・16日	参加者	636	141	261	1038	
			(高校)	(41)	(39)	—		
23 年度	佐世保校	7月17日	参加者	150	78	142	370	1,337
			(高校)	(43)	(43)	—		
	シーボルト校	7月17・18日	参加者	619	111	237	967	
			(高校)	(52)	(61)	—		
22 年度	佐世保校	7月18日	参加者	188	83	140	411	1,496
			(高校)	(42)	(49)	—		
	シーボルト校	7月18・19日	参加者	633	151	301	1085	
			(高校)	(47)	(72)	—		

「就業力育成・教育プログラム」

1. プログラムの目的

学生が希望する進路の実現に必要な知識・人間力を涵養するため、就業力育成のための教育プログラムを策定し、入学時から卒業時までの一貫した就業力育成教育と支援を行う。

2. プログラムの概要

初年次から卒業時まで、教育課程と教育課程外の有機的連携を図り、学生の就業力を身につける。(別紙)

(1) 教育課程

①「就業力」科目群

全学教育に「就業力」科目群を創設

- ・「キャリアデザイン」を充実し、インターンシップと連携させて、就業力を高める。
- ・「キャリアデザイン入門」については、必修化する。
- ・「キャリアデザイン実践」については、企業等の実務経験者による業界・企業セミナーなどを実施する。

②「資格取得認定」科目群

全学教育に「資格認定」科目群を創設

- ・学生の進路を見据え、就職希望分野に有効な資格取得を奨励する。
FP、販売士、簿記、ITパスポート、基本情報技術者、通関士等
- ・取得した資格を単位化し、進級要件等として活用する。

※備考

「演習科目（実習科目）」：初年時から4年次まで、各学年ごとに演習科目又は実習科目を配科し、学生の成長段階に合わせてプレゼンテーション能力などの就業力を高める。

(2) 教育課程外

- ①初年次からキャリアポートフォリオを実施
- ②さらに、3年次12月より進路記録簿を利用した、きめ細かな就職支援
- ③キャリアデザイン、インターンシップ履修後、3年次に就職ガイダンスや業界・企業セミナー等を実施
- ④また、3年次後期から4年次にかけて、学内企業説明会を実施
- ⑤就職対策として、R-CAP、SPI試験を実施
- ⑥資格取得に向けて、資格取得対策講座を実施

「就業力育成・教育プログラム」

(別紙)

※備考

	教育課程		教育課程外
	「就業力」科目群	「資格取得認定」科目群	
1年	キャリアデザイン入門 (※必修)	「AFP」 「販売士」 「簿記」 「ITパスポート」 「基本情報技術者」 「通関士」 「日経テスト」 など	資格取得対策講座
2年	インターンシップ		
3年	キャリアデザイン実践 インターンシップ		
4年			
			キャリアポートフォリオ 進路記録簿 就職ガイダンス 学内企業説明会 業界・企業セミナー 病院・企業見学会 職業適性診断 (R-CAP) ※ SPI対策講座・模擬試験
			総合演習 (実習) 専門演習 (実習) 卒業論文 (研究) 新生セミナー
			演習科目 (実習科目)

※看護学科除く

I . NICEキャンパス長崎について

1. NICEキャンパス長崎とは

(1) NICEキャンパス長崎(大学間単位互換制度)

「NICEキャンパス長崎」は、平成13年度からスタートした単位互換制度で、長崎県内全ての大学、短期大学及び高等専門学校が参加しています。

「NICE」の名称は、Nagasaki Intercollegiate(大学間) Credit(単位) Exchange(互換)の頭文字をとってつけられました。

単位互換制度は、各大学等が提供している授業科目(コーディネート科目、教養科目、専門科目)の中から、希望する科目を履修し、科目開設大学で単位を修得すれば所属大学の単位として認定される制度です。また、認定された単位のうち、所定の要件を満たすものについては、卒業要件単位(大学によって扱いは異なります。)として活用することもできます。

自分の大学にない分野の科目を学びたい、自分の専攻を深めたい人など、本制度を利用していろいろな可能性にチャレンジしてください。

(2) NICEキャンパス長崎を利用した受講生の声

NICEキャンパス長崎には、他大学の単位が自大学の単位として取得できるほかにも、様々なメリットがあります。昨年度NICEキャンパス長崎を利用した単位互換履修生からは、次のような感想が寄せられています。

これまでに受講した方の感想

- 自分の所属学部に限らず、興味のある科目を学ぶことができる点が良かったです。
- 自分の大学にない分野を受講することができる上に、単位にもなるのでとても良い制度だと思います。
- 他大学の教授の話の聞けたり、他大学の雰囲気はわかって面白かったです。
- 長崎について様々な視点から学ぶことができました。
- 地域の人々とも一緒に参加できて参考になりました。
- 毎回色々な先生が来るので、期待していましたが、楽しんで受講できました。
- 他大学の学生や社会人の方々と意見交換しあえるところが楽しかったです。
- 合宿型の講義では、他大学の友人もできて視野も広がり多くの気づきがありました。

このように、NICEキャンパス長崎では所属大学だけでは学べない分野について学びの機会や、他大学の講師陣・学生との交流、社会人の方々との交流を深める機会などを提供しています。

また、コーディネート科目では長崎に関係する話題を中心に、各大学が独自の視点から講義を構成しています。

長崎について様々な視点から学びたい方、交流を深めたい方は、是非この機会を活用してみたいかがでしょうか。

<NICEキャンパス受講者数>

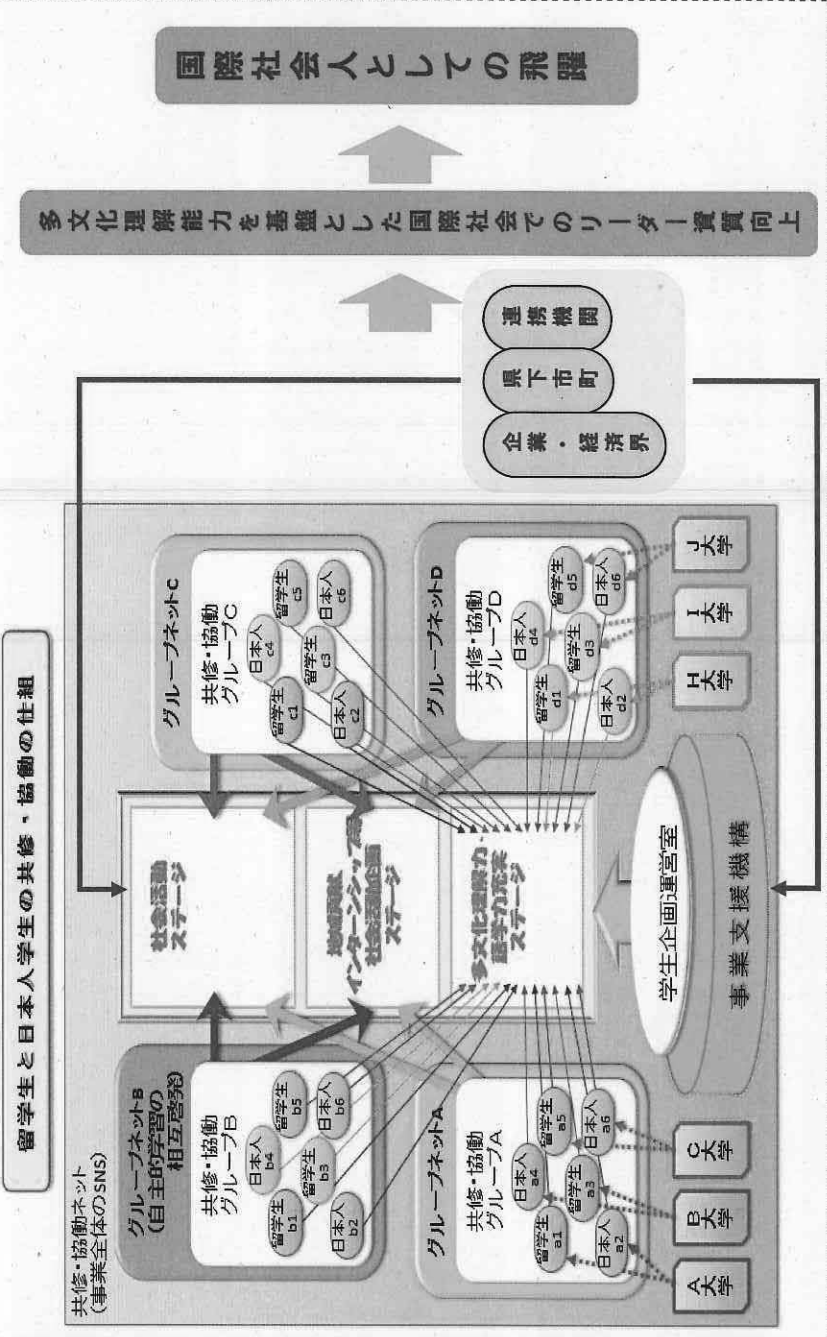
	H23	H24	H25	H26	H27	H28
受講者数(名)	120	103	187	233	266	201
提供科目数(科目)						
教養科目	10	10	11	14	12	11
専門科目	46	40	38	37	36	35
遠隔科目	8	6	6	6	6	5

取組名称：留学生との共修・協働による長崎発グローバル人材基盤形成事業
取組大学：長崎大学(代表校)、長崎国際大学、長崎県立大学、活水女子大学、長崎ウエスレヤン大学、長崎外国語大学、長崎純心大学、長崎総合科学大学、長崎女子短期大学、長崎短期大学

本事業は、各大学から選抜された日本人学生と留学生との混成グループを作り、それを基本形として大学での共修やインターンシップ等での協働を行うことをカリキュラムの中に組み込み、グローバル人材としての基盤形成の場にするものである。事業では、学生企画運営室と事業支援機構が運営の核となって多文化理解・語学力充実、インターンシップ、社会活動などの年次ステージが順次性をもって展開される。

共修科目では、主体的な学習が展開されるとともに双方の学生の対話や相互啓発によって多文化理解能力の向上も図られる。さらに、語学力向上の後に行われるインターンシップ等を通して、課題解決能力に必要な協働力や現場力の獲得も行われる。

<背景> 大学に対する国際化推進と21世紀型人材育成を行う教育の要請
 <目的> 大学コンソーシアム長崎の発展
 国際社会型コンソーシアム、また、大学・地域協働型コンソーシアム、さらに、主体的学習型コンソーシアムの性質を備えた地域と大学の一体型コンソーシアムでの国際人材の育成
 <目標> 国際的に通用する高い能力を身につけ、希望するキャリアを目指す。本事業参加者数を300~400名とし、それぞれがTOEIC750点、日本語検定一級、韓国語検定二級、中国語検定二級を獲得する。彼らにはコンソーシアムからグローバル人材証書(仮称)を授与する。

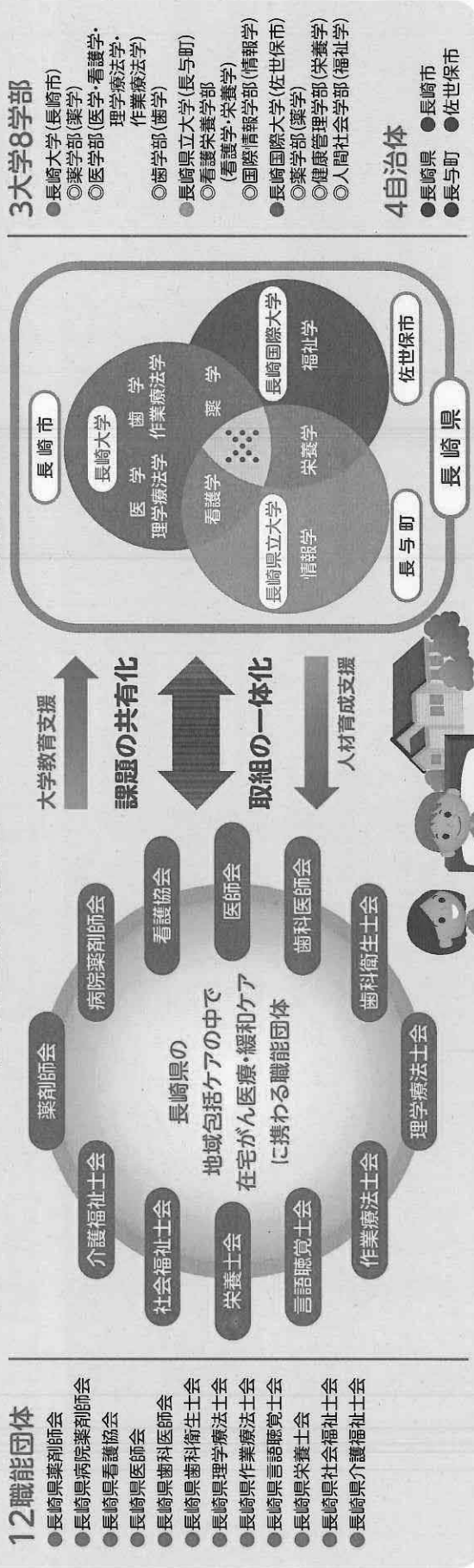


**取組名称：多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点
取組大学：長崎大学（代表校）、長崎県立大学、長崎国際大学**

わが国の保健医療分野では多職種協働による在宅医療体制の整備が重要な課題となっており、地域包括ケアの中で在宅がん患者の療養支援を行う体制整備を推進する必要性は高い。そこで、薬学・看護学の統合教育体制を確立している長崎県内の国公私立3大学（長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学）が、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実を図り、県内の4自治体・12職能団体と連携・一体となつて、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成の拠点作りを目指す取組である。

連携取組の実現に向けた実施体制

在宅医療・福祉コンソーシアム長崎



連携取組の内容

在宅医療・がん医療・緩和ケアの教育を学習アウトカムを重視した順次性カリキュラムに基づく大学間単位互換の合同授業・合同実習としてINICEキャンパス長崎に登録し、大学間連携教育の実質化と質保証を図る。さらに、大学と地域の連携に基づく協働教育により当該地域の中での循環型人材育成体制を確立する。

期待される効果

3大学の保健医療・福祉分野の学生は、多職種協働の必要性を認識し、自らの専門分野とは異なる分野のケアに関する基礎力・応用力・実践力を身につけ、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門職としての主体性・協調性を修得できる。さらに、医療と福祉の専門職による在宅がん医療・緩和ケアの協働支援体制整備に向けた人材育成環境が活性化されることで地域の医療リスクが低下し、在宅医療環境が強化される。

開講科目数	734
対象科目数	680
実施科目割合	92.6%

履修者数	29,443
回答者数	8,092
回答割合	27.5%

	全体	所属学科										学年			
		経営	国際経営	公共政策	実践経済	国際社会	情報システム	情報セキュリティ	看護	栄養健康	1年	2年	3年	4年	
受講への取り組み															
1 この授業に真面目に出席しましたか？															
有効回答数	8,082	1,593	535	1,484	1,548	745	342	386	629	581	8,082				
評定平均	4.63	4.61	4.58	4.61	4.62	4.65	4.48	4.65	4.77	4.71	4.63				
2 この授業に意欲的に取り組みましたか？															
有効回答数	8,082	1,593	536	1,484	1,548	744	342	386	629	581	8,082				
評定平均	4.36	4.38	4.34	4.35	4.34	4.45	4.04	4.37	4.53	4.28	4.36				
3 この授業の予習・復習を行いましたか？															
有効回答数	8,069	1,592	534	1,482	1,544	743	342	386	628	580	8,069				
評定平均	3.62	3.66	3.44	3.65	3.64	3.78	3.31	3.71	3.57	3.47	3.62				
授業内容															
4 シラバスは授業の目標や計画及び評価方法を適切に示していましたか？															
有効回答数	8,071	1,585	539	1,482	1,547	744	342	386	627	580	8,071				
評定平均	4.18	4.17	3.95	4.13	4.14	4.34	3.92	4.44	4.39	4.25	4.18				
5 授業内容に対して学問的関心を持ちましたか？															
有効回答数	8,086	1,593	538	1,483	1,551	745	341	386	629	581	8,086				
評定平均	4.28	4.29	4.26	4.24	4.26	4.42	4.00	4.17	4.49	4.28	4.28				
6 授業を理解できましたか？															
有効回答数	8,080	1,594	537	1,481	1,550	745	340	386	628	580	8,080				
評定平均	4.19	4.15	4.17	4.19	4.15	4.30	3.91	4.12	4.49	4.10	4.19				
7 授業の進度は適切でしたか？															
有効回答数	8,077	1,593	536	1,481	1,550	745	339	386	629	580	8,077				
評定平均	4.36	4.36	4.37	4.36	4.31	4.42	4.14	4.46	4.57	4.31	4.36				
教員の授業への取り組み															
8 授業担当者の授業に対する熱意を感じましたか？															
有効回答数	8,084	1,594	538	1,483	1,550	744	341	386	629	580	8,084				
評定平均	4.49	4.48	4.54	4.50	4.39	4.60	4.30	4.54	4.62	4.44	4.49				
9 授業担当者の話し方は聞き取りやすかったですか？															
有効回答数	8,085	1,594	539	1,484	1,549	744	341	386	629	580	8,085				
評定平均	4.31	4.31	4.44	4.26	4.24	4.43	4.14	4.50	4.54	4.10	4.31				
10 板書や資料は効果的でしたか？															
有効回答数	8,076	1,593	537	1,482	1,548	741	340	386	629	581	8,076				
評定平均	4.26	4.22	4.31	4.21	4.22	4.32	3.98	4.44	4.54	4.21	4.26				
11 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行っていましたか？															
有効回答数	8,084	1,594	539	1,483	1,550	743	341	386	628	581	8,084				
評定平均	4.23	4.22	4.20	4.20	4.16	4.37	4.00	4.32	4.43	4.22	4.23				
授業環境															
12-1 教室の環境は学習に適切でしたか？															
有効回答数	8,078	1,588	539	1,484	1,549	744	341	385	629	581	8,078				
評定平均	4.41	4.38	4.28	4.39	4.38	4.56	4.10	4.51	4.65	4.36	4.41				
12-2 (遠隔授業の場合)遠隔授業は履修しやすかったですか？															
有効回答数	1,033	184	71	225	273	53	28	28	78	59	1,033				
評定平均	4.38	4.43	3.99	4.43	4.35	4.68	4.21	4.25	4.77	4.03	4.38				
総括															
13 総合的にみて、この授業は満足できるものでしたか？															
有効回答数	8,055	1,580	538	1,481	1,545	742	341	385	626	579	8,055				
評定平均	4.36	4.34	4.38	4.33	4.33	4.44	4.18	4.46	4.51	4.37	4.36				

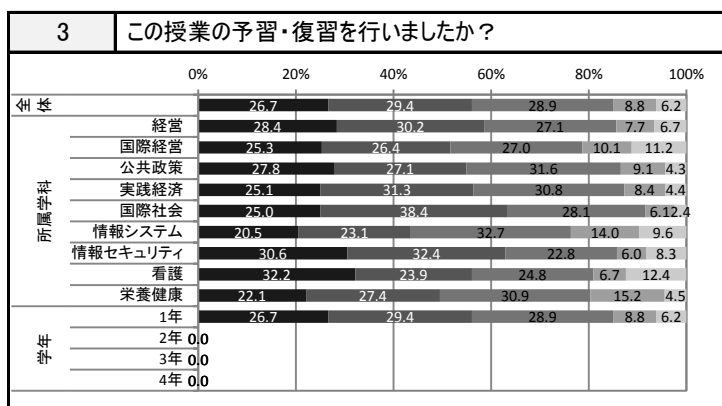
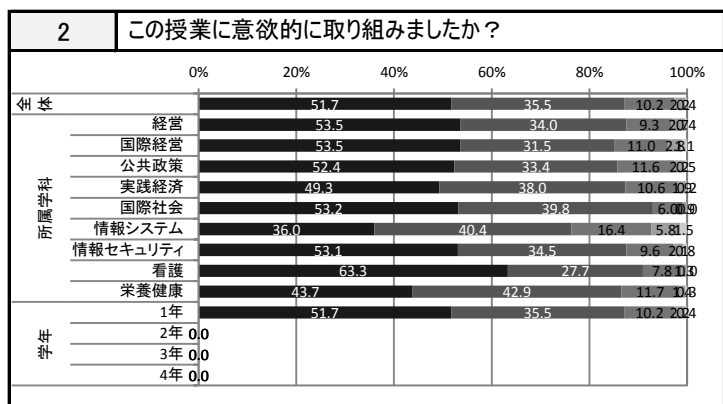
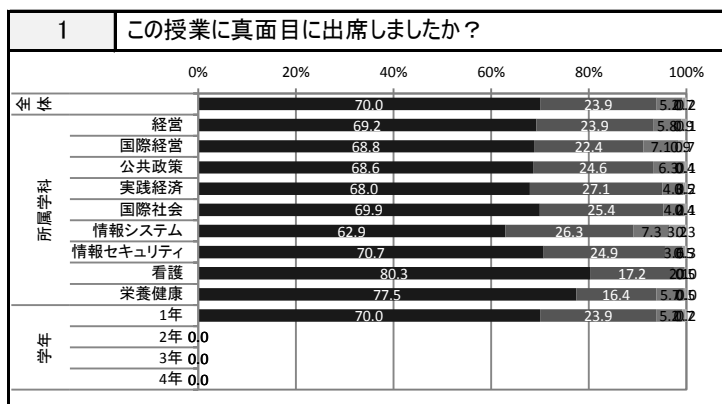
* 評定平均について … 回答選択肢そう思う:5点、どちらかといえばそう思う:4点、どちらともいえない:3点、どちらかといえばそう思わない:2点、そう思わない:1点とし、5点満点で算出。値が大きいほど高評価。

開講科目数	734
対象科目数	680
実施科目割合	92.6%

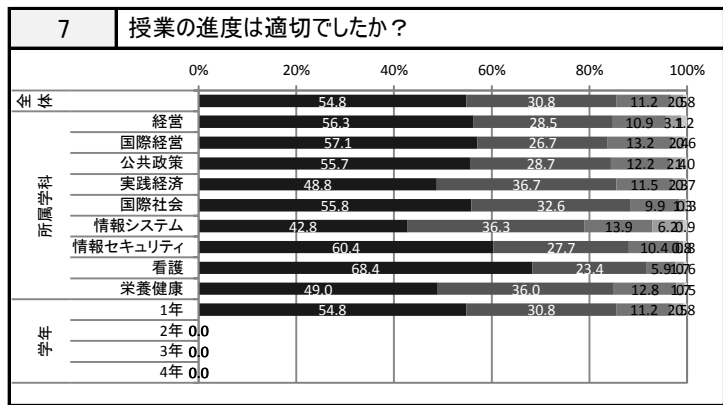
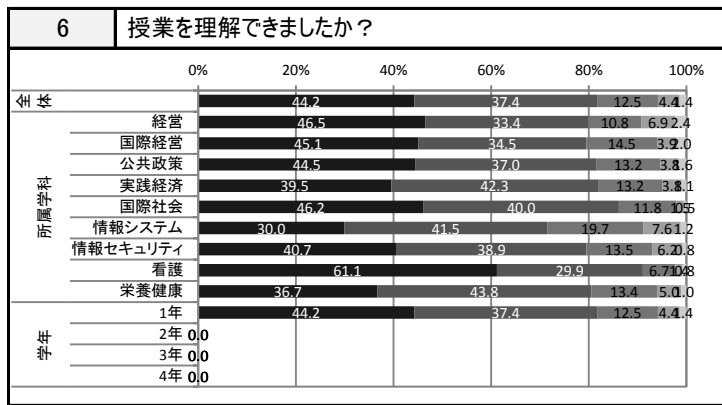
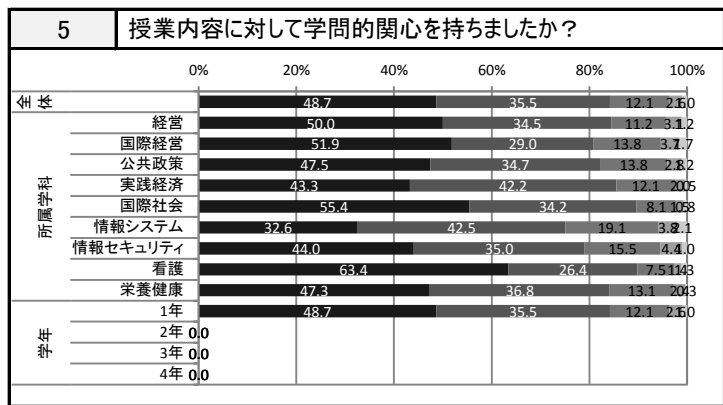
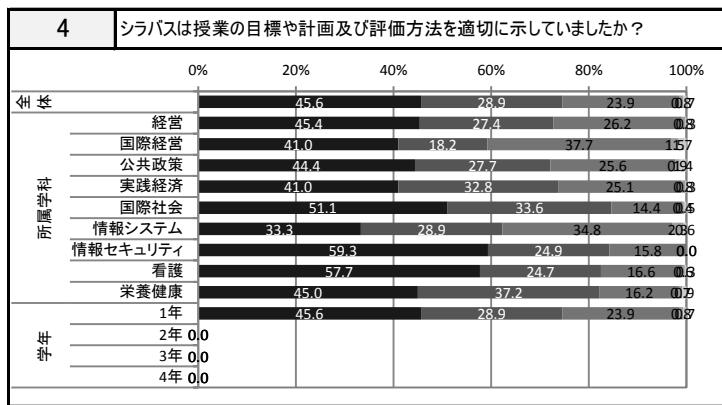
履修者数	29,443
回答者数	8,092
回答割合	27.5%

そう思う(5点)
 どちらかといえば
 そう思う(4点)
 どちらとも
 いえない(3点)
 どちらかといえば
 そう思わない(2点)
 そう思わない(1点)

受講への取り組み



授業内容

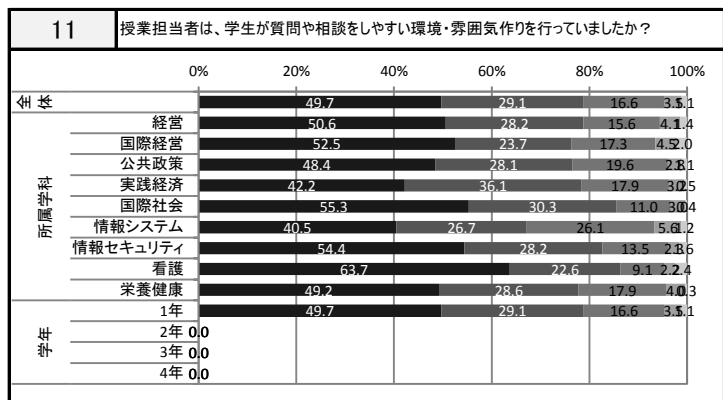
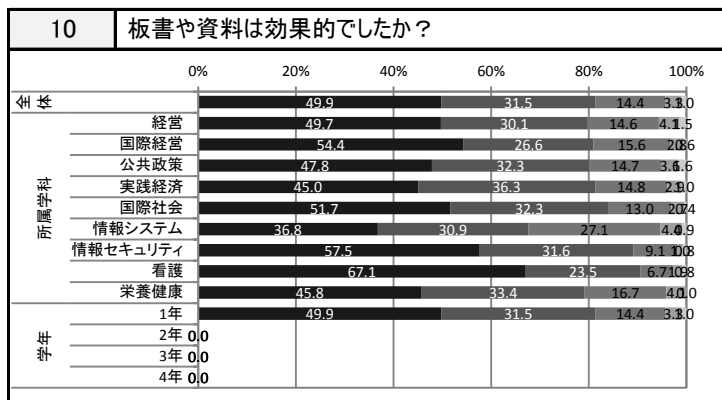
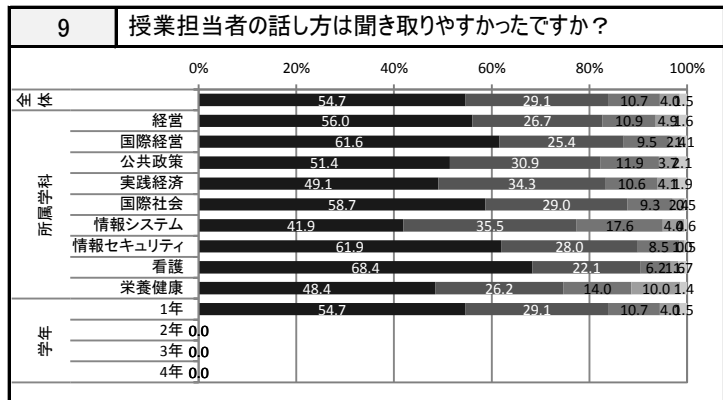
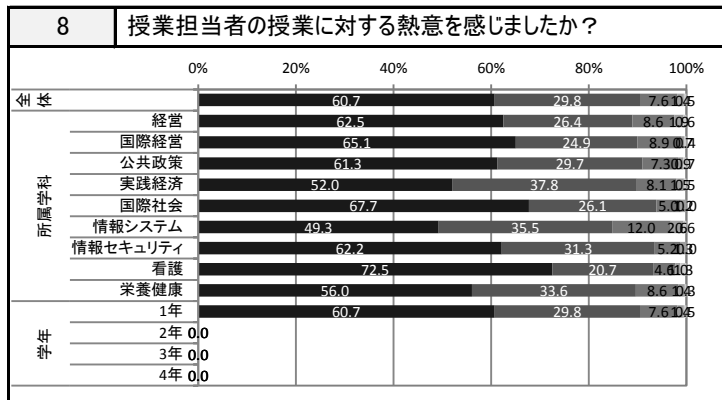


開講科目数	734
対象科目数	680
実施科目割合	92.6%

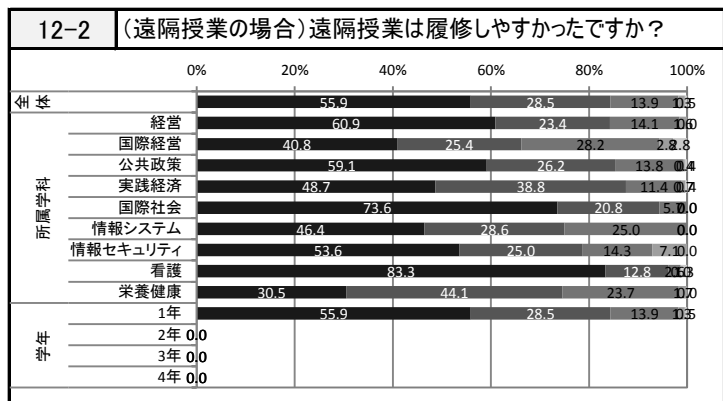
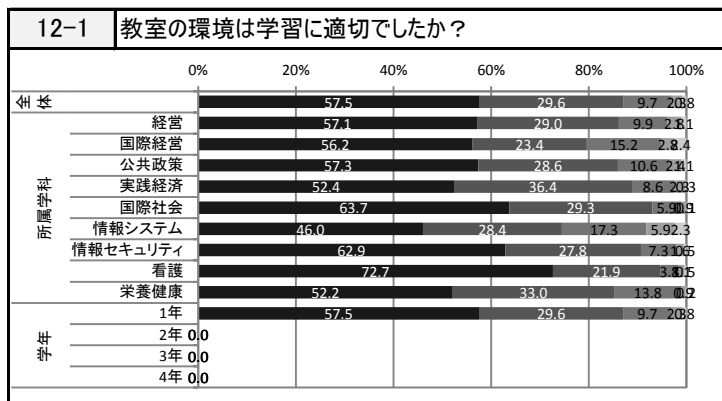
履修者数	29,443
回答者数	8,092
回答割合	27.5%

そう思う(5点)
 どちらかといえばそう思う(4点)
 どちらともいえない(3点)
 どちらかといえばそう思わない(2点)
 そう思わない(1点)

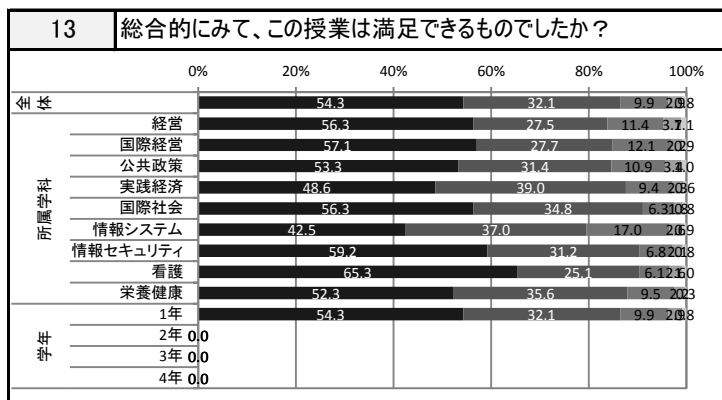
教員の授業への取り組み



授業環境



総括



開講科目数	734
対象科目数	680
実施科目割合	92.6%

履修者数	29,443
回答者数	11,421
回答割合	38.8%

	全体	所属学科							学年			
		経済	地域政策	流通・経営	国際交流	情報メディア	看護	栄養健康	1年	2年	3年	4年

受講への取り組み

1 この授業に真面目に出席しましたか？												
有効回答数	11,410	2,908	2,458	2,351	1,097	691	906	653		307	4,540	761
評定平均	4.55	4.51	4.51	4.43	4.57	4.64	4.83	4.78		4.62	4.52	4.47
2 この授業に意欲的に取り組みましたか？												
有効回答数	11,406	2,909	2,458	2,348	1,097	691	905	652		306	4,537	761
評定平均	4.33	4.26	4.27	4.21	4.38	4.36	4.66	4.51		4.33	4.33	4.35
3 この授業の予習・復習を行いましたか？												
有効回答数	11,379	2,906	2,451	2,340	1,094	686	906	650		6,097	4,525	757
評定平均	3.79	3.78	3.78	3.67	3.77	3.59	4.16	3.81		3.82	3.78	3.67

授業内容

4 シラバスは授業の目標や計画及び評価方法を適切に示していましたか？												
有効回答数	11,361	2,895	2,446	2,342	1,092	690	903	649		6,091	4,512	758
評定平均	4.30	4.20	4.29	4.10	4.49	4.31	4.63	4.54		4.28	4.31	4.39
5 授業内容に対して学問的関心を持ちましたか？												
有効回答数	11,409	2,908	2,459	2,353	1,095	691	906	652		6,109	4,540	760
評定平均	4.28	4.15	4.25	4.10	4.51	4.27	4.65	4.48		4.22	4.32	4.44
6 授業を理解できましたか？												
有効回答数	11,409	2,908	2,459	2,353	1,096	689	906	653		6,109	4,540	760
評定平均	4.17	4.04	4.16	4.01	4.42	4.18	4.54	4.31		4.12	4.22	4.31
7 授業の進度は適切でしたか？												
有効回答数	11,407	2,908	2,459	2,353	1,096	689	904	653		6,109	4,539	759
評定平均	4.30	4.18	4.30	4.13	4.56	4.34	4.55	4.49		4.28	4.32	4.41

教員の授業への取り組み

8 授業担当者の授業に対する熱意を感じましたか？												
有効回答数	11,404	2,905	2,458	2,350	1,096	690	905	653		6,106	4,539	759
評定平均	4.44	4.33	4.45	4.25	4.63	4.56	4.70	4.62		4.41	4.45	4.58
9 授業担当者の話し方は聞き取りやすかったですか？												
有効回答数	11,407	2,906	2,458	2,351	1,096	690	906	653		6,109	4,539	759
評定平均	4.32	4.22	4.30	4.11	4.54	4.38	4.65	4.44		4.27	4.34	4.55
10 板書や資料は効果的でしたか？												
有効回答数	11,390	2,902	2,455	2,350	1,094	689	901	653		6,099	4,534	757
評定平均	4.24	4.11	4.23	4.02	4.45	4.24	4.64	4.48		4.20	4.27	4.38
11 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行っていましたか？												
有効回答数	11,385	2,902	2,454	2,348	1,093	685	904	652		6,096	4,530	759
評定平均	4.23	4.11	4.21	4.03	4.48	4.18	4.58	4.43		4.19	4.26	4.35

授業環境

12-1 教室の環境は学習に適切でしたか？												
有効回答数	11,354	2,890	2,450	2,339	1,094	687	899	650		6,094	4,504	756
評定平均	4.38	4.26	4.38	4.20	4.60	4.39	4.67	4.64		4.35	4.40	4.45
12-2 (遠隔授業の場合)遠隔授業は履修しやすかったですか？												
有効回答数	984	182	271	271	69	42	58	11		639	277	68
評定平均	4.30	4.20	4.32	4.00	4.55	4.52	4.72	4.73		4.25	4.40	4.37

総括

13 総合的にみて、この授業は満足できるものでしたか？												
有効回答数	11,374	2,891	2,454	2,349	1,090	688	905	652		6,096	4,520	758
評定平均	4.31	4.17	4.29	4.13	4.52	4.38	4.61	4.57		4.27	4.33	4.47

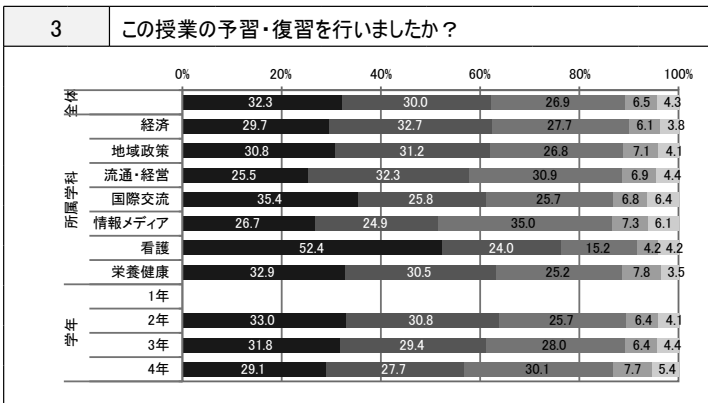
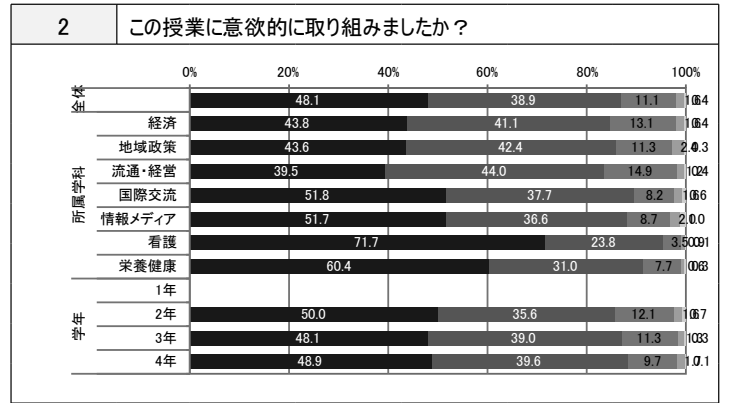
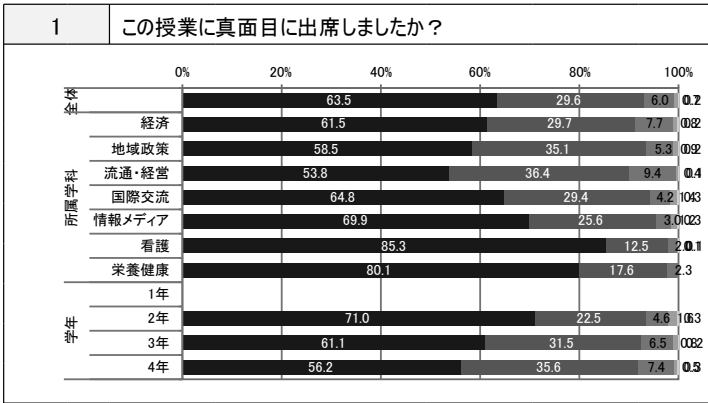
* 評定平均について … 回答者数 5点、どちらかといえばそう思う: 5点、どちらかといえばそう思う: 4点、どちらともいえない: 3点、どちらかといえばそう思わない: 2点、そう思わない: 1点とし、5点満点で算出。値が大きいほど高評価。

開講科目数	734
対象科目数	680
実施科目割合	92.6%

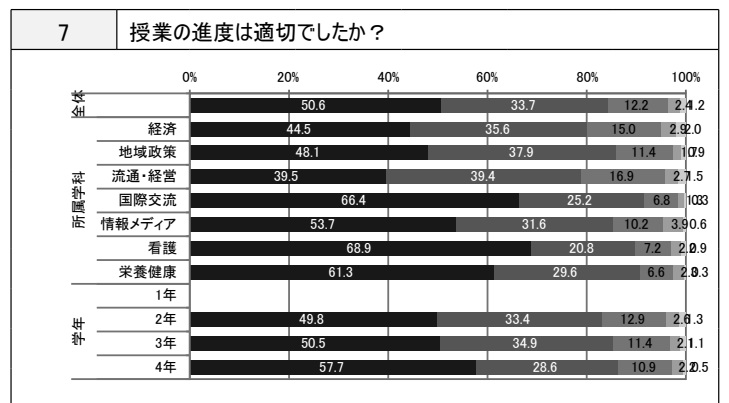
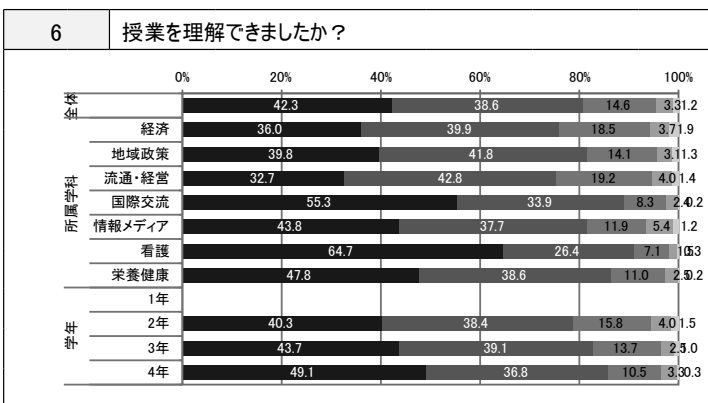
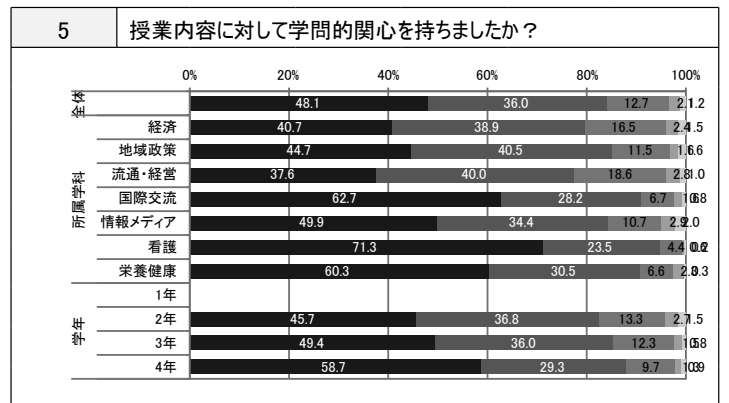
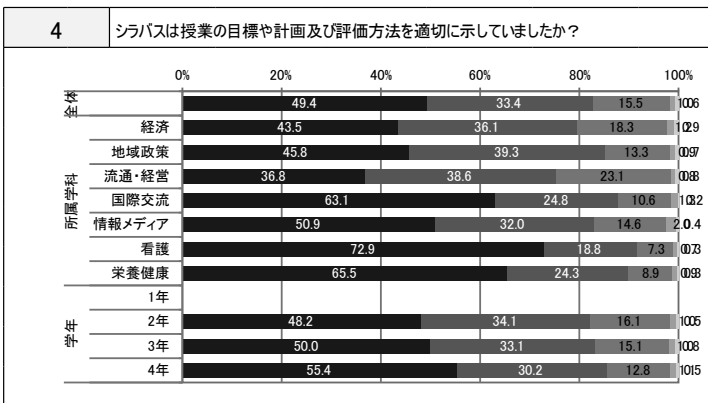
履修者数	29,443
回答者数	11,421
回答割合	38.8%

そう思う(5点)
 どちらかといえばそう思う(4点)
 どちらともいえない(3点)
 どちらかといえばそう思わない(2点)
 そう思わない(1点)

受講への取り組み



授業内容

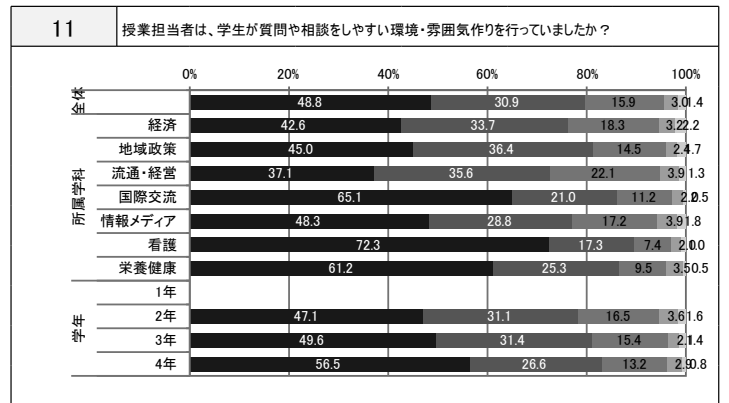
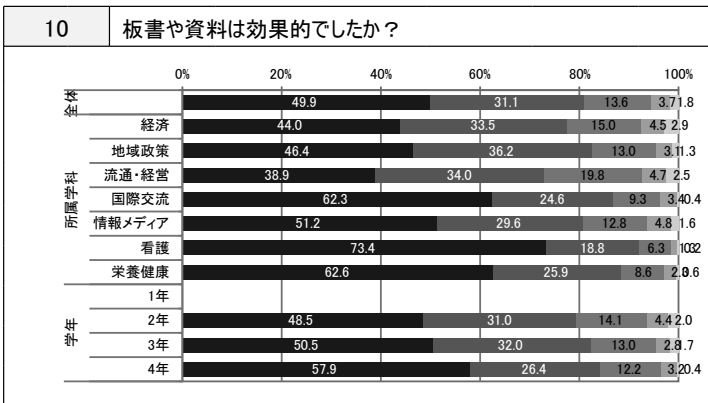
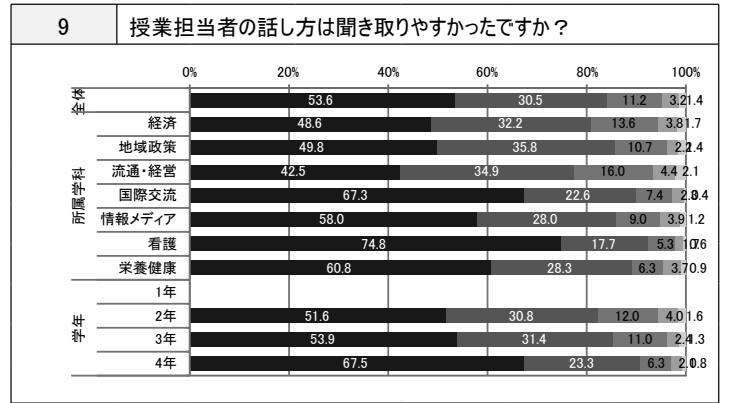
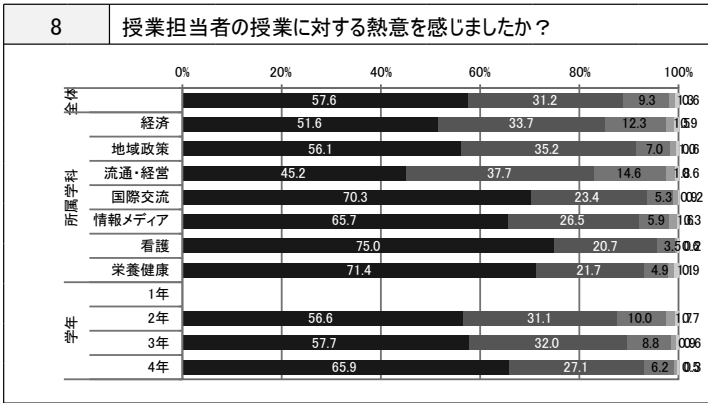


開講科目数	734
対象科目数	680
実施科目割合	92.6%

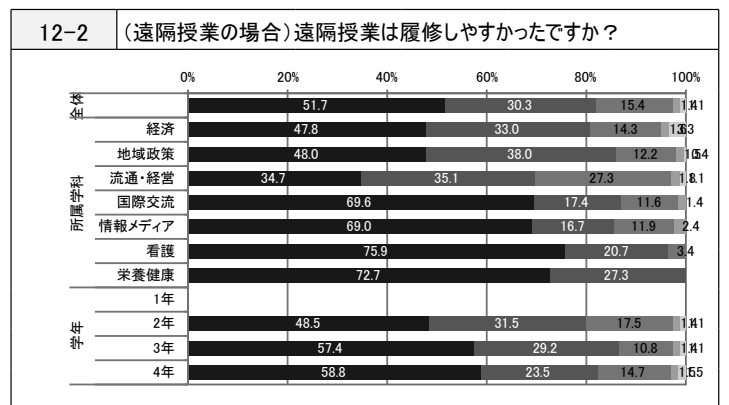
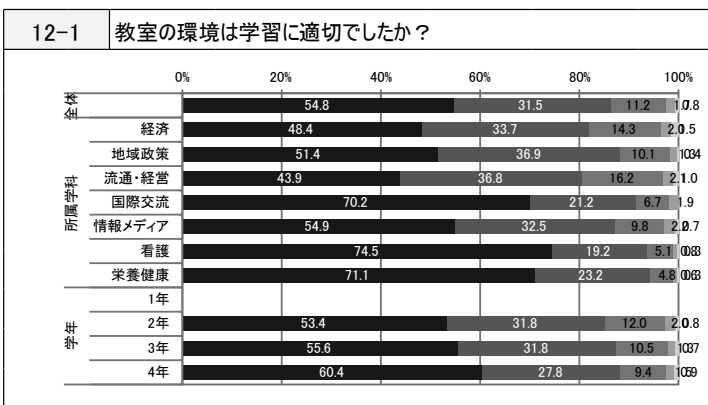
履修者数	29,443
回答者数	11,421
回答割合	38.8%

そう思う(5点)
 どちらかといえば
 そう思う(4点)
 どちらとも
 いえない(3点)
 どちらかといえば
 そう思わない(2点)
 そう思わない(1点)

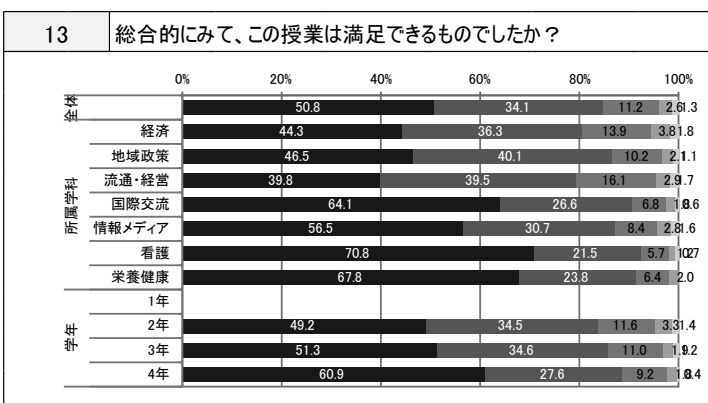
教員の授業への取り組み



授業環境



総括



開講科目数	898
対象科目数	762
実施科目割合	84.9%

履修者数	28,791
回答者数	8,126
回答割合	28.2%

	全体	所属学科										学年			
		経営	国際経営	公共政策	実践経済	国際社会	情報システム	情報セキュリティ	看護	栄養健康	1年	2年	3年	4年	
受講への取り組み															
1 この授業に真面目に出席しましたか？															
有効回答数	8,124	1,604	613	1,649	1,692	689	449	387	423	463	8,124				
評定平均	4.57	4.59	4.51	4.60	4.52	4.47	4.50	4.68	4.72	4.73	4.57				
2 この授業に意欲的に取り組みましたか？															
有効回答数	8,117	1,603	611	1,647	1,691	689	449	387	423	463	8,117				
評定平均	4.38	4.47	4.34	4.41	4.33	4.23	4.14	4.27	4.59	4.50	4.38				
3 この授業の予習・復習を行いましたか？															
有効回答数	8,105	1,601	609	1,646	1,686	689	449	386	423	463	8,105				
評定平均	3.82	3.86	3.56	3.91	3.94	3.66	3.60	3.75	3.65	3.89	3.82				
授業内容															
4 シラバスは授業の目標や計画及び評価方法を適切に示していましたか？															
有効回答数	8,092	1,596	609	1,645	1,688	687	449	386	415	462	8,092				
評定平均	4.29	4.34	4.06	4.35	4.21	4.34	4.06	4.31	4.53	4.48	4.29				
5 授業内容に対して学問的関心を持ちましたか？															
有効回答数	8,122	1,602	613	1,649	1,692	688	449	387	423	464	8,122				
評定平均	4.33	4.41	4.38	4.38	4.24	4.33	4.03	4.03	4.64	4.43	4.33				
6 授業を理解できましたか？															
有効回答数	8,118	1,601	613	1,648	1,692	687	449	386	423	464	8,118				
評定平均	4.24	4.37	4.32	4.30	4.14	4.21	3.85	3.93	4.51	4.33	4.24				
7 授業の進度は適切でしたか？															
有効回答数	8,121	1,601	613	1,649	1,692	688	449	387	423	464	8,121				
評定平均	4.42	4.52	4.45	4.47	4.28	4.43	4.12	4.36	4.57	4.50	4.42				
教員の授業への取り組み															
8 授業担当者の授業に対する熱意を感じましたか？															
有効回答数	8,113	1,602	613	1,647	1,690	688	448	386	423	462	8,113				
評定平均	4.52	4.57	4.54	4.56	4.41	4.58	4.26	4.47	4.74	4.67	4.52				
9 授業担当者の話し方は聞き取りやすかったですか？															
有効回答数	8,115	1,602	613	1,649	1,690	688	447	386	423	462	8,115				
評定平均	4.39	4.49	4.48	4.42	4.26	4.44	4.05	4.24	4.71	4.37	4.39				
10 板書や資料は効果的でしたか？															
有効回答数	8,110	1,602	611	1,647	1,690	688	448	386	421	462	8,110				
評定平均	4.33	4.43	4.40	4.37	4.21	4.31	4.02	4.21	4.61	4.39	4.33				
11 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行っていましたか？															
有効回答数	8,113	1,602	613	1,649	1,690	688	448	385	422	461	8,113				
評定平均	4.26	4.34	4.40	4.25	4.11	4.26	4.02	4.15	4.56	4.41	4.26				
授業環境															
12-1 教室の環境は学習に適切でしたか？															
有効回答数	8,103	1,601	609	1,647	1,688	688	447	385	421	462	8,103				
評定平均	4.42	4.49	4.45	4.42	4.28	4.49	4.24	4.42	4.74	4.56	4.42				
12-2 (遠隔授業の場合) 遠隔授業は履修しやすかったですか？															
有効回答数	1,470	365	123	310	464	89	21	11	36	26	1,470				
評定平均	4.31	4.36	4.44	4.28	4.24	4.46	4.52	3.73	4.61	4.23	4.31				
総括															
13 総合的にみて、この授業は満足できるものでしたか？															
有効回答数	8,077	1,595	608	1,647	1,681	688	439	385	421	459	8,077				
評定平均	4.38	4.49	4.47	4.43	4.23	4.35	4.05	4.23	4.64	4.56	4.38				

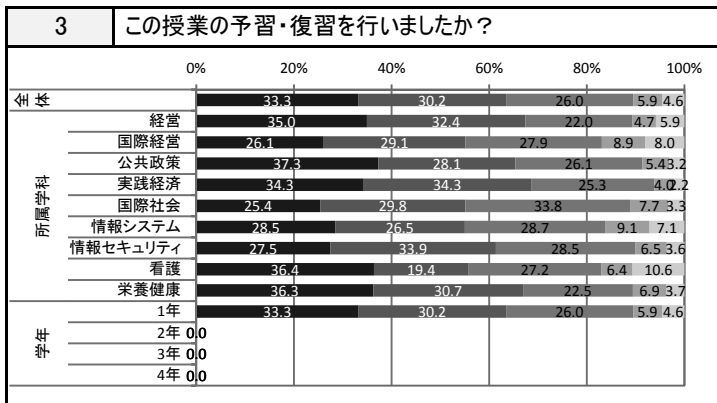
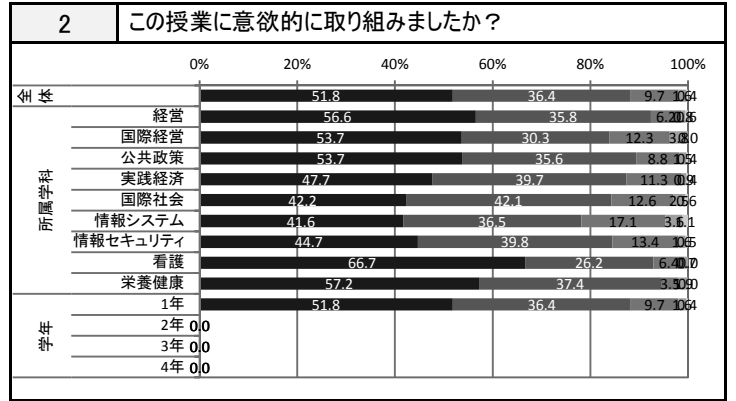
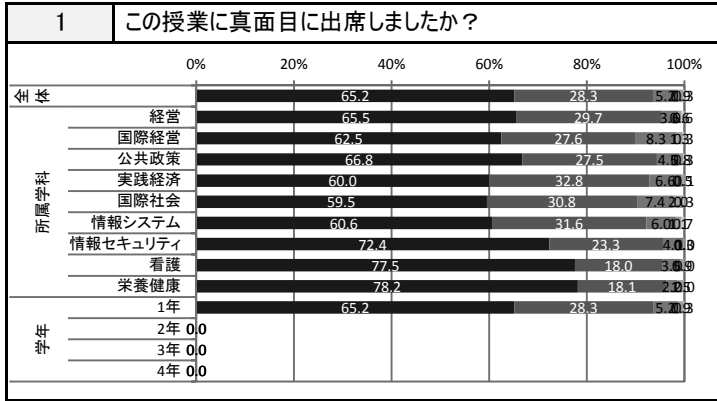
* 評定平均について … 回答選択肢そう思う:5点、どちらかといえばそう思う:4点、どちらともいえない:3点、どちらかといえばそう思わない:2点、そう思わない:1点とし、5点満点で算出。値が大きいほど高評価。

開講科目数	898
対象科目数	762
実施科目割合	84.9%

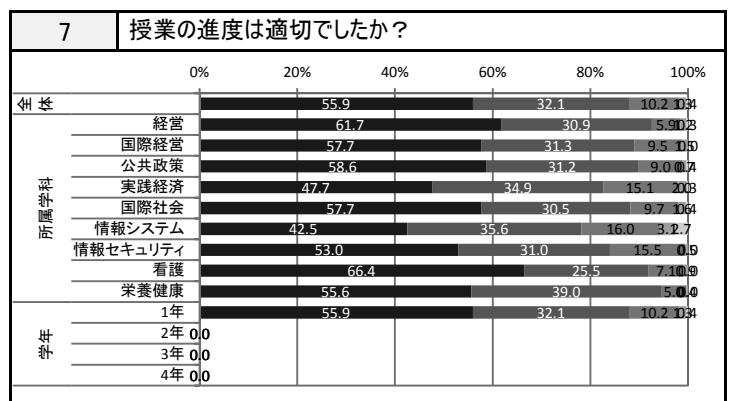
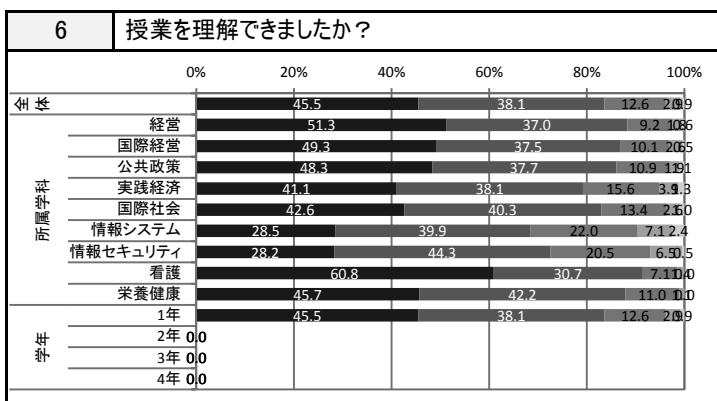
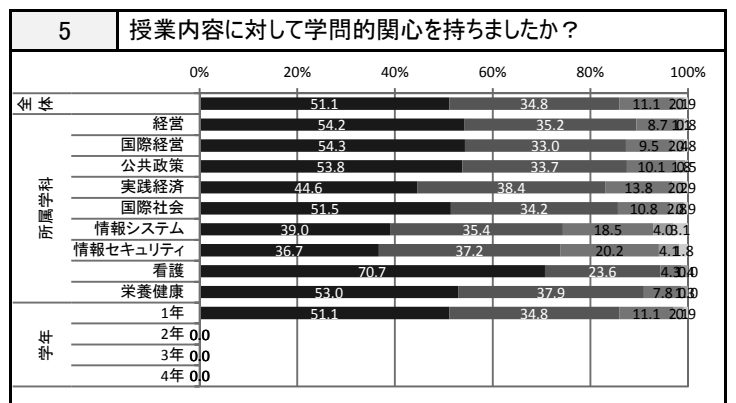
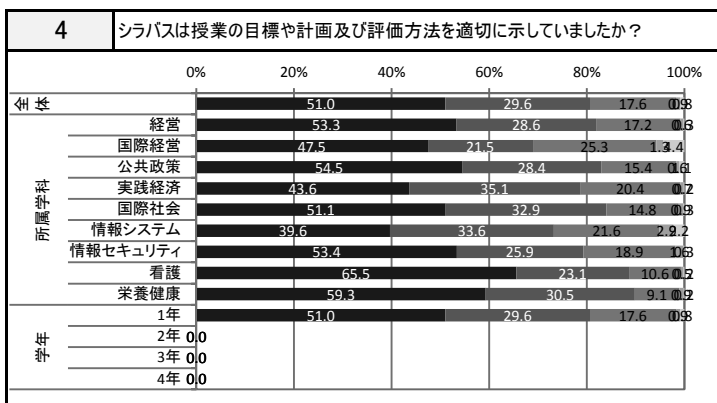
履修者数	28,791
回答者数	8,126
回答割合	28.2%

そう思う(5点)
 どちらかといえば
 そう思う(4点)
 どちらとも
 いえない(3点)
 どちらかといえば
 そう思わない(2点)
 そう思わない(1点)

受講への取り組み



授業内容

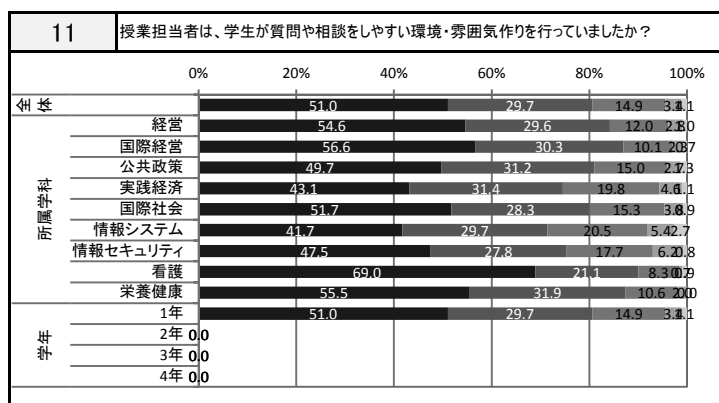
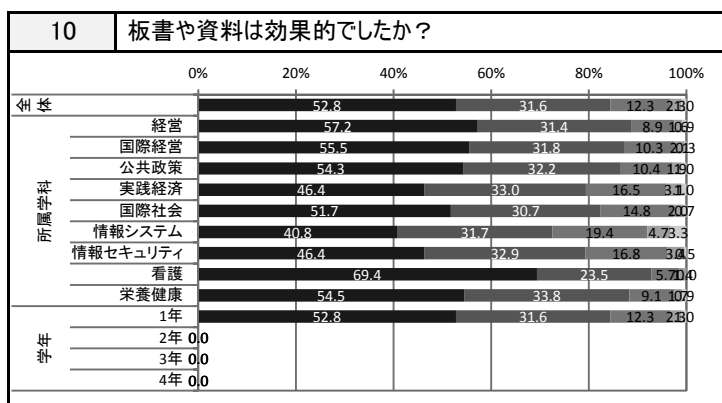
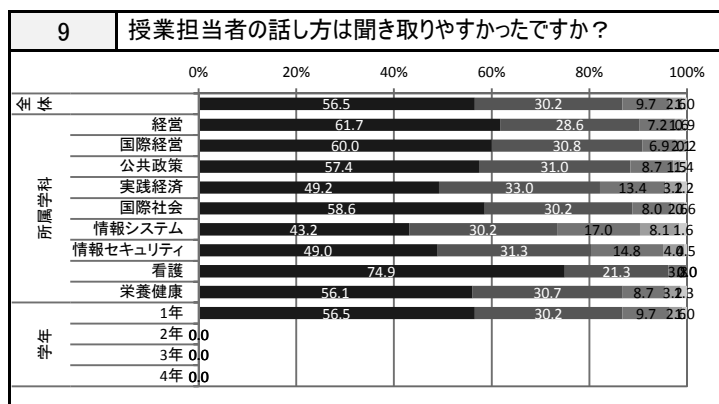
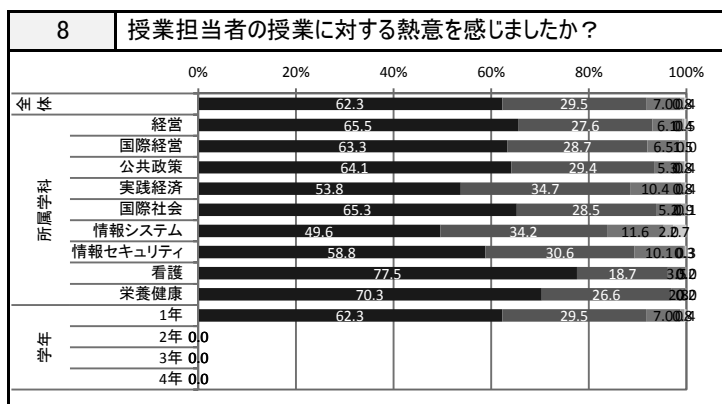


開講科目数	898
対象科目数	762
実施科目割合	84.9%

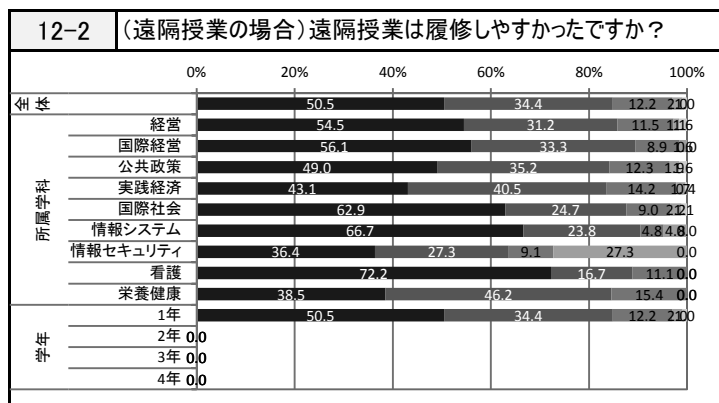
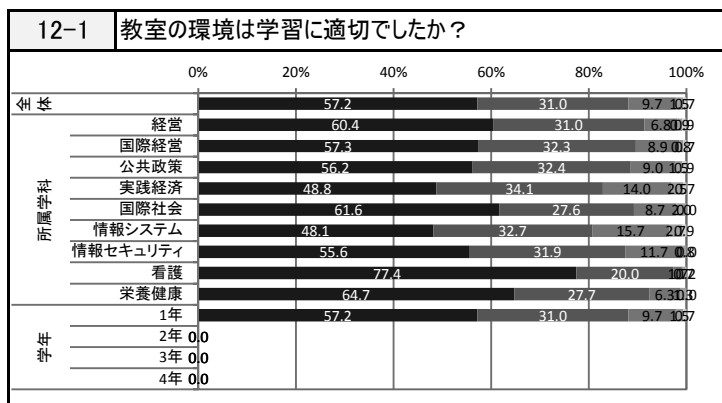
履修者数	28,791
回答者数	8,126
回答割合	28.2%

そう思う(5点)
 どちらかといえば
 そう思う(4点)
 どちらとも
 いえない(3点)
 どちらかといえば
 そう思わない(2点)
 そう思わない(1点)

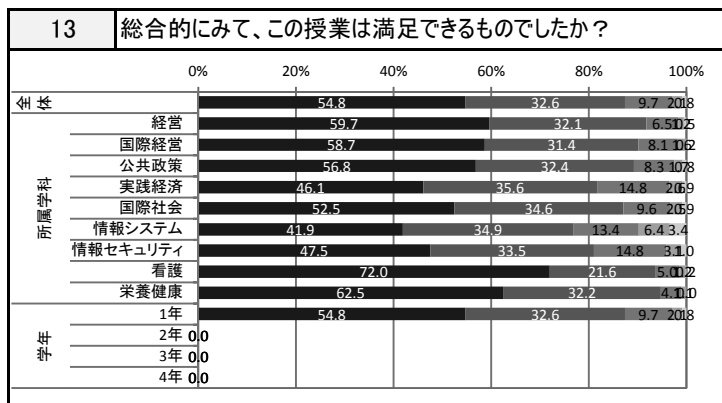
教員の授業への取り組み



授業環境



総括



開講科目数	898
対象科目数	762
実施科目割合	84.9%

履修者数	28,791
回答者数	9,586
回答割合	33.3%

	全体	所属学科							学年			
		経済	地域政策	流通・経営	国際交流	情報メディア	看護	栄養健康	1年	2年	3年	4年
受講への取り組み												
1 この授業に真面目に出席しましたか？												
有効回答数	9,581	2,283	2,171	2,000	980	574	671	631		307	3,386	984
評定平均	4.56	4.46	4.49	4.48	4.65	4.70	4.88	4.77		4.62	4.58	4.53
2 この授業に意欲的に取り組みましたか？												
有効回答数	9,580	2,281	2,172	2,000	980	574	671	630		306	3,387	982
評定平均	4.39	4.27	4.28	4.36	4.56	4.52	4.70	4.57		4.33	4.42	4.48
3 この授業の予習・復習を行いましたか？												
有効回答数	9,556	2,278	2,165	1,991	976	573	670	631		5,201	3,377	978
評定平均	3.90	3.84	3.79	3.89	4.05	3.72	4.17	3.91		3.86	3.94	3.95
授業内容												
4 シラバスは授業の目標や計画及び評価方法を適切に示していましたか？												
有効回答数	9,553	2,278	2,167	1,989	977	571	669	631		5,199	3,376	978
評定平均	4.38	4.28	4.26	4.34	4.57	4.50	4.66	4.52		4.35	4.41	4.46
5 授業内容に対して学問的関心を持ちましたか？												
有効回答数	9,579	2,282	2,170	1,999	978	574	672	632		5,209	3,386	984
評定平均	4.37	4.22	4.22	4.38	4.61	4.44	4.64	4.54		4.32	4.41	4.50
6 授業を理解できましたか？												
有効回答数	9,581	2,283	2,172	1,998	978	574	672	632		5,212	3,385	984
評定平均	4.29	4.14	4.17	4.29	4.56	4.38	4.49	4.41		4.24	4.34	4.41
7 授業の進度は適切でしたか？												
有効回答数	9,576	2,283	2,172	1,997	975	574	671	632		5,209	3,383	984
評定平均	4.40	4.24	4.30	4.40	4.66	4.53	4.60	4.51		4.35	4.45	4.49
教員の授業への取り組み												
8 授業担当者の授業に対する熱意を感じましたか？												
有効回答数	9,578	2,282	2,171	1,998	978	574	672	632		5,210	3,385	983
評定平均	4.53	4.41	4.42	4.49	4.74	4.61	4.75	4.72		4.49	4.55	4.65
9 授業担当者の話し方は聞き取りやすかったですか？												
有効回答数	9,580	2,281	2,172	1,999	979	574	672	631		5,211	3,385	984
評定平均	4.43	4.31	4.31	4.38	4.64	4.56	4.67	4.61		4.38	4.46	4.58
10 板書や資料は効果的でしたか？												
有効回答数	9,568	2,281	2,168	1,999	975	574	668	631		5,207	3,379	982
評定平均	4.36	4.24	4.23	4.33	4.59	4.48	4.63	4.53		4.32	4.39	4.50
11 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行っていましたか？												
有効回答数	9,569	2,279	2,170	1,998	975	574	670	631		5,204	3,381	984
評定平均	4.35	4.22	4.16	4.34	4.57	4.42	4.66	4.61		4.27	4.42	4.53
授業環境												
12-1 教室の環境は学習に適切でしたか？												
有効回答数	9,530	2,275	2,170	1,975	978	570	661	630		5,203	3,351	976
評定平均	4.46	4.30	4.28	4.43	4.71	4.62	4.76	4.72		4.40	4.51	4.56
12-2 (遠隔授業の場合)遠隔授業は履修しやすかったですか？												
有効回答数	919	195	383	144	53	44	23	10		626	195	98
評定平均	4.29	4.24	4.17	4.27	4.70	4.64	4.91	4.50		4.26	4.29	4.51
総括												
13 総合的にみて、この授業は満足できるものでしたか？												
有効回答数	9,539	2,268	2,166	1,992	973	572	670	627		5,190	3,370	979
評定平均	4.41	4.26	4.27	4.42	4.63	4.55	4.63	4.63		4.35	4.48	4.56

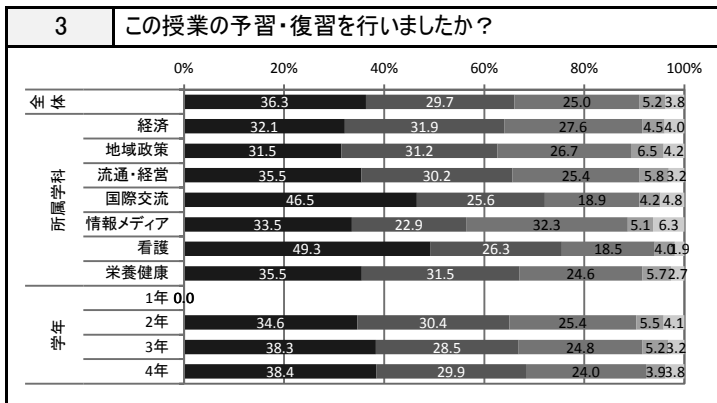
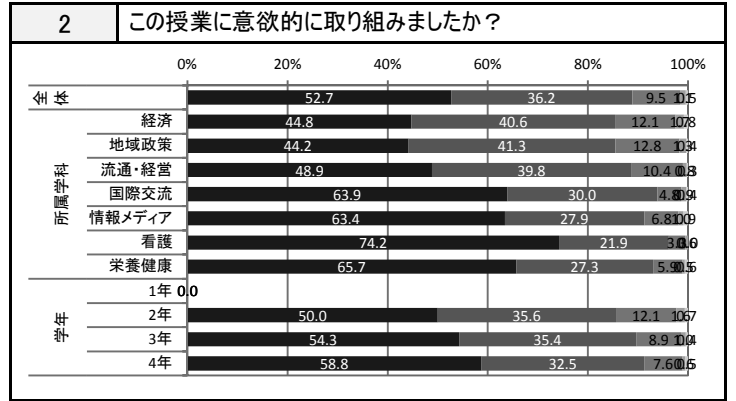
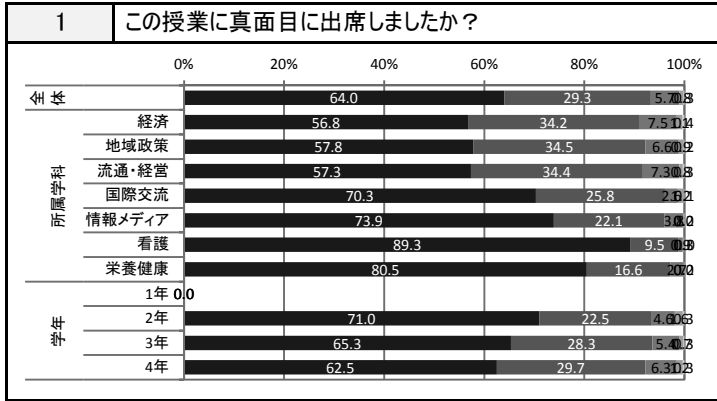
* 評定平均について … 回答選択肢そう思う:5点、どちらかといえばそう思う:4点、どちらともいえない:3点、どちらかといえばそう思わない:2点、そう思わない:1点とし、5点満点で算出。値が大きいほど高評価。

開講科目数	898
対象科目数	762
実施科目割合	84.9%

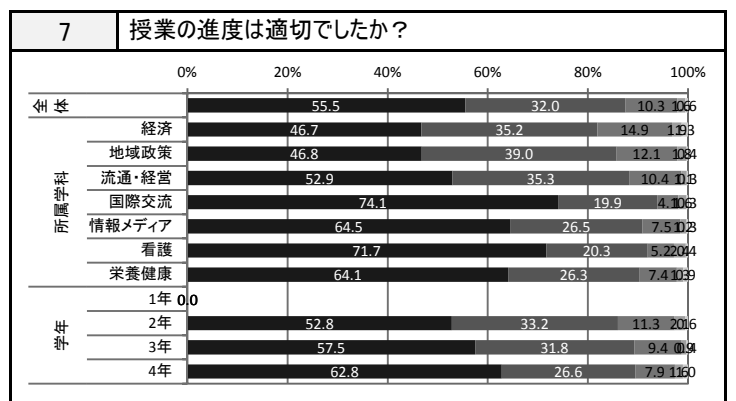
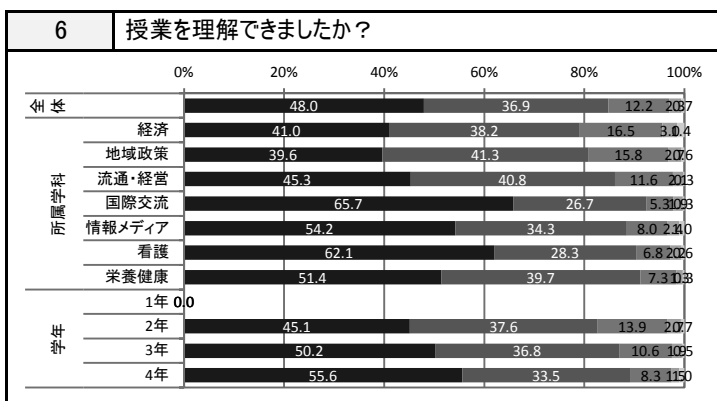
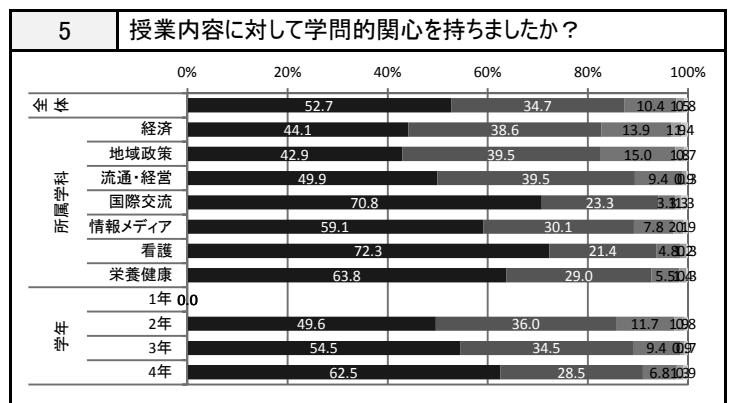
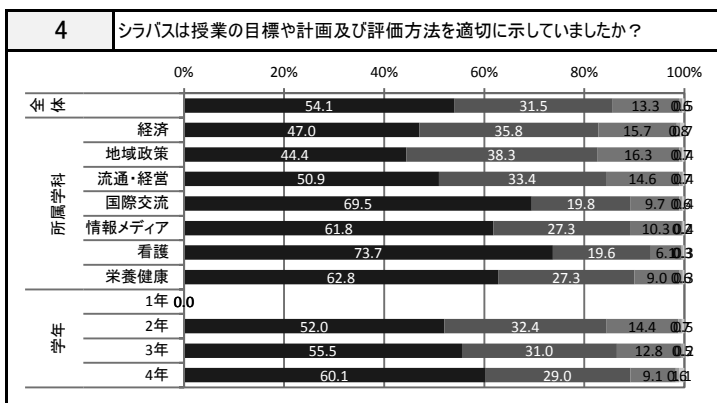
履修者数	28,791
回答者数	9,586
回答割合	33.3%

そう思う(5点)
 どちらかといえば
 そう思う(4点)
 どちらとも
 いえない(3点)
 どちらかといえば
 そう思わない(2点)
 そう思わない(1点)

受講への取り組み



授業内容

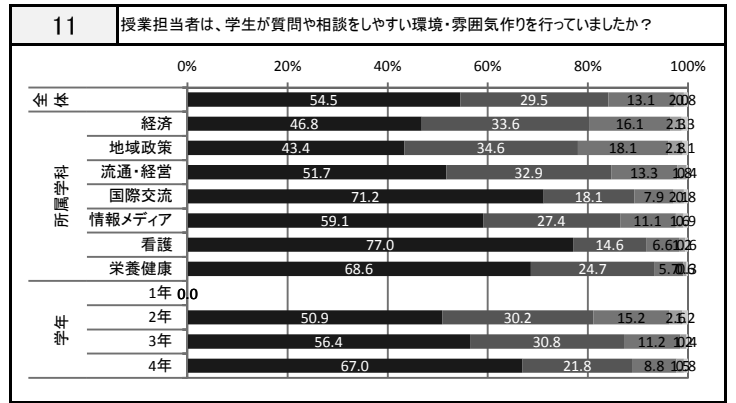
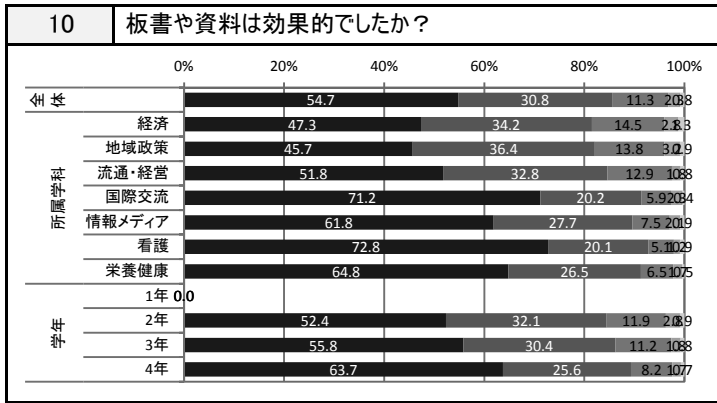
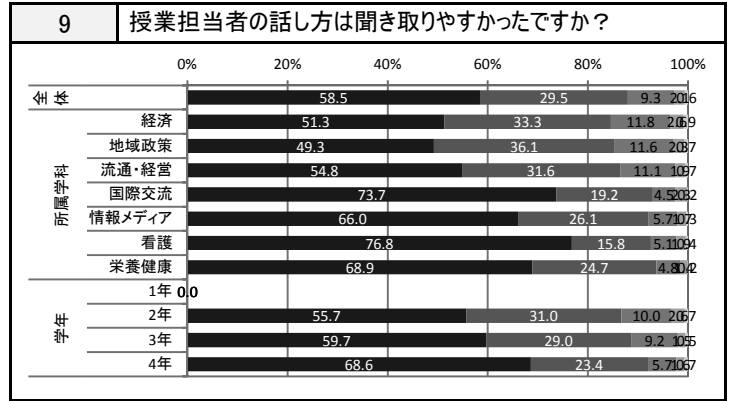
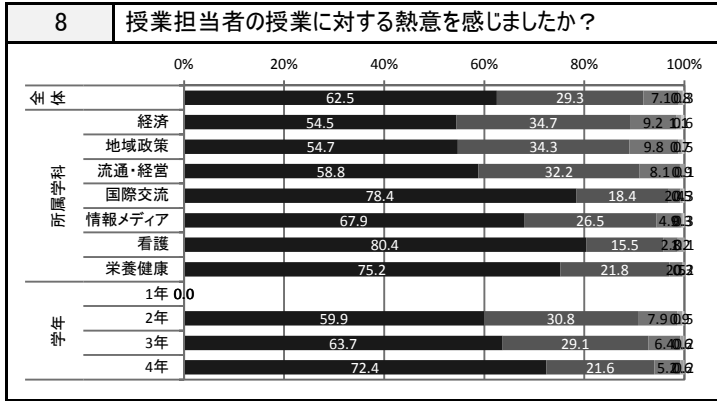


開講科目数	898
対象科目数	762
実施科目割合	84.9%

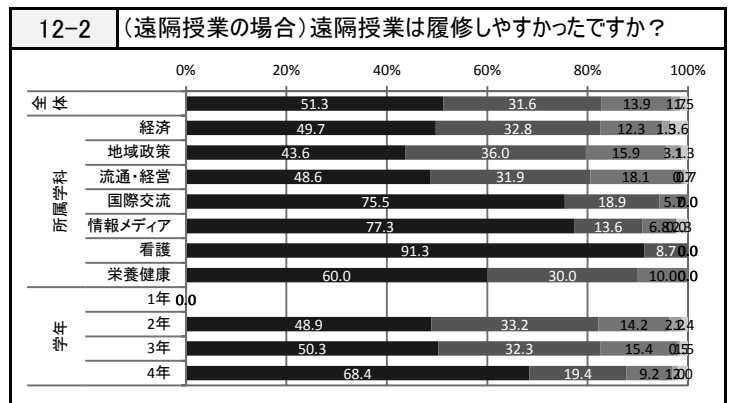
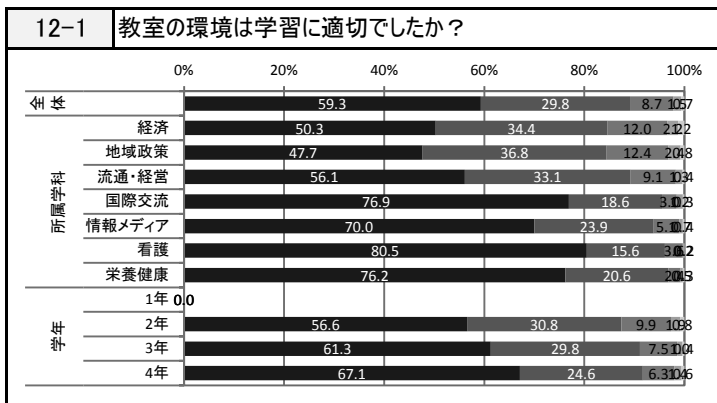
履修者数	28,791
回答者数	9,586
回答割合	33.3%

そう思う(5点)
 どちらかといえば
 そう思う(4点)
 どちらとも
 いえない(3点)
 どちらかといえば
 そう思わない(2点)
 そう思わない(1点)

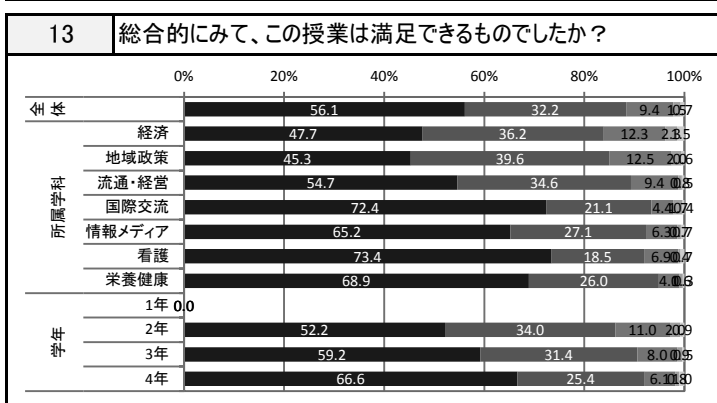
教員の授業への取り組み



授業環境



総括



ファカルティ・ディベロプメントに関するガイドライン

平成27年3月20日 教育開発センター

長崎県立大学が行うファカルティ・ディベロプメント（以下「FD」という。）について、授業の内容や方法の改善、教職員による様々な学生支援及びそのための研究・教育に関する研修についての取組みを明らかにすることにより、本学の教職員のFD活動を推進し、もって教育の質の向上を図り、学生支援の円滑な遂行を図ることを目的とし、このガイドラインを制定する。

1. 定義

「FD」とは、教育に携わる教員の教育・研究指導能力の向上を図り、授業及び研究指導の内容・方法を改善し向上することにより教育の質を高めるための組織的な取組をいう。

2. FDの実施

(1) 実施内容

ピアレビュー（授業参観）や各種アンケートの調査結果等から授業の内容や方法の改善等を検討し、それに基づいて研修会や講演会等を開催することで教育の質の向上に繋げる取組みを実施する。

(2) 実施単位

FDの実施については、全学及び各学部・学科・研究科の単位でそれぞれ行うものとする。

<例>

- ・教育改善に関する講演会等の開催
- ・ピアレビュー（授業参観）及びそれを踏まえた検討会・懇談会の開催
- ・学生授業評価アンケートの分析及びそれを踏まえた検討会の開催

3. FDの年間計画の策定

FD活動の年間計画を全学・各学部・学科及び研究科の単位で策定し、情報共有するために、LC（ライブキャンパス）上に掲載する。

4. FD活動の公表と検証

FD活動実績等について、学内外にHP等の手段により公表するものとする。FD活動の実績を蓄積し、継続的に実施した内容が、教育内容・方法の改善につながったかを検討し、取り組み内容の改善を図るものとする。

H28年度実施FD研修会一覧

全校FD研修会

開催地	開催月日	参加人数	概要
シーボルト校	8/10・11	151名	全体テーマとして「学生の動機づけを高める」、外部講師として、10日に追手門学院大学副学長の秦敬治教授を招聘し、基調講演と分科会を行った。11日に佐賀大学の山内一祥講師を招聘し、講演とシンポジウムを行った。

学部FD研修会

開催地	開催月日	参加人数	概要
経営学部	11/8	21名	経営学部の三戸浩教授等を講師として「しまなびに関する意見交換及び今後の進め方の検討」をテーマに研修を行った。昨年度および本年度に実施された「しまなび」について、それぞれが実施例を報告し、来年度に向けた課題を議論した。「しまなび」の現状に関して意見交換し、問題点を洗い出し、今後の在り方を検討することにより、教育成果および地域貢献の向上を図った。少人数のグループによる意見交換会を行い、有意義な知見が得られた。
地域創造学部	2/7	30名	北九州市立大学キャリアセンターの見館好隆准教授を講師に招聘し「アクティブラーニングの理解と実践について」をテーマに研修を行った。 2020年の大学入試改革に際し、今、高校の授業や進路指導・キャリア教育が大きく変わろうとしている。これらの変化に対応すべきために理解すべき概念が「アクティブラーニング(以下AL)」である。そこでALの理論、北九州大学などの実践例について講義を受けた。そのALの実践として、ルーブリック評価シートの作成など、教員間でワークショップを行った。 FD研修会の後、講師の先生から、非常に積極的かつ活発なグループワークが行われていたと、今回のFDについて高評価いただいた。
国際社会学部	1/20	10名	株式会社リクルートキャリア 就職みらい研究所 所長の岡崎 仁美氏を講師に招聘し「就職の現状と学生の就職支援」について講演をいただいた。 よりよい就職・定着・入社後活躍を目指すため、就職の現状(2017年卒戦線の振り返り一環境回視、活動進捗、活動プロセス)、そして、学生の就職支援(2018年卒戦線の環境予測、就職・定着・入社後活躍への示唆)が説明なされた。
情報システム学部	11/28～ 12/16(授業 参観) 12/26(意見 交換会)	19名	11月28日から12月16日(3週間)まで授業参観を行った。公開された授業数20。 意見交換会で、公開された授業について、(ア)話し方(イ)板書(ウ)スライド(エ)発問(オ)その他で事前にアンケート調査された項目等のデータをもとに、有益な意見が出された。今後、教務委員会等で授業改善のために意見具申したい。
看護栄養学部	6/29	11名	栄養健康学科の山口範見助教授の「健康と食生活」の公開授業を行った。授業参観終了後にディスカッションを行った。
	7/8	15名	看護学科の吉田恵理子准教授の「成人看護学概論」の公開授業を行った。授業参観終了後に意見交換を行った。
	11/21	10名	栄養健康学科の石見百江講師の「栄養指導論」の公開授業を行った。授業参観終了後に意見交換を行った。
	12/1	13名	看護学科の山澄直美准教授の「看護管理(看護職個々人のマネジメント)」の公開授業を行った。授業参観終了後に意見交換会を行った。

学科FD研修会

開催地	開催月日	参加人数	概要
経営学科	5/27	7名	地域連携センターの中島洋特任教授を講師に「しまなびの学生指導のポイントと高校訪問のポイント」をテーマに研修を行った。今年度のしまなびの進め方について、前年度からの改善点を確認しながら説明をしていただいた。今年度は学科の枠を外し、混成グループにしていること、各グループにリーダーシップをとれる学生を配していることなども説明をしていただいた。
	3/1	12名	神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 副研究科長の忽那 賢治教授を講師に招聘し「地域活性化と経営教育一商工業の活性化と起業家教育の事例を中心として」をテーマに研修を行った。大阪市立大学のアントレプレナーシップに関する取り組みについて、説明が行われた。
国際経営学科	7/12	10名	HIDA(一般財団法人 海外産業人材育成協会) 政策推進部の国際人材グループ長である鮎合 健一郎氏を招聘し、HIDAが実施している国際化促進インターンシップ事業についての研修を実施した。海外インターンシップの具体的内容と実績、受入機関の開拓、プロジェクト・マネージャーとしての仕事、インターンシップ実施の障害とトラブル事例、大学向けインターンシップ・プログラム企画案などについての説明を受け、本学インターンシップについてアドバイスも受けた。
	11/15	10名	明治大学経営学部の大石芳裕教授を講師に招聘し「グローバル人材育成における大学教員の役割」をテーマに研修を行った。 大学内外でグローバル人材の育成に携わっている大石芳裕先生の話を伺い、大学教員の役割について意見交換を実施した。明治大学経営学部の取り組み(大学教育・学生推進事業、大学教育推進プログラム、明治大学「グローバル30」選出、特別選抜英語4年間カリキュラム、デュアルディグリー・プログラム、留学生数、フィールドスタディー、プレゼンテーション大会)などの具体例、そして、大石先生のゼミナールにおけるグローバル教育の実践例についてもお伺いした。
	11/22	7名	トア紡コーポレーションのグエン・ティン・ニユン氏を講師に招聘し「ベトナムでの働き方」をテーマに研修を行った。ベトナムの現在の経済や生活の状況が語られ、現地における習慣の違いなど気を付けるべき点についての報告が行われた。日本では当然と思われることが現地では問題となることも多い。しっかりと事前の確認を行なう事で現地でのトラブルを少なくするようにしたいといけないうことが確認され、今後の準備に対する貴重なアドバイスとなった。

公共政策学科	7/19	9名	公共政策学科の橋本優花里教授の「教育心理学」の講義に参加、授業を聴講した後、講師を囲んで意見交換会を実施した。
	11/16	8名	公共政策学科の阿部律子教授の「長崎と文化」の講義に参加、授業を聴講した後、講師を囲んで意見公開を実施した。
実践経済学科	7/19	14名	長崎県立大学教育開発センター長の橋本優花里教授を講師に「初年次教育の進め方について」をテーマに研修を行った。実践経済学科において本年度採用された教員の多くは、これまでで大学の初年次教育に携わった経験がない。このため、1年次必修の教養セミナーの授業運営方法改善を念頭に、導入教育のあり方についてお話をいただいた。 講師から教育機関としての大学の構造変化、高校生・新入生の意識変化を踏まえて、各大学に共通している問題点と、それへの対処方法についてご講義をいただいた後、出席した学科教官自らが直面した問題に関して、活発な質疑応答・議論が行われた。
	2/14	17名	九州インターンシップ推進協議会のコーディネータの安田麻季代氏と事務局職員の斉藤拓馬氏を講師に招聘し「担当者に聞くインターンシップ～教育を軸に置いた通常型と実践型～」をテーマに研修を行った。平成30年度からの3年次インターンシップ必修を見越して、学生のモチベーション向上策や効果的な実践プログラム内容等についての研修を行った。
情報システム学科	12/20	10名	「学外試験による単位認定科目の現状と課題」をテーマに研修を行った。 学外試験による単位認定科目である、情報技術演習と情報システム演習の現状と課題について現状の課題と今後の取り組みについて議論した。特に、情報システム演習に対応する、基本情報技術者試験については単一講義科目での取り組みに限界があるため、基本情報技術者試験のシラバスと学科で開講されている科目の内容のマッチングを行い、学科全体で取り組むための方針を議論した。
情報セキュリティ学科	2/28	9名	情報セキュリティ学科の加藤雅彦教授を講師に「情報セキュリティ演習室の活用方法の検討」をテーマに研修を行った。 本研修は、2017年1月完成予定の情報セキュリティ演習室(仮称)について、下記の説明を行い、今後の活用のために必要な具体的なシステム(たとえば攻撃・防御のシステムなど)構成について議論し、いかに構築していくかについて、議論を行った。 ・セキュリティ演習室の概要、および要求仕様について ・セキュリティ演習室の実装とプロジェクトの状況について ・現在想定しているセキュリティ演習室の授業、および教員の研究利用での使い方について
看護学科	12/19	20名	看護栄養学部看護学科の立石憲彦教授を講師に「パワーポイントの使い方のコツ ～私はこうやって作っています～」をテーマに研修を行った。 看護学科のFD研修を開催するにあたり、教員より講義で使用するパワーポイントや動画の作成や利用がいまいちうまくいかないという声があった。そこでそれらのコツについて講義形式で実施した。内容として、教科書を効果的に活用する方法、デザインの設定、レイアウトやみやすい図表の張り込み方法、配布資料の作成や動画の利用法等多岐にわたった。参加した教員からは、他ソフトの利用との相違点や学生指導上の効果的な方法等について質問も出され相互交流的な研修となった。
	3/16	21名	看護栄養学部看護学科の久佐賀真理教授、松本幸子教授、山澄直美准教授、吉田恵理子准教授、片穂野邦子講師を講師に「看護学科における総合看護のあり方について」をテーマに研修を行った。 研修目的「本学看護学科における総合看護のあり方について共通理解を図る」 2限:各講師より、「養成所指定規則における総合看護について」「本学におけるこれまでの取り組み～しまの健康実習、災害看護学が生まれた経緯とその後の歩み」「平成24年度入学生カリキュラム概要について」「しまの保健・医療・福祉」「災害看護学」についての講義 3限:5Gに分かれ、本学看護学科における総合看護についてグループワークを通して、共通理解を図った。
栄養健康学科	11/12	11名	就職GL山崎栄一氏を講師として「学生の進路支援について～キャリアポートフォリオの活用法～」をテーマに研修を行った。栄養健康学科の学生の過去7年の就職状況について説明いただいた。近年は病院の募集が激減しており、管理栄養士として商品の知識を有している学生が欲しいという企業のニーズもあって、製造業および小売・卸売業に就職する学生が増加傾向にあるとのことであった。また、学生の進路支援の一環として、入学時に配布されるキャリアポートフォリオの活用法についても説明いただいた。キャリアポートフォリオの就職活動への活用については、毎年4月に行われる各学年の学科ガイダンスで活用を促すようにしていく予定である。

大学院FD研修会

開催地	開催月日	参加人数	概要
経済学研究科	7/26	16名	東亜大学融合教養学部KIM Do-Hoon准教授を招聘し「韓国の大学院教育と国際化」をテーマに研修を行った。韓国の大学院教育の現状と課題について説明がなされた。
国際情報学研究科	3/16	18名	国際情報学研究科の荻野見教授による「平成29年度以降の修士論文審査について」をテーマに研修を行った。国際情報学研究科では平成28年1月12日の「修士論文審査に関する申し合わせ事項」にもとづいて、平成29年度から指導教員と主査を分離して修士論文の審査を行う。今年度に入ってまもなく、平成30年3月修了予定者の論文審査の主査、副査を決定する。今年度、新しい審査方法について教員の間での認識の共有をはかるため、研究科長が自身の論文指導、審査の経験を踏まえ、新たな審査方法の採用の経緯、今後審査の過程で予想される問題点や課題について報告した。報告後の質疑応答では、出席者から論文作成の過程での主査の果たす役割とは何かなどの質問があった。
人間健康科学研究科	12/16	18名	長崎大学教育学部の田山淳准教授を講師に招聘し「心の問題を有する学生に対するサポートと教育について」をテーマに研修を行った。 長崎大学の保健管理センターで長大生のメンタルな相談を担当されている先生であり、心の問題を有する学生の実例や対処方法(ストレス関連疾患・学生に対するサポート方法・セルフケアとその支援・他)について、ご講義いただいた。

長崎県立大学GPA制度活用基本方針

この基本方針は、本学におけるGPA制度活用のための基本的事項を定めるものである。

これまでに実施してきたGPA制度に関する各種取り組みについては、この基本方針と連携を図りつつ引き続き適切な実行を図るものとする。

基本方針

1. 成績通知書への記載

学習状況を把握し、学習計画の改善に役立てるため、学期GPA及び累積GPAを成績通知書に記載するものとする。

2. 履修指導への活用

学習計画の改善に役立てるため、学期GPAが基準以下の場合、履修指導を行うものとする。

3. 成績優秀者表彰への活用

学習意欲を奨励するため、GPA上位者への表彰を行うものとする。

4. 授業料免除への活用

学習意欲を奨励するための授業料免除の制度を設定する際には、成績基準としてGPA制度を活用する。

長崎県立大学学生支援基本方針

(目的)

この基本方針は、学生が充実した学生生活を送るための、大学の体系的な支援（修学支援、生活支援、進路支援）の推進を目的とする。

(基本方針)

1 修学支援

学生が、各学部の教育理念、人材育成の方針に応じた適切な教育を受け、ディプロマポリシーに掲げた学位及び知識・技能を修得するために必要な修学支援を行う。

2 生活支援

学生が、心身ともに健康で、サークル活動やボランティア活動を積極的に行えるなど、豊かな課外活動を送るために必要な生活支援を行う。

3 進路支援

学生が、低学年次から自分自身の将来の生き方を考え、目的意識を持って大学生生活を送るために必要な進路支援を行う。

長崎県立大学学生支援基本方針にもとづく項目別支援策

1 修学支援

学生が、各学部の教育理念、人材育成の方針に応じた適切な教育を受け、ディプロマポリシーに掲げた学位及び知識・技能を修得するために必要な修学支援を行う。

- (1) 学生が教員の研究室を訪問し一層のコミュニケーションを図るとともに、授業に関する質問や勉強方法などについて気軽に相談できる環境を提供する。
- (2) 附属図書館の開館を22時まで、講義室（教室）の貸出を21時までとし、学生が集中して学習できる環境を提供する。
- (3) 留年者および休退学者については、状況を把握・分析し、必要な対策を講じる。

2 生活支援

学生が、心身ともに健康で、サークル活動やボランティア活動を積極的に行えるなど、豊かな課外活動を送るために必要な生活支援を行う。

- (1) 学生個人の経済事情・環境を考慮し、奨学金や授業料減免制度などを紹介することにより生活支援を行う。
- (2) 学生の抱える困難な問題、とりわけメンタルな問題に対処するため、指導教員を中心に、学生相談室、保健室、事務局との連携を図る。
- (3) 留学生に対し、チューター制度を設けるなどにより、留学生の生活支援を行う。

3 進路支援

学生が、低学年次から自分自身の将来の生き方を考え、目的意識を持って大学生活を送るために必要な進路支援を行う。

- (1) 学生が希望する進路の実現に向けて、体系的なキャリア教育、ガイダンスを実践し、初年次から職業観を醸成するとともに、卒業後の社会的・職業的自立のための能力を培うため、教職員が一体となってキャリア形成支援を行う。
- (2) 入学から卒業までを支援する「キャリアポートフォリオ」の有効活用により、学生自らが考え行動する力を涵養できるよう、教職員が連携し支援を行う。
- (3) 進路支援を充実させるため、保護者、卒業生との連携や学生同士のピアサポートを強化する。
- (4) 「進路記録簿」により、教職員が学生個々の就職活動等の状況を共有し、学生の志望に沿った進路支援を行う。

「長崎県立大学やるばいプロジェクト」奨励金交付実績

(単位:人、円)

実施年度	実施校	プロジェクト名	構成員数	交付実績額
平成28年度	佐世保校	～Jump SASEBO～	4	16,431
		～訪問演奏おんがく隊～	4	26,160
		～諫早検定～	1	7,320
		地域の活性化 ～PIEESピース(The Program for Intercultural Education And English Studies) 異文化理解、外国語教育支援・国際交流に 関する大学生の地域貢献活動～	4	24,330
	シーボルト校	～離島の活性化～	7	128,057
		やるばい五島～五島の魅力を再発見～	3	180,210
		長崎のしまに学ぶ 五島1班	11	28,673
平成27年度	佐世保校	僕らの学びを実践プロジェクト in 四ヶ町商店街	7	19,690
		PIEESピース(The Program for Intercultural Education and English Studies)異文化理解・外国語教育支援に関する大学生の地域貢献活動と国際交流	15	94,450
		心潤う音楽提供	4	82,872
平成26年度	佐世保校	地域社会と連携し、よりよい音楽の提供を目指すプロジェクト	34	82,982
		PIEESピース(The Program for Intercultural Education And English Studies)異文化理解、外国語教育支援・国際交流に関する大学生の地域貢献活動	16	131,200
		三ヶ町・四ヶ町の新たな魅力発掘プロジェクト	17	121,980
		Sun + light(フェアトレード・カフェスタンドおよびショップ)	33	64,013
	シーボルト校	教会さるく～世界遺産登録推奨プロジェクト～	22	51,942
		教えて先輩！プロジェクト	6	0
平成25年度	佐世保校	音楽の共有による地域交流プロジェクト	32	104,323
		PIEESピース(The Program for Intercultural Education And English Studies)異文化理解、外国語教育支援に関する大学生の地域貢献活動	18	163,505
	シーボルト校	ナニゴトー！？	16	162,455
		長与駅フェスティバル	2	331,842
		RadiPicながさき～長崎新発見～	10	203,360
平成24年度	佐世保校	PIEES ピース (The Program for Intercultural Education and English Studies)異文化理解・外国語教育支援に関する大学生の地域貢献活動	15	386,000
		音楽を通して地域交流プロジェクト	62	91,200
	シーボルト校	JSN～長崎をとれ！～	2	173,500
		障がいをもつ児童らのプチ運動会 ～深めよう！実践を通じた障がい理解～	24	140,080
		育てよう食育の芽！広げよう交流の畑	61	496,500

就職状況

＜佐世保校＞

(単位:%)

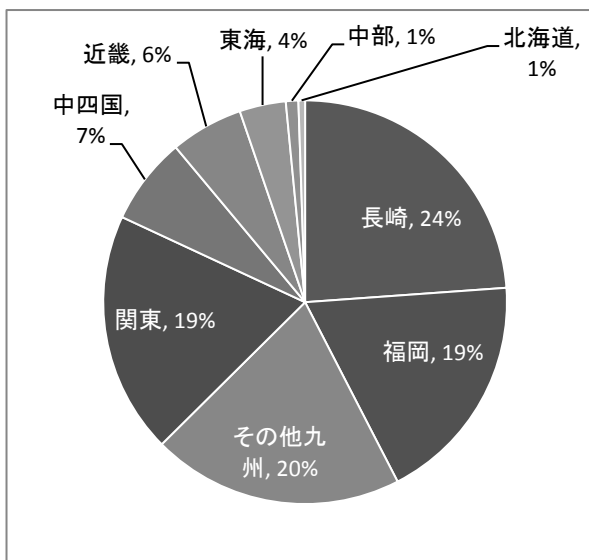
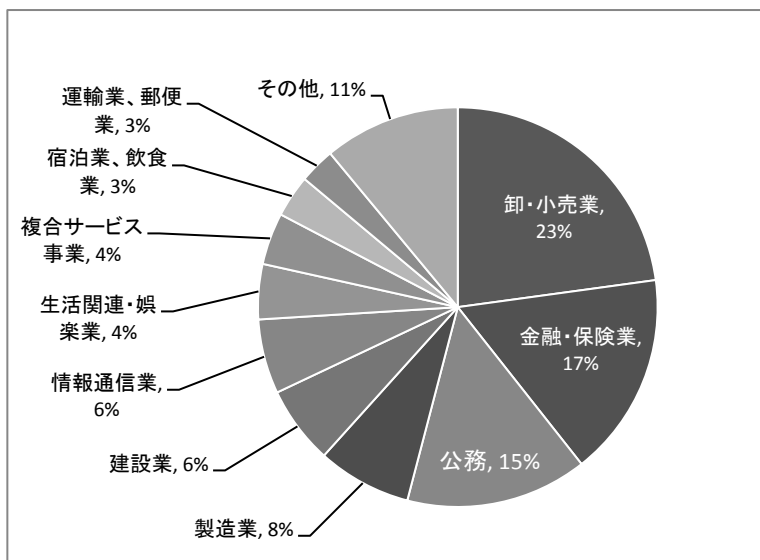
	経済学部			計 (①+②+③)
	経済学科 ①	地域政策学科 ②	流通・経営学科 ③	
28年度	100.0	97.1	98.5	98.4
27年度	97.5	96.7	96.2	96.8
26年度	95.6	97.1	96.9	96.5
25年度	92.6	97.6	90.6	93.5
24年度	91.7	90.3	94.6	92.2
23年度	91.8	89.0	90.5	90.4

＜シーボルト校＞

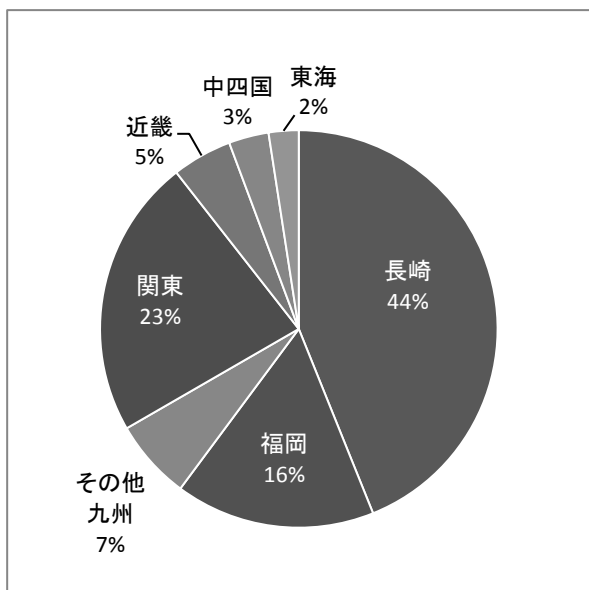
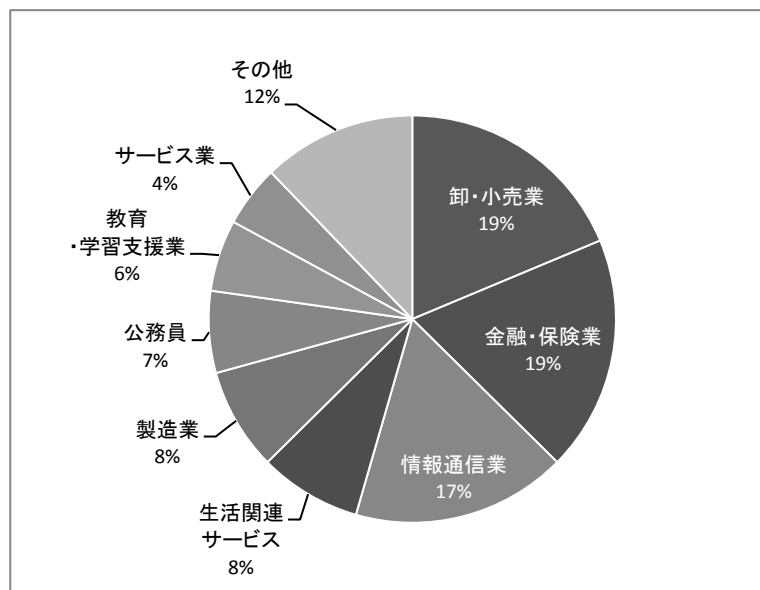
(単位:%)

	国際情報学部			看護栄養学部			合計 (①+②+③+④)
	国際交流学科 ①	情報メディア学科 ②	計 (①+②)	看護学科 ③	栄養健康学科 ④	計 (③+④)	
28年度	95.9	100.0	97.6	100.0	100.0	100.0	98.6
27年度	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
26年度	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
25年度	98.7	98.4	98.6	100.0	94.4	97.8	98.3
24年度	98.2	94.2	96.3	100.0	91.2	96.7	96.5
23年度	95.7	90.7	93.5	100.0	94.6	98.1	95.6

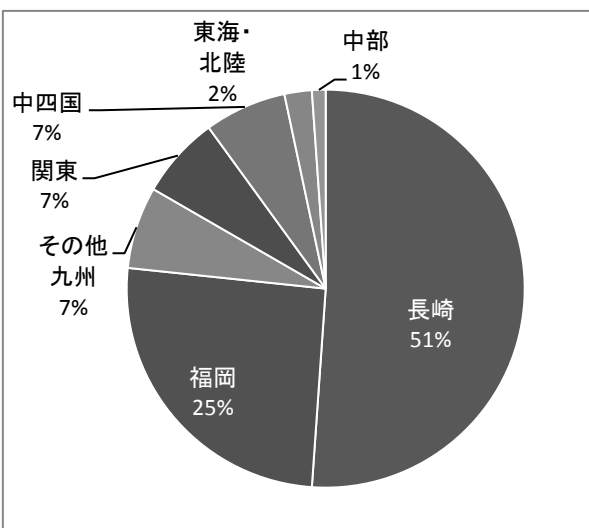
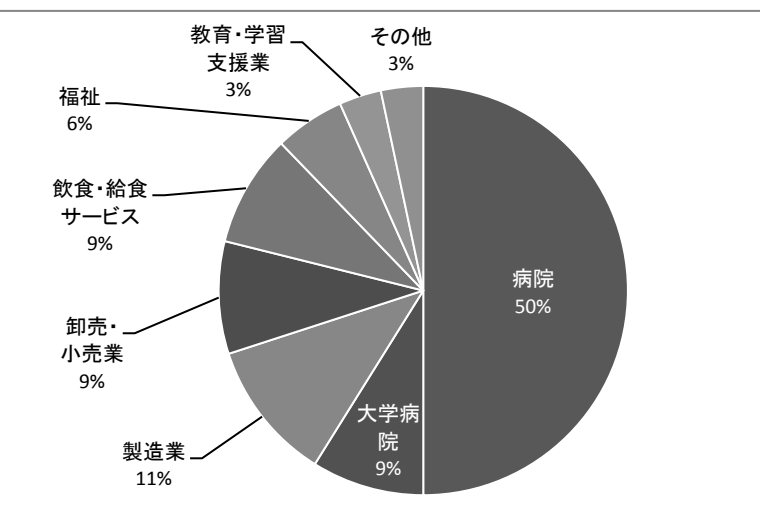
○経済学部



○国際情報学部



○看護栄養学部



平成28年度卒業生 主な就職先

☆経済学部

経済学科	大阪鋼管、協和機工、クリヤマ、十八銀行、親和銀行、全国農業協同組合連合会 西部環境調査、東七、JR九州ハウステンボスホテル、アイ・ケイ・ケイ 大分銀行、内海造船、かんぼ生命、コメリ、JTB九州、第一精工、大和ハウス工業 東芝プラントシステム、豊田鉄工、鳥居薬品、日本郵便、ヤマエ久野、ローソン 内閣府、山口地方法務局、長崎県、長崎県教育事務、長崎県警、静岡市
地域政策学科	イシマル、ジャパネットたかた、ハウステンボス、メモリード、翔薬、九州旅客鉄道 海上自衛隊、国税専門官、財務専門官、日本年金機構 佐世保市、佐世保市消防局、長崎県警、長崎県警察事務、長崎市、松浦市 阿久根市、茨城県、鹿児島県教育事務、神奈川県、国東市、神戸市 佐伯市、東京消防庁、福岡県警察行政、宮崎県、八代市
流通・経営学科	安達、エレナ、佐々木冷蔵、佐世保重工業、佐世保商工会議所、長崎キヤノン 長崎県農業協同組合、イズミ、SMBC日興証券、鹿児島銀行、河合楽器製作所 九州労働金庫、スガテック、セキスイハイム九州、積水ハウス、大正富山医薬品 損保ジャパン日本興亜、トーハン、西鉄旅行、日本郵便、日立物流ソフトウェア マイナビ、宮崎銀行、ヤマト運輸、ゆうちょ銀行、長崎県警、長崎市

☆国際情報学部

国際交流学科	アイティーアイ、ANAテレマート、大島造船所、JALスカイ九州、十八銀行 商工組合中央金庫、親和銀行、損害保険ジャパン日本興亜、大和証券 チューリッヒ保険会社、長崎女子高等学校、長崎船舶装備、農林中央金庫 アイコム、ANA福岡空港、JTB九州、クリナップ、エスケー化研、森六ケミカルズ 楽天銀行、長崎県教育委員会、長崎県教育事務、長崎県警察、長崎市
情報メディア学科	あいおいニッセイ同和損害保険、AIGグループ、MHPSコントロールシステムズ オフィスメーション、扇精光ソリューションズ、十八銀行、チューリッヒ保険会社 日本ビジネスソフト、長崎県民共済生活協同組合、純心女子学園、ハウステンボス 九州総合サービス、ソルクシーズ、DNP情報システム、マイナビ、楽天銀行、ヤフー 長崎市、東京消防庁、高齢・障害・求職者雇用支援機構

☆看護栄養学部

看護学科	諫早総合病院、佐世保共済病院、佐世保中央病院、重工記念長崎病院 長崎北病院、長崎県上五島病院、長崎県教育委員会、長崎原爆病院 長崎大学病院、長崎病院、長崎みなとメディカルセンター市民病院 北里大学病院、九州中央病院、済生会熊本病院、聖マリア病院 浜の町病院、福岡市立こども病院、福岡赤十字病院、福岡大学病院
栄養健康学科	九十九島グループ、たらみ、俵町浜野病院、長崎みどり病院、ひぐちグループ 虹が丘まめの木保育園、プライエム横尾、前田医院、KKR高松病院、LEOC、MTG 味の兵四郎、アルペンリハビリテーション病院、伊都コスモス保育園、えひめ飲料 クリニコ、ココカラファイン、再春館製薬所、済生会今治病院、たいよう保育園 みなと保育園、ダイショー、日清医療食品、富士産業、マルサヤ、モルツウエル

県内就職率とその向上に向けた取組

	平成28年度					平成27年度			
	就職者数 (人)	うち県内 就職者数 (人)	県内就職率	対前年比	県内就職率向上のための 実施事項	就職者数 (人)	うち県内 就職者数 (人)	県内就職率	県内就職率向上のための 実施事項
経済学部	381	92	24.1%	1.0%	○長崎県インターンシップ協議会と連携し、県内企業を中心にインターンシップを促進した。(県内企業へ28人参加) ○鵬友会の協力で、佐世保市役所などから講師を招き、就職ガイダンスで企業研究、面接指導を行った。	358	83	23.2%	○長崎県インターンシップ協議会と連携し、県内企業を中心にインターンシップを促進した。(県内企業へ34人参加) ○鵬友会の協力で、親和銀行、佐世保市役所などから講師を招き、就職ガイダンスで企業研究、面接指導を行った。
経済学科	114	30	26.3%	5.8%	○県内で開催される企業説明会への参加を促した。開催地が遠方の際は、大学バス等を運行し、参加を促した。 ○県内企業を中心に学内合同企業説明会を開催した。(4月県内企業19社、参加者67名、7月県内企業8社、参加者40名)	117	24	20.5%	○県内で開催される企業説明会への参加を促した。開催地が遠方の際は、大学バス等を運行し、参加を促した。 ○県内企業を中心に学内合同企業説明会を開催した。(県内企業21社、参加者127名)
地域政策学科	136	31	22.8%	-8.2%	○学内個別企業説明会(県内31社、参加者149名) ○業界研究セミナー(県内企業3社、参加者41名) ○キャリアデザイン授業で、県内9企業、事業所等(長崎県信用保証協会、小川工務店、きぼう社会保険労務士事務所、親和銀行、ハウステンボス、長崎県信用保証協会、佐世保観光コンベンション協会、ジェニユイン、佐世保玉屋、社会福祉法人白寿荘)から講師を招き、県内企業の研究や、求められる人材像の確認を行なった。	116	36	31.0%	○学内個別企業説明会(県内24社、参加者127名) ○業界研究セミナー、座談会(県内企業2社、参加者23名) ○キャリアデザイン授業で、県内8企業、事業所等(長崎県信用保証協会、小川工務店、大阪鋼管、きぼう社会保険労務士事務所、親和銀行、ハウステンボス、佐世保地域文化事業財団長崎県、佐世保玉屋)から講師を招き、県内企業の研究や、求められる人材像の確認を行なった。
流通・経営学科	131	31	23.7%	5.3%	○長崎県インターンシップ協議会と連携し、県内企業を中心にインターンシップを促進した。(県内企業へ60人参加)	125	23	18.4%	○前年同様、長崎県インターンシップ協議会と連携し、県内企業を中心にインターンシップを促進した。(県内企業へ43人参加)
国際情報学部	123	54	43.9%	1.6%	○県内で開催される企業説明会への参加を促した。また、長崎会場では就職相談員も足を運び、学生への支援を行なった。	130	55	42.3%	○前年同様、長崎県インターンシップ協議会と連携し、県内企業を中心にインターンシップを促進した。(県内企業へ43人参加)
国際交流学科	70	35	50.0%	2.9%	○長崎県看護職員合同就職説明会への参加を促した。またバス運行支援を行なった(32名)。	68	32	47.1%	○前年同様、県内で開催される企業説明会への参加を促した。また、長崎会場では就職相談員も足を運び、学生への支援を行なった。
情報メディア学科	53	19	35.8%	-1.2%	○県内企業を中心に学内合同企業説明会を開催した。(3月：県内企業20社、参加者102名) ○学内個別企業説明会(県内11社、参加者39名)	62	23	37.1%	○長崎県看護職員合同就職説明会への参加を促した。またバス運行支援を行なった(27名)。 ○県内企業を中心に学内合同企業説明会を開催した。(3月：県内企業15社、参加者100名) ○学内個別企業説明会(県内8社、参加者42名)
看護栄養学部	90	46	51.1%	5.7%	○看護学科対象県内病院見学会を実施した。(6病院。参加者59名) ○教職員による県内企業への訪問等を実施した(20社) ○キャリアデザイン授業で、県内企業(日本銀行長崎支店、長崎労働局、長崎空港ビルディング、長崎県)から講師を招き、県内企業の研究や、求められる人材像の確認を行なった。	99	45	45.5%	○看護学科対象県内病院見学会を実施した。(6病院。参加者47名) ○教職員による県内企業への訪問等を実施した(16社) ○キャリアデザイン授業で、県内企業(長崎文化放送、長崎新聞社、ハウステンボス、十八銀行、親和銀行、長崎船舶装備、長崎県、長崎市)から講師を招き、県内企業の研究や、求められる人材像の確認を行なった。
看護学科	49	32	65.3%	12.1%	○県内企業で活躍するOB・OGを招き、情報交換会を実施した(参加学生 国際情報学部：21名 看護栄養学部：94名)	62	33	53.2%	○県内企業で活躍するOB・OGを招き、情報交換会を実施した(参加学生 国際情報学部：24名、佐世保校1名)
栄養健康学科	41	14	34.1%	1.7%		37	12	32.4%	
大学総計	594	192	32.3%	1.4%		588	182	31.0%	

インターンシップの実施状況

(単位:人、社)

区分		参加者 (のべ)	うち履修登録者	うち単位修得者	受入企業
28年度	佐世保校	83	20	20	47
	シーボルト校	65	19	18	42
27年度	佐世保校	53	19	19	33
	シーボルト校	45	12	12	29
26年度	佐世保校	33	21	21	23
	シーボルト校	54	28	27	41
25年度	佐世保校	41	28	28	32
	シーボルト校	43	23	23	31
24年度	佐世保校	41	28	28	32
	シーボルト校	64	27	27	36
23年度	佐世保校	54	53	52	31
	シーボルト校	44	18	18	25

※平成27、28年度は、経済学部で実施した「企業インターンシップ」試行参加者を含む

○主な受入企業(28年度実績)

＜佐世保校＞

- ・佐世保市
- ・(株)十八銀行
- ・社会医療法人財団白十字会
- ・(株)共立自動車学校
- ・学校法人九州文化学園

他

＜シーボルト校＞

- ・長崎県庁
- ・長崎市
- ・(株)イシマル
- ・(株)長崎新聞社
- ・(株)リンク

他

学長裁量研究実績一覧

(単位: 件、千円)

平成24年度		平成25年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
78	74,623	61	49,399	65	559,571	63	46,971	52	38,445	58	40,626

[平成28年度の取り組み]

研究種目	研究代表者		共同・個人の別	研究期間(年)	研究課題	交付額 (千円)
	学科	氏名				
離島	地域連携センター	中島洋	共同	2	「しまなび」プログラムにおけるコーディネーター(地域住民)を活用した学びの仕組みの開発	742
	情報システム	金谷一朗	共同	1	バーチャル世界遺産の構築	2,546
	教育開発センター	井ノ上憲司	共同	1	「しまなび」プログラムにおける地域住民を活用した学びの仕組みを開発	529
	国際社会	森田均	個人	3	地域社会における高度交通システム構築から情報社会論へ新たな研究手法を獲得する試み	966
東アジア	地域政策	松本勝明	個人	1	東アジア諸国と日本との間を移動する労働者の社会保障に関する研究	1,017
	経済	中村和敏	個人	2	インドネシアにおける地域経済成長と技術普及	558
	経済	田村善弘	個人	1	韓国の食農分野における消費者教育に関する研究	283
	国際社会	祁建民	個人	3	中国水利史像の再構築と日中水利環境技術と産業の協力	541
重点課題研究 長崎の地域課題	流通・経営	山本裕	共同	2	長崎県(離島を含む)と中国・韓国を結ぶネットワークの構築に関する研究(2カ年)	623
	流通・経営	西島博樹	共同	1	人口減少社会における住みたいまち・むら創出に関する課題ー長崎県の事例を中心	851
	看護	平野かよ子	共同	3	長崎県下の市町村合併後の保健師の活動体制のあり方に関する研究	837
	栄養健康	田中一成	共同	3	長崎県産物を用いて製造した発酵茶の機能性表示食品としての届出への取り組み	2,368
	栄養健康	富永美穂子	共同	1	長崎県産農林産物・加工品の価値を高める成分および方法の探究	1,492
	国際社会	山田健太郎	共同	1	長崎市の観光に関連付けたプロジェクト型外国語活動の可能性と問題点	444
	情報システム	有田大作	個人	1	ブックマーク機能付き圃場ウォークスルーシステムの開発	443
	看護	大塚一徳	個人	3	ワーキングメモリ機能の査定を取り入れた認知症への理解を深めるための認知症普及・啓発講座の教育システム設計・開発・運用	1,472
	国際社会	松尾晋一	個人	3	島原本光寺常盤資料館と観光	450
本学の個性創出	情報システム	加藤雅彦	共同	3	個人情報漏えい事故の情報収集と分析に関する調査研究	908
	情報システム	青木研	共同	2	コンペティションへの出品を目指した映像制作教育の試行	180
	情報システム	小松文子	共同	2	サイバーセキュリティアナリストの状況認識構造の研究	525
	情報システム	日下部茂	共同	4	セーフウェアの教育研究に関する調査	636
	栄養健康	四童子好廣	共同	4	動物細胞における内因性ゲラニルゲラノイン酸(GGA)並びに2,3-ジヒドロGGAの同定	1,840
	看護	永峯卓哉	共同	1	タブレットによる模範映像と学習者映像の同時提示システムを活用した口腔機能向上プログラムコンテンツの作成と評価	377
	栄養健康	湯浅正洋	共同	1	ビオチンの肥満および脂質代謝改善効果に関する研究	2,054

重点課題研究	本学の個性創出	栄養健康	古場一哲	共同	1	大豆乳酸発酵物のメタボリックシンドローム改善作用に関する栄養学的研究	1,820
		栄養健康	松澤哲宏	共同	1	耐熱性カビの個体識別法の開発	1,674
		地域政策	山崎祐一	個人	2	「実践力のあるグローバル人材」の育成とその教育方法に関する研究～英語の知識を海外研修や異文化間コミュニケーションに必要な戦略的コミュニケーションスキルにどう転換していくか～	609
		栄養健康	吉澤和子	個人	5	長崎県の実食摂取頻度調査票(FFQ)のカロテノイド摂取量の妥当性研究	1,360
一般課題研究	看護	堂下陽子	共同	1	A県において訪問看護を利用している子育て中の精神障害者とその子どもの特性と看護上の課題	539	
	栄養健康	飛奈卓郎	共同	1	運動による身体組成と安静時代謝量の変化に関する研究	878	
	情報セキュリティ	松崎なつめ	共同	1	プライバシー保護システムのモデル化と高機能暗号の課題分析	652	
	栄養健康	岡本恭子	共同	1	肝癌患者血清を用いたメタボローム解析によるバイオマーカの探索	550	
	看護	片穂野邦子	共同	2	アファチニブ治療により有害事象が生じた肺癌患者の体験-皮膚粘障害・下痢がQOLに及ぼす影響-	433	
	栄養健康	駿河和仁	共同	1	長崎県農産物の肥満および脂質・糖質代謝異常に対する効果の検討	564	
	栄養健康	石見百江	共同	1	幼児の咀嚼能力と運動能力向上のための食教育に関する研究	468	
	看護	吉田恵理子	共同	1	初等・中等教育をうける吃音者の母親が感じる「生きづらさ」と合理的配慮についての研究	503	
	栄養健康	森田茂樹	共同	1	甲状腺ホルモンおよび微量元素測定による栄養状態把握法の検討(健常者における正常範囲の検討)	498	
	看護	山谷麻由美	共同	1	自治体保健師のOJTの現状と課題～キャリアパスの活用～	247	
	看護	木村チヅル	共同	3	新総合事業移行による地域包括ケアシステム構築に関する研究	277	
	流通・経営	村上則夫	個人	1	地域コミュニティの発展へ向けての一考察 -地域交流・連携ネットワークによる新たな地域発展の試み-	239	
	地域政策	奥山忠裕	個人	1	津波災害に対する支払意志額の比較研究	450	
	経済	大塚芳宏	個人	1	空間計量モデルの地域分析への応用	439	
	地域政策	雪丸武彦	個人	1	佐世保市立中学校でのボランティア体験を通じた学生の職能成長に関する研究	213	
	地域政策	麻生雄治	個人	1	センテンス・コンバイニングを取り入れた英作文指導の研究と教材開発	370	
	流通・経営	舟橋豊子	個人	1	フィリピンにおける卸売業の役割について	299	
	栄養健康	大曲勝久	個人	1	非アルコール性脂肪肝炎に対する根治的治療法開発のための幹繊維化進展機序の解明	378	
	情報セキュリティ	松田健	個人	1	ロバストな回帰アルゴリズムの創生とデータの幾何学的構造を用いた評価手法の確立	450	
	情報システム	平岡透	個人	1	バイラテラル包絡フィルタを用いたノンフォトリアスティックレンダリングに関する研究	384	
	情報システム	永野哲也	個人	1	フィンスラー空間における線形平行移動に基づく方向の対称性とランズベルグ空間の研究	270	
	看護	山口多恵	個人	1	高齢者長期ケア施設における中堅看護師のアンラーニングを促進するプロセスモデルの開発と検証	395	
	栄養健康	山口範晃	個人	1	筋細胞G2C12のAMPK活性に及ぼすビタミンAの影響	334	
国際社会	河又貴洋	個人	1	情報化のパラドックス解説～e-ファイナンスの進化とアジア地域経済～	248		
総 計							38,223

平成28年度 新上五島町との連携事業について

項目	内容
協定締結日	平成19年11月2日
目的	大学と新上五島町は、相互の発展のため、地域振興、教育、健康福祉及び学術等の分野で協力する。
有効期間	3年間（自動更新）
連携事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域政策、まちづくりに関すること ② 教育及び人材育成に関すること ③ 生涯学習に関すること ④ 地域産業の振興に関すること ⑤ 健康福祉に関すること ⑥ 地域情報化に関すること ⑦ 学術研究に関すること ⑧ インターンシップ等現地学習に関すること ⑨ 施設の利用に関すること ⑩ その他両者の協議により定める事項

【平成28年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
国際社会学科	河又 貴洋	人口減少対策に向けたガイドライン作成事業
公共政策学科	西村 千尋	町民が歩きたくなるウォーキングコースマップの作成

【平成27年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
栄養健康学科	飛奈 卓郎	住民の健康増進と生活習慣病予防のための運動普及
情報メディア学科	河又 貴洋	人口減少対策に向けたガイドライン作成事業
地域政策学科	西村 千尋	町民が歩きたくなるウォーキングコースマップの作成

【平成26年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
地域政策学科	奥山 忠裕	佐世保港を起点とする観光マーケティング事業
流通・経営学科	山本 裕	
栄養健康学科	飛奈 卓郎	住民の健康増進と生活習慣病予防のための運動普及

【平成25年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
地域政策学科	奥山 忠裕	佐世保港を起点とする観光マーケティング事業
流通・経営学科	山本 裕	
栄養健康学科	飛奈 卓郎	住民の健康増進、生活習慣病予防（運動編）

【平成24年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
地域政策学科	阿部 律子	世界遺産登録推進事業
地域政策学科 流通・経営学科	奥山 忠裕 山本 裕	佐世保港を基点とする観光マーケティング事業
看護学科 //	吉田 恵理子 永峯 卓哉	日常生活圏域における地域と高齢者のアンケート調査と分析

平成28年度 佐世保市との連携事業について

項目	内容
協定締結日	平成22年4月7日
目的	大学と佐世保市が、相互の資源を活用した連携を推進することで、県北地域における学術研究機能の向上、地域社会の発展及び人材の育成に寄与することを目的とする。
有効期間	3年間（自動更新）
連携事項	① 共同研究・受託研究に関すること ② 地域貢献の取り組みに関すること ③ 人材育成・交流に関すること ④ その他、本協定の目的を達成するために必要な事項

【平成28年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
経営学科	宮地 晃輔	佐世保工業会との連携による人材育成事業の構築に係る共同研究
経営学科	宮地 晃輔	次世代創業者育成プログラムの共同研究
公共政策学科	石川 雄一	交通不便地区調査

【平成27年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
地域政策学科	石川 雄一	長崎県北・西九州エリアの社会経済分析について
流通・経営学科 経済学科 流通・経営学科	宮地 晃輔 綱 辰幸 山本 裕	製造業の生産効率改善につながる人材育成支援策の共同研究

【平成26年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
地域政策学科 流通・経営学科	石川 雄一 西島 博樹	将来都市構造実現化方策研究
流通・経営学科 経済学科 流通・経営学科	宮地 晃輔 綱 辰幸 山本 裕	製造業の生産効率改善につながる人材育成支援策の共同研究

【平成25年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
地域政策学科 // 流通・経営学科 経済学科	石川 雄一 車 相龍 西島 博樹 綱 辰幸	将来都市構造実現化方策研究
地域政策学科	西村 千尋	佐世保市ウォーキングモデルコースマップ集 改訂業務
経済学科	綱 辰幸 大塚 芳宏	合併自治体における財政効果及び佐世保市統計情報の利活用について

【平成24年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
地域政策学科	石川 雄一	佐世保市の地理空間情報を活用した地域課題の調査・研究事業
地域政策学科 経済学科 地域政策学科	石川 雄一 綱 辰幸 車 相龍	佐世保市の広域合併に関する研究及び都市計画マスタープランにおける中心市街地等の機能に関する研究
流通・経営学科 // 経済学科	金綱 基志 宮地 晃輔 綱 辰幸	産業人材育成実態調査及び支援策にかかる共同研究
地域政策学科	西村 千尋	佐世保市ウォーキングモデルコースマップ集改訂業務

平成28年度 長与町との連携事業について

項目	内容
協定締結日	平成23年11月28日
目的	大学と長与町が、相互の資源を活用した連携を推進することで、地域社会の発展及び人材の育成に寄与することを目的とする。
有効期間	3年間（自動更新）
連携事項	<ul style="list-style-type: none"> ①地域政策、まちづくりに関すること ②教育及び人材育成に関すること ③生涯学習に関すること ④地域産業の振興に関すること ⑤健康福祉に関すること ⑥地域情報化に関すること ⑦学術研究に関すること ⑧施設の利用に関すること ⑨その他両者の協議により定める事項

【平成28年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
栄養健康学科	飛奈 卓郎	女性のキャリア支援等に関する講座
情報セキュリティ学科	小松 文子	情報セキュリティ研修
看護学科	吉原 律子	地域包括ケアシステムの構築に向けた研修
栄養健康学科	富永 美穂子	学内菜園を利用した異世代交流
		男女共同参画講演会
学生		ねんりんピック長与町交流大会における健康づくり教室スタッフ募集
		長崎県農産物・加工食品臨床試験コンソーシアム共同研究にかかる治験者募集
学生		長与川まつり出店募集
学生		健康ながよ21 推進専門委員会推進員募集
Siebo		町長との意見交換会
Siebo		シティプロモーションビデオ制作

【平成27年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
栄養健康学科	富永 美穂子	長崎県立大学シーボルト校 学内菜園で野菜栽培・収穫体験！！
		地域（自治会・コミュニティ）活性化事業 （平成24年度からの継続事業）
情報メディア学科	森田 均 村上 雅通	長与町まち・ひと・しごと創生推進会議
学生		長与町まち・ひと・しごと総合戦略策定
Siebo		全国移住ナビにかかるプロモーションビデオ製作

【平成26年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
栄養健康学科	永田 保夫	きな粉を利用した食品事業
栄養健康学科	永田 保夫	長与町特産品（みかん、オリーブ）を利用した食品事業
栄養健康学科		食品分析や再利用についての研究
流通・経営学科 サークル(Siebo等)		地域コミュニティ再生事業（平成24年度からの継続事業）
学生・教職員		地域（自治会・コミュニティ）活性化事業 （平成24年度からの継続事業）
学生		長与川まつり（平成24年度からの継続事業）

【平成25年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
栄養健康学科	永田 保夫	大豆を使った給食事業（平成24年度からの継続事業）
栄養健康学科	武藤 慶子ほか	ベジママクッキング～おやこで作ろう夏野菜～（お母さん料理教室）
栄養健康学科		オリーブ製品の開発
流通・経営学科	岩重 聡美 山本 裕	みかん加工製品
栄養健康学科	永田 保夫	
流通・経営学科	岩重 聡美 山本 裕	直売所運営
流通・経営学科		地域コミュニティ再生事業（平成24年度からの継続事業）
学生・教職員		地域（自治会・コミュニティ）活性化事業 （平成24年度からの継続事業）
学生		長与川まつり（平成24年度からの継続事業）
情報メディア学科		効果的な町のPR方法

【平成24年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
栄養健康学科	全員	スイーツコンテストの開催
栄養健康学科	永田 保夫	大豆を使った機能性食品の給食への活用

平成28年度 平戸市との連携事業について

項目	内容
協定締結日	平成25年9月20日
目的	大学と平戸市が、相互の資源を活用した連携を推進することで、学術研究機能の向上、地域社会の発展及び人材の育成に寄与することを目的とする。
有効期間	3年間（自動更新）
連携事項	(1) 共同研究、受託研究に関すること。 (2) 地域貢献の取組みに関すること。 (3) 人材育成及び交流に関すること。 (4) その他本協定の目的を達成するために必要な事項

【平成28年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
経済学科	田村 善弘	道の駅におけるマーケティング調査等
学生		平戸観光応援隊設置運営事業

【平成27年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
流通・経営学科	西島 博樹	道の駅におけるマーケティング調査
経済学科	田村 善弘	
流通・経営学科	太田 謙一郎	
学生		平戸観光応援隊設置運営事業

【平成26年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
流通・経営学科	岩重 聡美 大田 謙一郎	「平戸牛のブランド化」に関するマーケティング調査事業
学生		平戸観光応援隊設置運営事業
学生		ひらどツアーウォーク大会にかかるボランティアスタッフ支援事業

【平成25年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
学生		平戸観光応援隊設置運営事業
学生		ひらどツアーウォーク大会にかかるボランティアスタッフ支援事業

平成28年度 五島市との連携事業について

項目	内容
協定締結日	平成26年2月6日
目的	大学と五島市が、相互の資源を活用した連携を推進することで、学術研究機能の向上、地域社会の発展及び人材の育成に寄与することを目的とする。
有効期間	3年間（自動更新）
連携事項	(1) 共同研究、受託研究に関すること。 (2) 地域貢献の取組みに関すること。 (3) 人材育成及び交流に関すること。 (4) その他本協定の目的を達成するために必要な事項

【平成27年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
情報メディア学科	森田 均	奈留地区 幸せになる島のまちづくりプロジェクト 学生モニターツアー調査への協力（五島市奈留地区）

【平成26年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
情報メディア学科	森田 均	平成26年度 集落地域における「小さな拠点」形成推進に関する調査 「小さな拠点」づくりモニター調査地域 への協力（五島市奥浦地区）
情報メディア学科	森田 均	荒川案内人育成事業：荒川さるくマップ作成とそれに伴うフィールドワーク（地域調査）

平成28年度 松浦市との連携事業について

項目	内容
協定締結日	平成28年3月24日
目的	大学と市が、相互の資源を活用した連携を推進することで、学術研究機能の向上、地域社会の発展及び人材の育成に寄与することを目的とする。
有効期間	3年間（自動更新）
連携事項	(1) 共同研究、受託研究に関すること。 (2) 地域貢献の取組みに関すること。 (3) 人材育成及び交流に関すること。 (4) その他本協定の目的を達成するために必要な事項

【平成28年度連携事業一覧】

学科	担当教員	事業名
学生		大学生学習サポーター派遣事業
公共政策学科	石田 聖	土谷地区農村資源の保全・継承のための活動計画づくり

「長崎県サイバーセキュリティに関する相互協力協定」を締結しました

平成29年1月24日（火）、長崎市内において「長崎県サイバーセキュリティに関する相互協力協定」締結式が行われ太田学長が出席しました。

この協定は、関係機関が情報セキュリティに関する情報共有、技術的支援、意識向上等の面で連携、協力し、安全安心なサイバー空間の実現を目指すことを目的としており、下記の産・学・官の各分野の14機関が協定を締結いたしました。

締結式では、産・学・官の各代表者からの挨拶があり、長崎県情報産業協会の中野会長は「今後、IoTを進めるうえで情報セキュリティの推進は重要」、長崎大学の片峰学長は「大学の最大の役割は専門人材の育成と社会への供給」と述べられました。

また、長崎県警察の金井本部長は「近年、サイバー犯罪は深刻化しており県内の相談事案も年々増加している。今回の協定が各機関の強みを活かしたサイバーセキュリティの核となることを期待する」と述べられました。

- 〔産〕長崎県商工会議所連合会、長崎県商工会連合会、長崎県中小企業団体中央会、長崎県産業振興財団、長崎県情報産業協会、NTT西日本長崎支店、(株)ラック、トレンドマイクロ(株)
- 〔学〕長崎大学、長崎県立大学、長崎総合科学大学、佐世保工業高等専門学校
- 〔官〕長崎県、長崎県警察

本学としましても、本年度設置した情報セキュリティ学科において、情報セキュリティ技術者の養成を目指すとともに、地域への貢献活動にも力を注いでいきたいと考えております。



総務省戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE)地域 ICT 振興型研究開発平成 26 年度採択課題

Web ナビゲーションと近距離無線通信技術によって公共交通の体系化を促し地域発 ITS モデルの構築を目指す研究開発

研究代表者：森田均(長崎県立大学) 研究分担者：松坂勲、山口泰生(長崎電気軌道株式会社)、山口文春、高比良惣(扇精工ソリューションズ株式会社)
 上記 3 機関と長崎市建設局まちなか事業推進室、長崎県産業労働部グリーンニューデューター推進室、国土交通省長崎河川国道事務所が構成する長崎市 LRT ナビゲーション推進協議会は、国土交通省「平成 23 年度 コニバーサル社会に対応した歩行者移動支援に関する現地事業」として同年 10 月から GPS を用いて低床型車両から位置情報を発信し、ユーザーの携帯電話・スマートフォン等へ配信する、位置情報配信サービス「ドコネ」を運用している。(☉印図) このシステムをまちなかの徒歩移動とも連携させ、他の観光情報データベースと連動させる試みを長崎県産業振興財団の支援を得て、平成 24 年度に実施した。(★印図) また、ITS 世界会議東京 2013 では軌道内敷設の光ファイバーと Wi-Fi 網を介して長崎市内を走行中の車両から東京ビッグサイトまで HD 映像をインターネット経由でライブ中継することによって、路面電車の軌道が情報網として機能することを実証した。(□印図) これらの業績を利用して、幹線のみならず周辺部を含めた公共交通の総合的な体系化と、市民生活と観光活性化の双方に有用な情報通信環境の整備という地域の課題に 대응するため、位置情報配信システムを拡張することにより幹線としての路面電車に支線として乗合タクシーを結節させる。BluetoothLE(iBeacon) や NFC 等の近距離無線通信技術を活用して位置情報、観光情報の効率的な提供を目的に実証実験を行う。これによって路面電車(移動手段)に情報網の機能加わりのインフラの融合が実現する。(□印図) 将来的には、交通・情報・電力の機能を ICT により統合化したインフラとして、災害時・緊急時にも対応可能な地域基盤とする。本研究開発は、□印図までの成果を取りまとめ地域発 ITS モデルの構築を目指す。本件連絡先：morita@sun.ac.jp

★ 位置・観光情報等複合的なサーバとしてドコネの拡張可能性を示す概念図：長崎河川国道事務所管理の道路情報等と相互接続

- 他機関のもつ有用なコンテンツ・DB
 - ・電停でのパーク＆ラフ小停乗
 - ・市外(国外)への道路情報・気象情報など
- 域外からの来訪者向けのサービス (ホームレスが移動を支援するエリアなどの連携)
- 域内のさらなる有用なコンテンツ
 - ・多岐情報・通行人情報
 - ・イベント情報 など

★ 電車運転席の GPS 発信用端末：乗り合いタクシーにも同様の機器を搭載予定

☉ <赤>長崎電気軌道の営業路線

ドコネ搭載：長崎電気軌道の超低床車(LRV)5000 形

坂本龍馬が歩いた道、長崎市「まちなか軸」：画面は実測値を反映した歩行ナビ用アプリ

「まちなか軸」に長崎市が敷設した index 銘盤：実測により場所情報コード整備済

★ バリアフリートイレ位置を表示したドコネの情報提供画面：車内 WiFi が活用できれば市民も観光客も便利になり緊急時や災害時の対応も可能に

☉ 藤色の吹き出し 5 カ所：長崎市乗り合いタクシー運用エリア

☉ <青>軌道内光ファイバー網と電停・車内 WiFi：情報通信ネットワーク基盤

☉ <赤>長崎電気軌道：交通のネットワーク基盤

□ 社会実験・実証実験を経て地域発 ITS 事業モデルとして提案

社会人のための 情報セキュリティ連続セミナー

近年、情報化が一層進む中、サイバー攻撃や情報流出などの事故が後を絶ちません。情報セキュリティは社会のどのシーンにおいても必要な技術といえます。

本連続セミナーは、県内の社会人を対象とした情報セキュリティ技術の基本を学ぶためのセミナーです。組織内で情報セキュリティを担当する人材育成のきっかけとしていただくことを目的としています。本学情報セキュリティ学科の教員が、6つのテーマに従って講義を行います。ぜひ連続でご参加ください。

参加費
無料

開催日：10月22日、11月12日、12月10日

会場：長崎県立大学 シーボルト校 西棟 W103講義室

第1回 情報セキュリティ入門

日時 10月22日（土）
13:00-14:30
講師 小松教授

第2回 情報セキュリティマネジメント

日時 10月22日（土）
14:40-16:10
講師 小松教授

第3回 暗号技術の基礎

日時 11月12日（土）
13:00-14:30
講師 穴田准教授

第4回 暗号技術の実際

日時 11月12日（土）
14:40-16:10
講師 松崎教授

第5回 ネットワークセキュリティ

日時 12月10日（土）
13:00-14:30
講師 加藤教授

第6回 Webセキュリティ

日時 12月10日（土）
14:40-16:10
講師 松田准教授

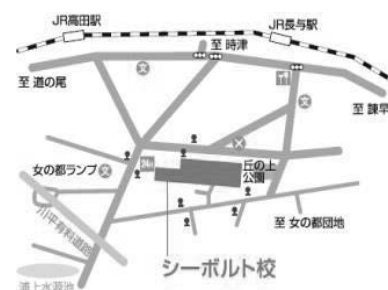
- 主催：長崎県立大学 情報システム学部 情報セキュリティ学科
- 共催：株式会社 長崎新聞社
- お申込み：以下のメールアドレスをお願いします

security-seminar@sun.ac.jp

担当 松崎 なつめ (情報セキュリティ学科教員)

- お問い合わせ：長崎県立大学シーボルト校 総務企画課企画G

TEL：095-813-5500



第1回 情報セキュリティ入門

最近の情報セキュリティに関連した事故を紹介し、情報セキュリティの考え方、情報セキュリティ対策の種類等について、概要を説明します。

第2回 情報セキュリティマネジメント

組織の対策として、必要とされる情報セキュリティマネジメントについて、事故の予防対策だけでなく事故発生後の対応などについて実例を交えて説明します。また、情報セキュリティマネジメント制度（ISMS）にも触れます。

第3回 暗号技術の基礎

データの機密性や完全性を保障するツールとして使われる共通鍵・公開鍵暗号方式とデジタル署名・認証方式の基本的な仕組みを説明します。また、安全性を確保するための原理と設計について解説します。

第4回 暗号技術の実際

暗号技術は、インターネットや交通カード、有料放送やDVDなど、身近なところで多く使われています。最近話題のビットコインなども含め、事例を紹介します。

第5回 ネットワークセキュリティ

ファイアウォール、DoS対策、IDS/IPS、サンドボックス、ネットワークフォレンジックなど、ネットワークを使った各種セキュリティ対策の仕組みとその効果、および対策の限界などについて、概要を説明します。

第6回 Webセキュリティ

Webアプリケーションの脆弱性はどのようにして作られるか、ということについて、攻撃の実例を体験しながら学びます。また、攻撃に対する対策と、その効果的な実現方法について解説します。

平成28年度

第1回情報 セキュリティ・ セミナー



(第6回サイバーセキュリティ研究会)

2016.7.23

± 14:00~16:30

会場 長崎県立大学シーボルト校 中央棟 M103講義室

マイナンバーの利用が開始されて半年が経ちましたが、マイナンバーをきっかけとした個人情報流出等の懸念が報道されています。今回のセミナーでは、マイナンバー制度策定に関わった2名の有識者より、制度とセキュリティ対策の面からマイナンバーについて講演していただきます。

参加費
無料

マイナンバーとセキュリティ

1 「マイナンバー制度について」

マイナンバーの法制度について解説します。マイナンバーの利用と管理について説明するほか、すでに配布が始まっているマイナンバーカードについても触れます。

東京都情報公開・個人情報保護運営審議会 特定個人情報保護評価部会委員
総務省個人番号カード・公的個人認証サービス審議会 属性認証サブワーキンググループ委員
五番町法律事務所 弁護士 宮内 宏 氏

2 「マイナンバーのセキュリティ」

マイナンバーシステムが備えるセキュリティ対策の紹介と、マイナンバーを利用する際の脅威とその対策について説明します。

内閣 サイバーセキュリティ戦略本部 研究開発戦略専門調査会委員
長崎県立大学 情報システム学部情報セキュリティ学科 学科長 小松 文子

お問い合わせ先

以下のホームページもしくはFAXお申し込み用紙(裏面)にてお申し込みください。(当日参加も可)

URL: https://ssl.sun.ac.jp/securitysemi_entry/

長崎県立大学シーボルト校 総務企画課 担当:川原、藤井

TEL:095-813-5500 FAX:095-813-5220

住所/〒851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野1-1-1

主催 長崎県立大学、サイバーセキュリティ研究会

駐車場
あり



金融と情報セキュリティ 特別セミナー

- 平成28年度第2回情報セキュリティ・セミナー
- 第7回長崎県サイバーセキュリティ研究会セミナー

- 金融とITを融合し、多様で高度なサービスの提供が期待されるFinTech(フィンテック)。
- 今年4月、日本銀行に新たに設置されたFinTechセンター長がFinTechとは何か、新たな金融サービスの可能性等を講演!
- 本学の教員が仮想通貨に使われるブロックチェーン技術を解説!

参加費
無料

プログラム

1. 「FinTechによる金融革新」

そもそもFinTechとは何か、FinTechで使われている技術や、FinTechを使ったサービスの現状と今後の展望などについて概要をお話します。

日本銀行 決済機構局 審議役・FinTech センター長
岩下 直行 氏

2. 「ブロックチェーン技術」

仮想通貨で使用されるキーテクノロジーである、ブロックチェーンの基礎やセキュリティ技術について解説します。

長崎県立大学 情報システム学部 情報セキュリティ学科
教授 松崎 なつめ

日時

平成29年

1月7日(土)

14:00~16:00

会場

長崎県立大学

シーボルト校 中央棟 M103講義室

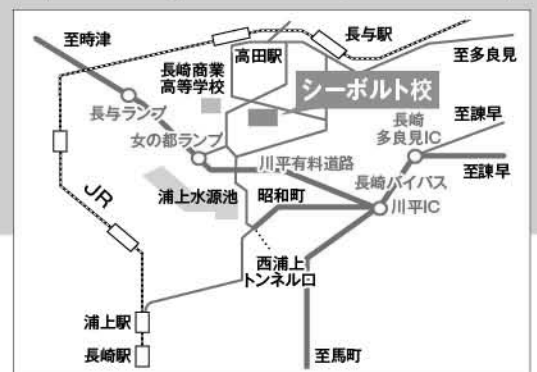
主催

長崎県立大学、
長崎県サイバーセキュリティ研究会

申し込み方法

以下のホームページもしくはFAXお申し込み用紙(裏面)にてお申し込みください。(当日参加も可)

URL:http://sun.ac.jp/form/securityseminar_entry/



平成 28 年度 長崎県立大学知的財産セミナー

長崎県立大学では例年、知的財産に関する情報を提供するセミナーを開催しています。

本年度は、国際協力の仕組み作りにおける知的財産の重要性について、公益財団法人 アジア人口・開発協会（APDA）常務理事・事務局長の楠本修氏にご講演いただきます。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日時	平成 29 年 3 月 2 日 (木) 13:30 ~ 15:00 (開場 13:00)
会場	(主会場) 長崎県立大学シーボルト校 中央棟 2 階 M206 教室 西彼杵郡長与町まなび野 1-1-1 (遠隔会場) 長崎県立大学佐世保校 新館講義棟 1 階 504 教室 佐世保市川下町 123-1 ※佐世保校は遠隔システムによる受講になります
対象	どなたでも参加できます
主催	長崎県公立大学法人 長崎県立大学

参加費無料

演 題 知的財産と国際協力

講 師 楠本 修 氏

(公益財団法人 アジア人口・開発協会(APDA) 常務理事・事務局長)

プログラム	1. 開 会	13:30
	2. 開会挨拶	13:30~ 地域連携センター長 教授 森田 均
	3. 講 演	13:35~ 「知的財産と国際協力」 楠本 修 氏
	4. 質疑応答	14:50~
	5. 閉 会	15:00

シーボルト校会場では閉会後に講演者との懇談の時間を設けます。ご希望者は会場にお残り下さい。

講師紹介

〈略歴〉	1984年	玉川大学文学部卒
	1986年	日本大学大学院文学研究科社会学専攻 (文学修士)
	1990年	財団法人 アジア人口・開発協会 研究員
	1994年	玉川大学文学部講師 (兼任)
	2002年	日本大学文理学部講師 (兼任)
	2006年	明治学院大学 博士 (国際学) 博乙第二号
	2006年	公益財団法人 アジア人口・開発協会 常務理事・事務局長

〈学会/公職等〉日本社会学会、経済社会学会、日本法社会学会 など

〈著作/講演等〉『アジアにおける人口転換—11 カ国の比較研究—』, 明石書店, 2006年 等



お問い合わせ先

長崎県立大学 シーボルト校 地域連携センター 担当:伊東

TEL:095-813-5500 / FAX:095-813-5220 / E-mail:hitou@sun.ac.jp

第1回産学官金連携サロン

産学官金による共同研究組成を推進するため、マッチングの場として産学官金連携サロンを開催します。

日時 平成28年7月7日(木) 開場14:30 開会15:00

場所 出島交流会館(長崎市出島町2-11)2階会議室

参加費 無料

プログラム

1. 開会挨拶 15:00

2. 基調講演

産学官の連携についてご紹介します。

「産学官連携による事業化まで発展モデルについて」

公益財団法人 全日本地域研究交流協会 常務理事 中崎 正好 氏

産学官連携事例紹介:「鉄デバイスによる水産物資源生産への展開」

NPO 法人 小島昭研究所 理事長 小島 昭 氏

<休憩>

3. 大学等の研究シーズ紹介 16:30

本県の産業分野への応用が期待される技術です。

「電磁波を利用した非破壊検査・非侵襲診断装置の開発～生体から構造物の診断まで～」

長崎大学 大学院工学研究科 准教授 田中 俊幸 氏

「データサイエンスとIoT開発」

長崎県立大学 情報システム学部 情報セキュリティ学科 准教授 松田 健 氏

「エンジンから大型船舶まで、機械構造・システムの静音設計」

長崎総合科学大学 大学院工学研究科・新技術創成研究所 工学部機械工学科
教授 本田 巖 氏

4. 閉会 17:30

尚、講演内容等について変更する場合、ご了承お願い致します。

主催 長崎“新生”産学官金連携コンソーシアム(Nagasaki Renaissance Consortium)

長崎県商工会議所連合会 長崎県商工会連合会 長崎県中小企業団体中央会

長崎大学 長崎総合科学大学 長崎県立大学 佐世保工業高等専門学校

十八銀行 親和銀行 長崎県 長崎県産業振興財団

長崎県立大学プロジェクト研究費について

長崎県立大学及び県立長崎シーボルト大学の研究面でのより一層の活性化を目的として、両大学の今後の発展に資する学術研究を支援するため、総額30,000千円、期間3年を限度として両大学の教員を対象とした公募により配分する研究費。対象となる研究は、①「大学教育・学生支援推進事業」など国等の研究費の申請になり得る研究、②本学の活性化や地域の課題に即した研究となっている。

[配分実績]

平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
1件	1件	1件	2件	2件	2件

[平成28年度の配分実績]

(単位: 千円)

研究者		研究期間	研究題目
学科名	教員氏名		
研究代表者		H26～H28	長崎の陶磁器に関するブランド化支援とアジア向け情報発信
経済	古河 幹夫		
研究分担者			
経済	綱 辰幸		
流通・経営	西島 博樹		
流通・経営	岩重 聡美		
流通・経営	谷澤 毅		
国際交流	李 炯喆		
研究者		研究期間	研究題目
学科名	教員氏名		
研究代表者		H26～H28	海外での交流と現地視察から得られる教育効果の検証 ～上海ゼミを通じたコミュニケーション能力の向上～
流通・経営	山本 裕		
研究分担者			
地域政策	奥山 忠裕		
情報メディア	吉光 正絵		
経済	大塚 芳宏		

研究論文数・学会発表数

	欧文学術誌発表論文						
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
経済学部	3	4	10	14	8	16	—
経営学部	—	—	—	—	—	—	1
地域創造学部	—	—	—	—	—	—	7
国際情報学部	11	3	11	7	3	10	—
国際社会学部	—	—	—	—	—	—	6
情報システム学部	—	—	—	—	—	—	14
看護栄養学部	23	24	12	18	32	20	17
年度計	37	31	33	39	43	46	45

	邦文学術誌発表論文						
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
経済学部	10	13	32	29	34	33	—
経営学部	—	—	—	—	—	—	20
地域創造学部	—	—	—	—	—	—	15
国際情報学部	11	13	31	30	44	33	—
国際社会学部	—	—	—	—	—	—	22
情報システム学部	—	—	—	—	—	—	23
看護栄養学部	31	25	12	32	27	13	27
年度計	52	51	75	91	105	79	107

	国際学会発表						
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
経済学部	5	6	7	15	14	13	—
経営学部	—	—	—	—	—	—	9
地域創造学部	—	—	—	—	—	—	8
国際情報学部	17	18	12	13	10	16	—
国際社会学部	—	—	—	—	—	—	11
情報システム学部	—	—	—	—	—	—	12
看護栄養学部	49	27	28	39	29	27	30
年度計	71	51	47	67	53	56	70

	全国学会発表						
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
経済学部	17	20	25	19	28	32	—
経営学部	—	—	—	—	—	—	24
地域創造学部	—	—	—	—	—	—	20
国際情報学部	31	24	38	24	35	17	—
国際社会学部	—	—	—	—	—	—	20
情報システム学部	—	—	—	—	—	—	53
看護栄養学部	160	120	49	106	104	91	103
年度計	208	164	112	149	167	140	220

共同研究・受託研究一覧

○実施件数

(単位:件)

年度	共同研究	受託研究	備考
28年度	14	9	佐世保市との共同研究2件 佐世保市、平戸市との受託研究1件 ずつを含む
27年度	11	6	
26年度	11	8	
25年度	13	11	
24年度	10	15	
23年度	11	12	
22年度	12	12	
計	82	73	

※相手先や共同研究者に配慮し、件数のみ記載。

国際交流協定校一覧

	大学名		協定締結日	協定事業内容				
				学生交流 派遣・受入人数 期間	教職員 交流	共同 研究	シンポジウム等	刊行物等 の 交換
1	華僑大学	中国	1992年10月7日 (平成4年)	○ [計4名 規定なし]	○	○	○ [年1回 交互に 開催]	○
2	ウィスコンシン大学オシュコシュ校	アメリカ	2001年9月28日 (平成13年)	○ [各2名 半年又は1年]	○	○		
3	上海外国語大学	中国	2002年10月17日 (平成14年)	○ [各3名 半年又は1年]	○	○		
	上海外国語大学短期留学生プログラム協定		2011年6月30日 (平成23年)	○ [受入5名 派遣短期研修10名]				
4	東亜大学校	韓国	2004年4月1日 (平成16年)	○ [各2名 半年又は1年]	○	○	○	○
5	高麗大学校	韓国	2004年12月2日 (平成16年)	○ [各2名 半年又は1年]	○	○	○	○
	看護大学校		2006年2月9日 (平成18年)	○ [定期的な相互交流]	○	○	○	
6	<small>フモイ</small> 厦門大学 日本研究所	中国	2006年12月7日 (平成18年)	○ [規定なし]	○	○	○	○
7	<small>マカオ</small> 澳門大学 社会人文学部	中国	2009年5月20日 (平成21年)	○ [計1~3名 規定なし]	個別に 協議			
8	西安外国語大学	中国	2011年3月1日 (平成23年)	○ [各2名 1年以内]	○			
9	タマサート大学	タイ	2012年10月30日 (平成24年)	○ [学部の規定による]	○	○	○	○
	ジャーナリズム・マスコミュニケーション学部		2013年3月18日 (平成25年)	○ [各5名 1年以内]	○	○	○	○
	看護学部		2014年3月24日 (平成26年)	○	○	○	○	
10	湖北大学	中国	2013年3月1日 (平成25年)	○ [各5名 1年以内]		○		○
11	エドモンズコミュニティカレッジ	アメリカ	2013年12月14日 (平成25年)	○ [各2名 半年]	○	○	○	
12	ダナン大学(大学間交流協定)	ベトナム	2014年11月25日 (平成26年)	○ [別途覚書を締結]	○	○	○	○
	(学生交流に関する覚書)		2016年3月30日 (平成28年)	○ [各2名 1年以内]	○			

※東亜大学・華僑大学と2011年締結した協定については6年毎に更新。それ以外の協定は5年毎に更新。

海外大学とのシンポジウム・フォーラム開催実績一覧

年度	開催日	タイトル	場所	備考
28 年度	7月22日	第1回東アジア研究セミナー 「中国語の外来語はどのように取り入れられたのか —異文化コミュニケーションの視点から—」	シーボルト校	主催：東アジア研究所
	11月14日	第6回東アジア学術交流フォーラム 「International Market and SMEs (Small and Mediam-sized Enterprises)」 (和訳：国際市場と中小企業)	華僑大学(中国)	本学・華僑大学・東亜大学 との共同開催
	11月24日	第2回東アジア研究セミナー 「佐世保港の歴史と今後の展望について」	佐世保校	主催：東アジア研究所
27 年度	6月26日	第1回東アジア研究セミナー 「江戸時代における日清間の文学交流」	シーボルト校	主催：東アジア研究所
	11月6日	第5回東アジア学術交流フォーラム 「Creative City and East Asia —Nagasaki, Quanzhou, Busan—」 (和訳：創造都市と東アジア—長崎、泉州、釜山—)	東亜大学(韓国)	本学・華僑大学・東亜大学 との合同開催
	11月20日	第2回東アジア研究セミナー 「東アジアと長崎県の高齢化と港湾 ～交流人口と物流の拡大を展望する～」	佐世保校	主催：東アジア研究所
26 年度	6月25日	第1回東アジア研究セミナー 「東アジア地域におけるFTA秩序と日中韓の実利」	佐世保校	主催：東アジア研究所
	11月13日	第4回東アジア学術交流フォーラム 「海洋都市の過去・現在・未来—長崎・釜山・泉州—」	シーボルト校	本学・華僑大学・東亜大学 との合同開催
	3月18日	第2回東アジア研究セミナー 「Quality Assurance of Nursing education in Korea」、 「Primary health Care pediatric Clinic in Korea」	シーボルト校	主催：東アジア研究所
25 年度	11月6日	第1回東アジア研究セミナー 「台湾のメディア社会について」	シーボルト校	主催：東アジア研究所
	11月15日	第3回東アジア学術交流フォーラム 「グローバル化における東アジア企業の経営 戦略」	華僑大学(中国)	本学・華僑大学・東亜大学 との合同開催
	12月20日	第2回東アジア研究セミナー 「社会学による日本文化史の理解」	佐世保校	主催：東アジア研究所
24 年度	11月15日	第2回東アジア学術交流フォーラム 「東アジアの高齢化と福祉」	東亜大学	本学・華僑大学・東亜大学 との合同開催
	11月22日	第1回東アジア研究セミナー 「鎖国体制における朝鮮貿易」	佐世保校	主催：東アジア研究所
	1月22日	第2回東アジア研究セミナー 「韓国における高齢者の健康増進」	シーボルト校	主催：東アジア研究所
23 年度	5月12日	第5回東アジア世界化フォーラム 「東北アジア炭素関連市場と排出量取引制度」 —中国・日本・台湾・韓国の現状と展望—	東亜大学	主催：東亜大学
	11月10日	第1回東アジア学術交流フォーラム 「自然災害と東アジア」	佐世保校	本学・華僑大学・東亜大学 との合同開催

東アジア研究所「東アジア研究ネットワーク」について

【趣 旨】

「東アジア研究ネットワーク」は、東アジア研究所(以下、研究所という)を拠点に、東アジア研究を幅広くかつ円滑に進めるため、世界の研究者及び研究機関との連携を図る。(※本研究所における「東アジア」とは、東北アジア・東南アジアなど広く意味する。)

【研究者】

国内外の大学・研究機関に在職し、本研究所の研究活動に賛同する者とする。本学の研究者には「研究員(Research Fellow)」、学外の国内研究者には「連携研究員(Cooperative Research Fellow)」、海外の研究者には「海外研究員(Overseas Research Fellow)」の称号を与え、共同研究の推進、研究者の紹介、情報や資料の交換、『東アジア評論』への投稿など、包括的な相互協力を行う。本学の研究員は、ネットワークの中で主導的に研究グループを形成し研究活動を行う。東アジア研究ネットワークの趣旨に賛同した研究者(以下、登録研究者という)は、本研究所の研究者登録制度に基づいて研究者登録を行う。

【研究者登録制度】

研究者登録について、研究員は自薦とし、連携・海外研究員は研究員からの推薦によるものとする。東アジア研究ネットワークの登録研究者は、指定の情報(プロフィール、研究業績一覧)を提供し、本人の許諾の上「東アジア研究者シート」を本研究所のホームページに公開する。登録の期限は一年とし、登録研究者から申し出がない限り、自動的に更新されるものとする。

【登録研究者への優遇措置】

- ・ 本研究所の各種研究会及び国際シンポジウムへの招待及び招聘
- ・ 本研究所の機関誌『東アジア評論』への掲載優先
- ・ 本研究所の刊行物の贈呈
- ・ 本研究所の事業や動向の個別案内

【主要研究部門】

研究内容は、東アジアと関係することを前提とし、下記の主要研究部門とする。

- ・ 貿易研究部門(政策、規制、関税、摩擦、自由化、WTO、FTA/EPA 等)
- ・ 金融研究部門(政策、制度、投資、為替、通貨統合等)
- ・ 産業研究部門(政策、規制、構造、集積、環境、連携、創出、国際観光等)
- ・ 企業研究部門(戦略、流通、物流、マーケティング、リスク、進出、R&D、M&A 等)
- ・ 地域研究部門(共同体、政治、外交、国際関係、法律、社会、文化等)

公開講座・地域公開講座・学術講演会等実施状況

○ 公開講座

(単位:講座、人)

年度	佐世保校		シーボルト校		合計 ※2	
	講座	参加者	講座	参加者	講座	参加者
28年度	19	977 ※1	19	801	19	1,778
27年度	17	752 ※1	17	598	17	1,350
26年度	17	666 ※1	17	659	17	1,325
25年度	17	573 ※1	17	467	17	1,040
24年度	13	386 ※1	13	530	13	916
23年度	10	261 ※1	10	333	10	594

※1 佐世保校参加者には、新上五島町での参加者を含む

※2 両校で同時開催した講座は1講座として集計する

○ 地域公開講座

(単位:講座、人)

年度	佐世保校		シーボルト校		合計	
	講座	参加者	講座	参加者	講座	参加者
28年度	32	1,183	54	2,680	86	3,863
27年度	33	1,546	41	1,534	74	3,080
26年度	26	681	27	967	53	1,648
25年度	17	642	28	1,831	45	2,473
24年度	18	940	43	2,142	61	3,082
23年度	20	519	27	1,129	47	1,648

○ 学術講演会等

(単位:講演、人)

年度	佐世保校		シーボルト校		合計 ※2	
	講演	参加者	講演	参加者	講演	参加者
28年度	4	914 ※1	23	1398	3	2,312
27年度	5 ※3	797 ※1	12	554	10	1351
26年度	3	190 ※1	10	361	10	551
25年度	4	124	9	322	10	446
24年度	4	183	6	316	7	499
23年度	3	221	9	453	9	674

※1 佐世保校参加者には、新上五島町での参加者を含む

※2 両校で同時開催した講座は1講座として集計する

※3 学外会場で開催した2件を含む

平成28年度

春開講

長崎県立大学

公開講座

参加無料/申込不要
どなたでも参加できます

土曜日開催
13:30~15:40
(1講座60分)

【主催】
長崎県立大学

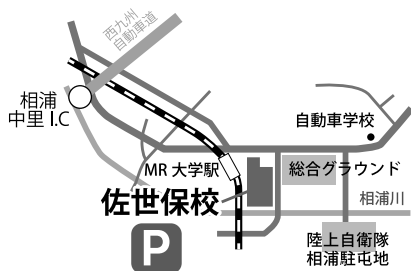
【後援】
長崎県教育委員会
佐世保市・長与町・新上五島町

会場

佐世保校

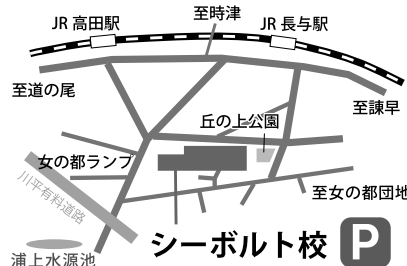
新館講義棟1階504教室
(7/2のみ2階505教室)
佐世保市川下町123

P
無料



シーボルト校

中央棟1階M103講義室
西彼杵郡長与町まなび野1-1-1



新上五島町

鯨賓館活動支援室
南松浦郡新上五島町有川郷578-36

遠隔会場には主会場からテレビ授業システムにより映像を配信します。

本学の様々な情報はWEBでご覧いただけます。

ホームページ



Facebook



4/23 土

【主会場】佐世保校
【遠隔会場】シーボルト校

社会保障と福祉財政 資料No.37
～スウェーデンの調査研究をベースに～

講師 楊光洙 教授 13:30~

韓国農業と緑茶

～緑茶を通してみる日韓の違い～

講師 田村善弘 准教授 14:40~

5/14 土

【主会場】シーボルト校
【遠隔会場】佐世保校

日米関係～在日米軍を中心に～

講師 瀬端孝夫 教授 13:30~

ヨーロッパの難民問題と中・東欧

～「鉄のカーテン」からシェンゲンへ～

講師 荻野晃 教授 14:40~

5/21 土

【主会場】佐世保校
【遠隔会場】シーボルト校
新上五島町

統計データでみる長崎県の地域経済
～長崎県はどのような地域でしょうか？～

講師 吉本諭 准教授 13:30~

地方創生に関する施策とその要点について

講師 奥山忠裕 准教授 14:40~

6/4 土

【主会場】シーボルト校
【遠隔会場】佐世保校

角の二等分と三等分法

～中学生に戻って作図を楽しみましょう～

講師 永野哲也 教授 13:30~

地域に根づかせたい、
共感と癒しの「紙芝居文化」

講師 柳田多間 准教授 14:40~

6/25 土

【主会場】シーボルト校
【遠隔会場】佐世保校

ヒトゲノムからみた
一人ひとり異なる養生の考え方

講師 四童子好廣 教授 13:30~

食生活を改善するためのアイデア
～食行動科学から考える～

講師 石見百江 講師 14:40~

7/2 土

【主会場】佐世保校
【遠隔会場】シーボルト校

『下町ロケット』を通して会計に触れる

講師 竹田範義 教授 13:30~

近くて遠い国フィリピン

講師 舟橋豊子 講師 14:40~

7/9 土

【主会場】シーボルト校
【遠隔会場】佐世保校
新上五島町

隔離政策のなかで暮らした
ハンセン病回復者の語りから学ぶもの

講師 河口朝子 教授 13:30~

看護の仕事 これまで、今とこれから

講師 山澄直美 准教授 14:40~

お問合せ



長崎県立大学
UNIVERSITY OF NAGASAKI

116

佐世保校
シーボルト校

TEL/0956-47-5856
TEL/095-813-5500



長崎県立大学
UNIVERSITY OF NAGASAKI

平成28年度 長崎県立大学

秋の公開講座

資料No. 37

参加無料
〈申込不要〉

どなたでも参加できます

10/22(土)
13:30~15:00



日本経済と長崎県のこれから

主会場 佐世保校
遠隔会場 シーボルト校

講師/石田 和彦 教授
〈経営学部/国際経営学科〉



10/29(土)
13:30~15:00



一般相対性理論入門

主会場 佐世保校
遠隔会場 シーボルト校

講師/宮崎 明人 教授
〈地域創造学部/公共政策学科〉



11/5(土)
13:30~15:00



健やかに生きるための食事学

主会場 シーボルト校
遠隔会場 佐世保校

講師/武藤 慶子 教授
〈看護栄養学部/栄養健康学科〉



12/10(土)
13:30~15:00



変貌する中国農村社会

主会場 シーボルト校
遠隔会場 佐世保校

講師/祁 建民 教授
〈国際社会学部/国際社会学科〉



12/17(土)
13:30~15:00



ICTを利用した長崎県観光情報 可視化の促進について

主会場 シーボルト校
遠隔会場 佐世保校・新上五島町

講師/吉村 元秀 准教授
〈情報システム学部/情報システム学科〉

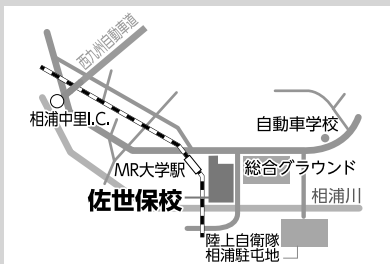


会場

佐世保校

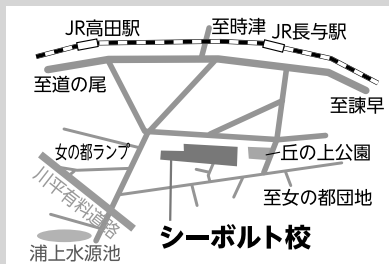
新館講義棟1階504教室 (10/22と10/29のみ505教室)
〒858-8580 佐世保市川下町123

駐車場あり



シーボルト校

中央棟1階M103講義室
〒851-2195 西彼杵郡長与町まなび野1-1-1



新上五島町

鯨賓館活動支援室 (12/17のみ)
〒857-4211 南松浦郡新上五島町有川郷578-36

遠隔会場には主会場からテレビ授業システムにより映像を配信します。

本学の様々な情報はWEBでご覧いただけます。



ホームページ



Facebook

お問合せ



長崎県立大学
UNIVERSITY OF NAGASAKI

佐世保校 企画広報課

☎0956-47-5856

シーボルト校 総務企画課

☎095-813-5500

117

〈主催〉長崎県立大学 〈後援〉長崎県教育委員会、佐世保市、長与町、新上五島町

参加無料

*申込不要!
どなたでも
参加できます。

学術講演会

「子どものメンタルヘルスと生活習慣」 —学校や家庭はどのように受けとめ、どう向き合うか—

講師/佐々木 司氏
東京大学大学院教育学研究科教授
精神科医



講師/三木 とみ子氏
女子栄養大学名誉教授
元文部省調査官



9/17
土

主会場 シーボルト校
遠隔会場 佐世保校

12/24
土

主会場 佐世保校
遠隔会場 シーボルト校

10/1
土

主会場 シーボルト校
遠隔会場 佐世保校・
新上五島町

「自著を語る」

講師/梶尾 真治氏
作家(著書「黄泉がえり」、
「おもいでエマノン」等)



「民族から考える 日中関係と 領土問題」

講師/大西 広氏
慶應義塾大学教授
京都大学名誉教授
北東アジア学会会長



会場

佐世保校

(新館講義棟1階504教室) 12/24のみ505教室
〒858-8580
佐世保市川下町123

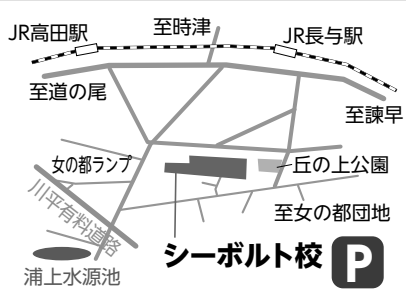
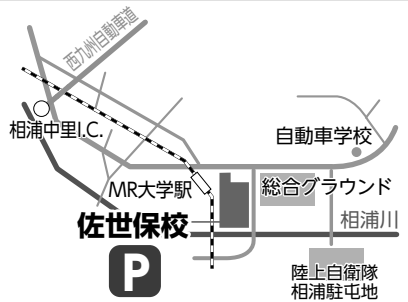
シーボルト校

(中央棟1階M103講義室)
〒851-2195
西彼杵郡長与町まなび野1-1-1

新上五島町

(鯨賓館活動支援室)
〒857-4211
南松浦郡新上五島町有川郷578-36

駐車場
あり



遠隔会場には主会場からテレビ授業
システムにより映像を配信します。

本学の様々な情報は
WEBでご覧いただけます。

ホームページ



Facebook



お問合せ



佐世保校 企画広報課
シーボルト校 総務企画課

☎0956-47-5856
☎095-813-5500



講師 戸田奈津子氏 (映画字幕翻訳者)

東京都出身。津田塾大学英文科卒。好きな映画と英語を生かせる職業、字幕づくりを志すが門は狭く、短期間のOL生活や、フリーの翻訳種々をしながらチャンスを待つ。1970年に「野生の少年」「小さな約束」などの字幕を担当。1980年の話題作「地獄の黙示録」で本格的なプロとなり、以来1500本以上の作品を手がけている。来日する映画人の通訳も依頼され、長年の友人も多い。2016年6月13日第7回岩谷時子賞特別賞を受賞。

〈主なる作品〉

「E.T.」「フォレスト・ガンプ」、「タイタニック」、「ラスト・サムライ」
「パイレーツ・オブ・カリビアン」、「アバター」、「ミッション・インポッシブル5」
「インデペンデンス・デイ」

〈著書〉

「字幕の中に人生」(白水社)、「男と女のスリリング」(集英社)
「スターと私の映会話!」(集英社)、「字幕の花園」(集英社)
「スクリーンの向こう側」(WOWOW, 共同通信社)、「Keep on Dreaming」(双葉社)

長崎県立大学特別講演会

英語とわたし

戸田奈津子氏講演会

講演テーマ

好きなことを土台にキャリアを考え、自らの進路を決めてゆく。

平成28年

7月13日(水)

15:30~17:00(開場14:30)

〈主会場〉佐世保校新館講義棟3階506教室

〈遠隔会場〉シーボルト校中央棟1階M103講義室

※遠隔会場には、主会場からテレビ授業システムにより映像を配信します。

※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

入場無料

要事前予約

どなたでも参加できます
(定員500名)

お問合せ

お申込みは本学ホームページもしくは裏面にご記入のうえ FAX にてお申込み下さい。



長崎県立大学

企画広報課

119

TEL0956-47-5856



ホームページ



Facebook

教員の研究活動状況

【経営学部】

●経営学科

職名	氏名	現在の研究テーマ
教授	三戸 浩	・企業と社会の良好な関係(社会的課題、地域課題を解決する企業)
教授	代田 義勝	・地域における女性活躍の促進について ・地域人材の育成と地域リーダーについて
教授	竹田 範義	・イギリス減価償却学説史の研究 -無形固定資産の評価論について-
教授	村上 則夫	・地方都市におけるまちづくりに関する検討 -豊かなまちづくりを考える-
教授	岩清水 由美子	・ジョウゼフ・コンラッドの小説におけるジェンダー研究
教授	山崎 祐一	・地域にリンクした英語教育(外国語活動)と異文化間コミュニケーションの実践に関する研究 ・コンテンツベースに基づく小中学校における英語教育(外国語活動)の実践と教材に関する研究
教授	鴻上 喜芳	・企業賠償責任保険研究
教授	宮地 晃輔	・地域中小製造企業の管理会計・原価計算の活用実態解明と経営改善への接続に関する研究 ・グローバル能力構築競争時代におけるわが国造船業の組織間管理会計に関する研究
教授	高橋 秀至	・租税回避の研究
教授	神保 充弘	・医薬品業界における流通系列化の生成過程
教授(特任)	田中 政光	・変わるリーダーの役割
准教授	齋藤 光正	・ドイツ経営経済学の史的展開
准教授	津久井 稲緒	・企業と地域社会との協働に関する研究
准教授	四本 雅人	・重要インフラ企業における安全文化構築に関する研究 ・日本の雇用慣行の変化に伴うブラック問題の発生とレトリック戦略としての「家」 ・長崎県における地域資源活用のための経営者ならびに人材育成に関する研究
講師	馬場 晋一	・東アジア圏における広域リージョナリティ価値創造のための創業ファンダメンタルの研究
講師	板垣 太郎	・会社役員賠償責任保険(D&O保険)の諸問題に関する研究
講師	大田 謙一郎	・地域ブランド論からみる街づくり
講師	中村 貴治	・ステークホルダー理論におけるステーク概念
講師(特任)	S.E.ライフ	・The history of English education in Japan. ・Development of online study materials. ・Computer assisted pronunciation training.

●国際経営学科

職名	氏名	現在の研究テーマ
教授	谷澤 毅	・近代ドイツにおける商品の集積・流通と蒐集の文化 -「驚異の部屋」から百貨店まで
教授	岩重 聡美	・日本とアジア諸国における流通システムの比較
教授	石田 和彦	・通貨の本質を踏まえた、金融論・金融政策論各領域の再検討
教授	山本 裕	・変革期にある国際海運とロジスティクスについての研究 ・海運経済に関する英文著書の翻訳
教授	江崎 康弘	・地方中小製造企業の海外事業展開の課題に関する研究
教授	矢野 生子	・IMF体制とGATT(WTO)体制の再考察, 通貨危機とIMFの役割
准教授	新川 本	・現代企業の企業統治機能の研究
准教授	齋藤 毅	・アジア進出の日系企業が現地法人で雇用関係の安定性を実現するための課題解決に向けた分析
講師	舟橋 豊子	・フィリピンの流通近代化について

【地域創造学部】

●公共政策学科

職名	氏名	現在の研究テーマ
教授	綱辰幸	・離島地区における地方財政の現状と課題
教授	西岡誠治	・世界トレンドを踏まえた都市のあるべき像の探求
教授	橋本優花里	・学習成果可視化のためのツール開発 ・高次脳機能障害者の認知リハビリテーションにおける動機づけ
教授	宮崎明人	・一般相対論的重力場の理論
教授	佐野真由子	・外交史・文化交流史、文化政策
教授	竹田津進	・英語の心理動詞の受動文と共起する前置詞の史的変遷 ・英語のDo you have～?構文とHave you (got) 構文の史的発展 ・英米人の日本的と言える国民性比較について
教授	松岡純子	・許地山研究—アジアにおける基督教・教会学校との関連について
教授	吉居秀樹	・行政法領域における行政手続法及び情報法の研究
教授	長沼信之	・我が国におけるソーシャルビジネスの現状と課題
教授	西村千尋	・自然環境を活かした地域づくり・健康づくり
教授	車相龍	・地域計画の諸課題—人口減少と人材確保の観点から—
教授(特任)	名切元貴美子	・英語教育
准教授	麻生雄治	・英語表現力を育成するための効果的な指導法とその評価
准教授	黒木誉之	・市民自治・市民協働と地域ガバナンス
准教授	松尾晋一	・近世的アジア社会における日本の諜報活動／海外における日本資料の展示
准教授	吉本諭	・地域経済、農林水産業及び食産業に関する研究
准教授	奥山忠裕	・自然・社会資本を対象とした損害リスクに関する研究
講師	長濱幸一	・世紀転換期以降のプラハ経済界のナショナリズムへの対応
講師	石田聖	・協働型ガバナンスにおける中間支援組織の役割と機能に関する研究
講師(特任)	高芳	・関中地区出土西周金文整理と研究 ・長崎唐通事と日本の近代漢語教育
講師(特任)	N.A.ケイン	・Task based learning, active learning and blended learning, extensive reading
講師(特任)	A.ボードナー	・English language speaking fluency.

●実践経済学科

職名	氏名	現在の研究テーマ
教授	古河幹夫	・地域活性化 ・経済政策の市民的理解と教育
教授	西道彦	・トレード・タームズの研究
教授	後藤正之	・不確実な世界経済環境下における、リスク・マネジメントの観点に立った日本のマクロ経済政策のあり方
教授	柳田芳伸	・近代日本における埋もれし経済学者たちの掘掘、およびマルサス人口論の学術的意義の解明
教授	菅宜紀	・高速道路民営化の効果
教授	楊光洙	・日本の対外経済連携戦略について ・日本と北欧州の社会保障と財政について
教授	鳥丸聡	・長崎県北地域における新規事業のフォローアップと実現可能なビジネスモデルの構築
教授	青木圭介	・イギリスのEU離脱に関するEU経済と日本経済への影響
教授(特任)	堤修三	・社会保障制度におけるケアの倫理・社会保障制度を支えるモラル
准教授	有馬弥重	・契約および規制に関する非対称情報下でのインセンティブ効果について
准教授	尹清洙	・経済統計学の現状と課題についての哲学的・実証的研究
准教授	中村和敏	・インドネシアにおける農業と工業の発展
准教授	植野貴之	・多段意思決定過程に関する研究
准教授	田村善弘	・倫理的消費の実践におけるローカル消費の役割に関する研究
講師	芳賀普隆	・地域資源としてのエネルギー利活用の可能性検討に関する研究
講師	鶴指眞志	・地域公共交通に関する研究

【国際社会学部】

●国際社会学科

職名	氏名	現在の研究テーマ
教授	村上 雅通	・「未認定被害者」を中心とした水俣病被害の実態調査と分析 ・ローカルテレビの自主制作番組の現状と再編に関する考察
教授	荻野 晃	・ハンガリー現代政治、外交史、中・東欧の国際関係
教授	森田 均	・情報・モビリティ・エネルギーによる重層的ネットワーク社会の形成
教授	鈴木 暁彦	・現代中国における大衆思想の多様化と政治的民主化の課題 ・中国の日系自動車メーカーの現地化経営と競争戦略の研究
教授	李 炯喆	・戦後日本のアジア認識と政策 ・日本による朝鮮植民地支配の再考－認識・実態・未来－
教授	上村 俊彦	・現代英語の研究
教授	竹部 隆昌	・西ヨーロッパ史におけるビザンツ帝国の影響についての総合的研究
教授	下野 孝文	・遠藤周作—〈母なるもの〉について ・長崎の地域的特性と文学
教授	笠原 敏彦	・欧州統合の行方とグローバル化世界
教授	関谷 融	・学習指導要領に即した道徳教育、特別活動及びICT教育カリキュラムの調査及び教育方法・用具の開発 ・博物(館)、美術(館)、自然・人造遺構等の教育メディアとしての可能性の発掘
教授	祁 建民	・中国水利社会の権力構造と日中水処理産業・技術の協力
准教授	金村 公一	・地域特性や課題と連携した情報メディア活用、コンテンツの実践的研究
准教授	山田 健太郎	・文化とコミュニケーションと教育に関する研究
准教授	周 国強	・中国語語彙・中国語教育についての研究
准教授	小原 篤次	・アジアの証券投資・直接投資に関する総合研究
准教授	柳田 多聞	・既存の出版紙芝居作品に長崎の郷土色を付加する効果の検証
准教授	河又 貴洋	・情報通信分野の技術革新と社会変容・制度改革、そして産業・企業の競争優位戦略に関する社会知能情報学的研究
准教授	門部 昌志	・媒介された記号過程と社会的実践：メディア・コミュニケーションの基礎研究
准教授	吉光 正絵	・東アジアにおけるポピュラー文化の収斂と拡散可能性
准教授	唐津 理恵	・バブル景気崩壊後1990年代以降の日本映画におけるジェンダー・セクシュアリティの考察
准教授	和田 一哉	南アジアとアフリカの発展途上国における開発
准教授	福島 涼史	・国際法遵守のための国内法メカニズム—その理論と制度—
特任講師	田中 弘恵	・シャドーイングおよび音読練習の効果的指導法
講師(特任)	ニール・ミントン	・Temporal perceptions of second language learning motivation – A Japanese context
講師(特任)	ウィリアム・マクナルド	・Language learning anxiety
講師(特任)	シャノン・メイソン	・Language education

【情報システム学部】

●情報システム学科

職名	氏名	現在の研究テーマ
教授	日下部 茂	・システム思考に基づくモデリングと分析方法の研究
教授	辺見 一男	・画像処理とヒューマンインターフェースに関する研究
教授	青木 研	・反復関数系フラクタル図形の造形的コントロールに関する研究
教授	有田 大作	・農業情報の計測と可視化
教授	平岡 透	・空間情報を用いた解析および応用に関する研究
教授	金谷 一朗	・工学と芸術の再融合を目指す感情工学
准教授	吉村 元秀	・観光事業推進のための観光情報の空間的可視化システムの構築
准教授	片山 徹也	・デジタルコンテンツの色彩条件がユーザビリティやアクセシビリティに及ぼす影響 ・景観色彩が印象評価に及ぼす影響
講師	前村 葉子	・コンテンツの特性に適した画像処理に関する研究・在宅医療における情報通信技術活用に関するサーベイ
講師	藤沢 望	・専門的知識を有する職業人育成のためのサウンドプログラミング教育の実践

●情報セキュリティ学科

職名	氏名	現在の研究テーマ
教授	永野 哲也	・線形平行移動にもとづくフィンスラー空間の基礎的研究
教授	小松 文子	・サイバーセキュリティにおける組織や個人の意思決定に関する研究
教授	松崎 なつめ	・高機能暗号の研究
教授	チャットウィチエンチャイ ・ソムチャイ	・安全性の高い、インテリジェンスユーザインターフェースとしてのExcelの活用手法に関する研究
教授	加藤 雅彦	・ネットワークシステムにおける各種セキュリティ対策に関する研究
教授	山口 文彦	・知能情報処理技術の応用
准教授	穴田 啓晃	・安全・安心な生活のための軽量暗号の設計・評価、及び機密情報を危殆化から保護するための耐量子暗号の設計・評価
准教授	松田 健	・確率過程における位相不変量とその応用に関する研究
講師	吉田 雅一	・マルチパーティ量子暗号とその安全性証明に関する研究

●看護学科

職名	氏名	現在の研究テーマ
教授	平野 かよ子	・保健師による保健活動の評価指標の開発 ・市町村の支所等に分散配置された保健師の活動体制のあり方
教授	久佐賀 真理	・市町のひきこもり支援推進のための行政機関間の連携構築に関する研究 ・福祉施設における子どもアドボカシー導入に関する研究 ・地区担当制を有する自治体の合併後から今日までの保健師活動の工夫と課題
教授	中尾 八重子	・市町村保健師のキャリアパス作成に向けた伝承型OJTのあり方 ・基礎看護学教育における「災害看護」に関する研究
教授	河口 朝子	・ハンセン病回復者のセルフ・ステイグマの低減に向けた教育プログラムの開発
教授	李 節子	・グローバル社会における母子保健のあり方に関する研究 ・医療通訳のあり方に関する研究 ・性暴力被害者支援のあり方に関する研究
教授	立石 憲彦	・介護周辺健康サービスの創出
教授	大塚 一徳	・ワーキングメモリに関する教育認知心理学的研究
教授	山澄 直美	・院内研修評価モデルの開発－総合的評価による院内教育の確実な質改善に向けて－
特任教授	中村 鈴子	・島における保育所(園)における感染予防対策に関する健康教育の効果
准教授	吉田 恵理子	・ロコモティブシンドローム予備軍2型糖尿病患者の運動療法に関する研究 ・分子標的治療薬を用いた肺がん患者の副作用とQOLに関する研究 ・中・高等教育をうける吃音者及び母親が考える合理的配慮に関する研究 ・退院支援に関する研究 ・被爆者の被爆時の生活体験に関する研究 ・巻き網船で就業する漁師の健康意識に関する研究
准教授	高比良 祥子	・慢性肝疾患患者への療養継続支援に関する研究
准教授	林田 りか	・育児に関する親子のQOL調査票の開発とその関連性について(父親を中心に) ・小児病棟における医療安全管理及び認識の現状と対策について
准教授	永峯 卓哉	・看護教育における技術習得に向けた学生の習得過程の分析と効果的な技術習得に向けた教育方法の検討 ・障害をもった人が社会生活を送るうえでの困難とその対処および必要な支援の実施に向けた基礎的研究
講師	木村 チヅル	・高齢者の健康と地域包括ケア
講師	重富 勇	・精神科看護職のストレスの実態
講師	片穂野 邦子	・分子標的薬治療(EGFR阻害剤薬)による有害事象を伴う肺がん患者の体験 ・看護基礎教育における災害看護学の教育内容の構築
講師	山谷 麻由美	・地域診断を起点とした高齢者サロンの実施・評価 ・市町村保健師のキャリアパス作成に向けた伝承型OJTの在り方
講師	濱田 由香里	・自死遺族のレジリエンス促進要因の検討
講師	堂下 陽子	・精神障害をもちながら子育てしている利用者に対する訪問看護師の支援体制の構築
講師	山口 多恵	・高齢者長期ケア施設における中堅看護師のアンラーニングを促進する教育プログラムの開発と検証
講師	三重野 愛子	・看護基礎教育課程における看護大学生の看護技術修得に関連する要因の解明
講師	新田 祥子	・周産期における在日外国人の支援
助教	高崎 亜沙奈	・看護師の役割拡大における訪問看護師の特定行為看護実践に関する認識
助教	竹口 和江	・企業外労働衛生機関の保健師の保健活動に関する研究
助教	坂本 仁美	・次世代型地域包括ケアを先導する看護学教育確立のためのニーズ解析とカリキュラム開発

職名	氏名	現在の研究テーマ
教授	田中 一成	・長崎県産農林水産物を利用した機能性食品開発
教授	森田 茂樹	・低栄養状態の評価指標の検討
教授	大曲 勝久	・生活習慣病発症予防における栄養療法の意義について
教授	武藤 慶子	・野菜摂取量と行動変容からみた女子大学生における食生活の現状と分析
教授	古場 一哲	・食品～食品成分によるメタボリックシンドローム改善作用に関する研究
教授	四童子 好廣	・新しい発癌抑制性ジテルペノイドの化学生物学: Chemical Biology of Novel Anti-Cancer Diterpenoids
教授	樋口 才二	・加工した米の製造工程でのコロイド溶液の粘度と接触角の測定について
教授	久木野 憲司	・痩身のための絶食(スリムダイエット)が身体機能におよぼす影響
教授	富永 美穂子	・長崎県産農林水産物のおいしさの特徴に関する研究 ・分子調理を利用した料理の特徴や食品開発に関する研究 ・地域活性化の場としての大学の在り方に関する研究
准教授	駿河 和仁	・ビタミンAおよびその他の栄養素との相互作用が各ライフステージの生理機能へ及ぼす影響に関する基礎研究
准教授	飛奈 卓郎	・アミノ酸摂取や運動による血中 β アミノイソ酪酸への影響
講師	石見 百江	・成長期の子どもに対する栄養教育体制の強化～幼児から青年期を対象として～
講師	松澤 哲宏	・食品汚染事故原因菌の迅速識別法の開発および新規有用発酵微生物の探索
講師	竹内 昌平	・地域ごとに異なる感染症流行リスクの推定と対策立案
助教	山口 範晃	・ビタミンA摂取による各代謝の調節機序に関する研究
助教	岡本 恭子	・糖尿病予防に関する基礎研究
助教	稲垣 佳映	・食品廃棄部分におけるプレバイオティクス効果の検討
助教	湯浅 正洋	・ビオチンの生態における役割に関する研究(栄養生理学) ・食品の機能性と嗜好性に関する研究(食品学・調理科学)
助教	永山 千尋	・運動トレーニングと食欲に関する研究

県北地区高校との高大連携事業「会計学の専門性向上を目指した取り組み」を開催しました

8月19日(金)に県北地区高校との高大連携事業「会計学の専門性向上を目指した取り組み」を開催し、県北地区から7名の高校生が参加しました。

この事業では、本学経営学部経営学科のアカウンティングコース担当教員が講師となり、会計人として必要な基礎・基本を学んでもらうとともに、税理士など会計分野の高度専門職業人への興味・関心を高めてもらうことを目的としています。

まず、本学のアカウンティングコースでの学び、進級・卒業要件、入学者選抜方法について説明した後、『「財務諸表分析の基礎」を勉強しよう』、『法人税申告書の作成』の2コマの講義を実施しました。大学の講義と同じ1コマ90分という講義時間は高校生には少し長く感じたようですが、時には電卓を使用しながら、真剣に講義を受ける姿が印象的でした。参加した高校生からのアンケートでも「大学の講義は難しいイメージがあったが、とても分かりやすく興味が湧いた。」、「大学の授業のイメージを掴むことが出来た。」という感想を聞くことができました。

また、最後に行われた「在学生との交流」では、本学で実際に学んでいる在学生との意見交換が行われ、本学を志望した理由や大学受験にあたっての勉強法、税理士試験の科目合格に向けてどのように勉強しているかなどについて質問が出ました。アンケートでも、「先輩方の話も楽しくて貴校で学びたい気持ちが強くなった。」といった感想がありました。

参加した高校生には、この講義で学んだことを活かして、将来の自分を見据えながら、今後さらなるレベルアップを期待しています。

▲アカウンティングコースについて

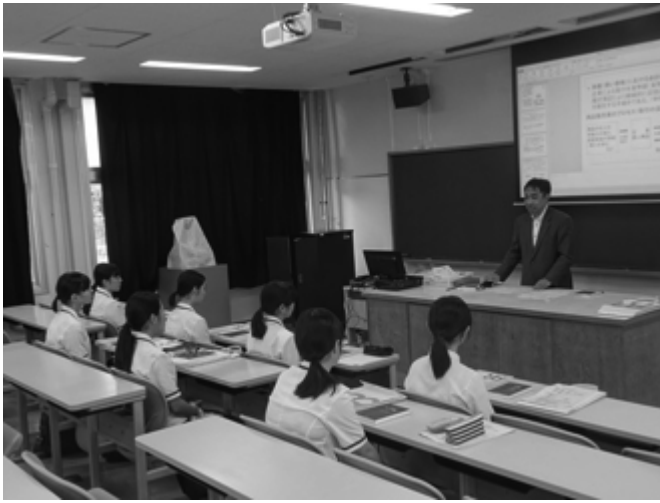
経営学部 経営学科
竹田 範義 教授



▲講義1

『「財務諸表分析の基礎」を勉強しよう』

経営学部 経営学科
宮地 晃輔 教授



▲講義2

『法人税申告書の作成』

経営学部 経営学科

高橋 秀至 教授



▲「在学生との交流」

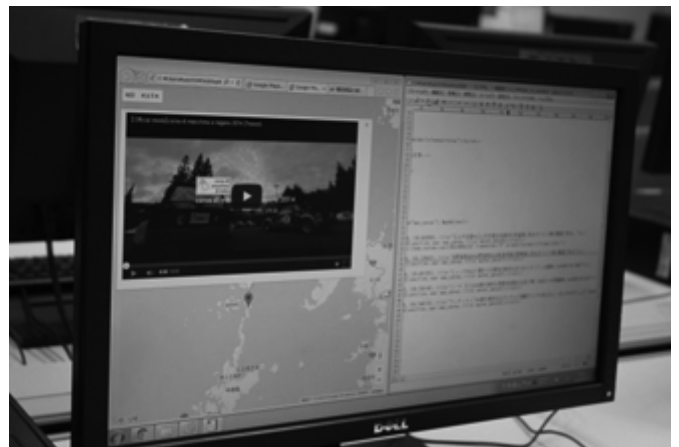


情報システム学科主催 「一日大学生2016－高校生のための情報技術講座－」を開催しました

本年度は、本学情報システム学科教員が9月19日（月・祝）から25日（日）にかけて7つの講座を開講し、のべ65名のご参加をいただきました。中には県外から参加された生徒さんもいらっしゃいました。

9月19日（月・祝）は、可視化情報学をテーマに「長崎の観光の活性化！Google Mapを利用した地図アプリケーションの作成！」（吉村准教授）という講座を開催しました。参加者からは「Google Mapの活用の仕方が多くあり、それを観光に使うということが聞いたことがなく新鮮で面白かった。」、「自分で色々なサイトから地図の情報を貼り付けできるのはすごいなと思いました。」等の感想をいただきました。

当日の様子



9月22日（木・祝）には、プログラミング×CGデザイン&3次元CGをテーマに、「数学は創造主（かみ）の言語か？～数理造形の宇宙～」（青木教授）、「3次元CGに挑戦」（辺見教授）と題した2講座を開催しました。参加者からは「貝殻の模様にも規則性があることを知り、興味深かった。」、「CGでイラスト等を描くことに興味を持っていたので、実際に作成できて良かった。」等の感想をいただきました。

当日の様子

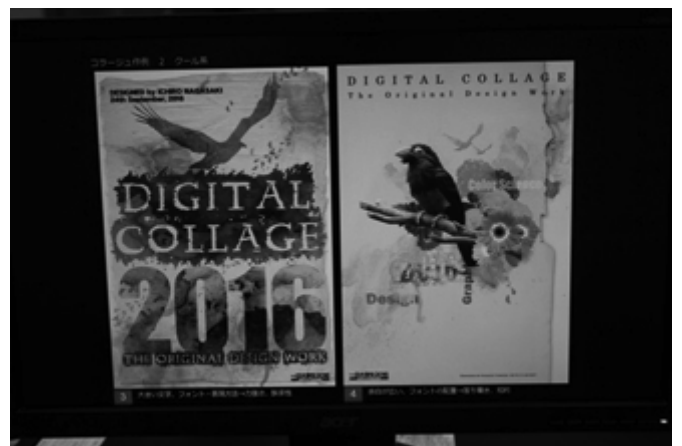
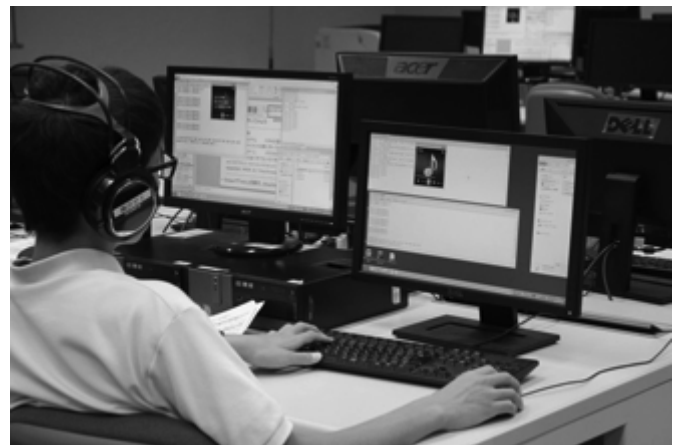




9月24日（土）には、デジタル空間の音と色をテーマに、「プログラミングで音を作ってみよう」（藤沢講師）、
「色彩学&グラフィックデザイン入門～オリジナル・デジタルアート作品を創ろう～」（片山准教授）と題した2講座
を開催しました。

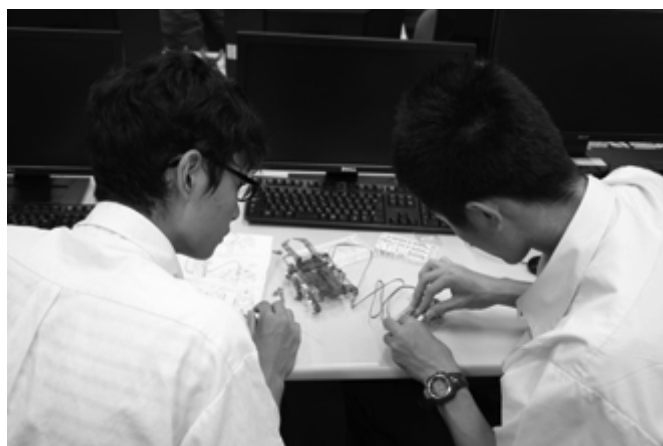
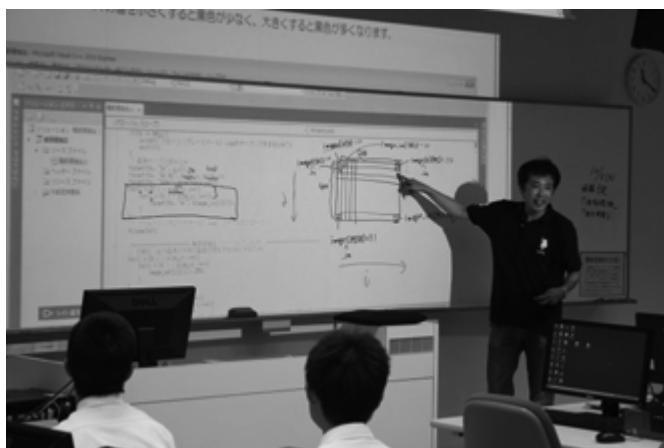
参加者からは「プログラミングで簡単にメロディが作れて面白かった。自分でも様々な曲をプログラミングで作りたいで
す。」「Illustratorを実際を使用して、簡単にポスター等を作ることができて楽しかったです。色彩学については、
錯視が面白く、人間の錯覚を利用した様々な効果や現象には驚きました。」等の感想をいただきました。

当日の様子



9月25日（日）には、画像処理&フィジカルコンピューティングをテーマに、「画像処理プログラミング」（平岡教
授）、「フィジカルコンピューティング」（金谷先生）と題した2講座を開催しました。

参加者からは「プログラミングについては前から興味があったのですが、今回の講義を受けて更にプログラミングを学
びたいという気持ちが強くなりました。」「フィジカルコンピューティングは最も人と接しているものだと実感しま
した。ロボットを用いた体験はとてわかりやすかったです。」等の感想をいただきました。



本イベントでは情報システム関連のテーマで全7講座開催し、1講座につき約2時間の講義を行いました。どの講座も参加者のみなさんには熱心に受講していただきました。なお、講座が終了した後も質問をされる方も多く、講座内容への関心の高さがうかがえました。

台風の接近により、天候が不安視される中での開催となった日程もありましたが、多くの高校生の方々に参加をしていただきました。

今年度の「一日大学生2016－高校生のための情報技術講座－」に、長崎県内各地および県外の遠方からもたくさんのご参加をいただき、ありがとうございました。

今後も、本学ではいろいろな講座等を企画していきますので、みなさんのご参加をお待ちしております

平成28年度高校生向け公開講座を開催しました

平成28年12月26日『高校生向け公開講座』を佐世保校で開催し、県北地区9校（佐世保南高校、佐世保北高校、佐世保西高校、佐世保商業高校、佐世保東翔高校、猶興館高校、松浦高校、川棚高校、清峰高校）から約300名の生徒が参加しました。

『高校生向け公開講座』では、各学科の「公開講座」と「在学生の研究活動発表」として、全学部で必修となっている「しまなびプログラム」の研究活動発表を行いました。大学の講義時間と同じ90分間の模擬授業を受講した高校生からは、「集中を持続させるのが大変だった」という意見や、「難しい授業かと思っていたら、とても楽しく、分かりやすく学ぶことが出来た。」という意見がありました。

「在学生の研究活動発表」では、「しまなびプログラムについては知っていたが、先輩方の話を聞いて、自分も参加したいと思った。」という意見や、発表する在学生を見て「自分もあんな風になりたい。」という意見がありました。

来年度も開催を予定しており、進学を目指す高校生にとってさらに満足度の高い内容にしていきますので、ぜひご参加ください。

当日の様子



会場の様子

長崎県立大学佐世保校キャンパス整備に係る設計者選定の プレゼンテーションとヒアリングを公開で行います

日 時	平成29年2月26日(日) 13:15開始～15:40終了予定 (開場12:45) ※事前申込不要、入場無料
場 所	長崎県立大学佐世保校 附属図書館1階 多目的ホール (佐世保市川下町123)
候補業者	5者 (1者あたり:25分)

地域住民の皆様へ

本学佐世保校では、「地域に開かれた魅力あるキャンパス」を基本理念として、校舎建替え計画を進めております。

このたび、設計者を決めるための審査を地域住民の皆様にも公開させていただきますので、ご都合がつかれる方はぜひ傍聴にお越しください。よろしくお願いたします。

《プレゼンテーションとは?》

設計の候補業者が、審査委員に対して、新しい校舎の配置やデザイン、建替え計画に関する考え方などの提案を行うものです。

《ヒアリングとは?》

審査委員が候補業者の提案に対して、質疑応答を行うものです。



※上記写真は、他の公開プレゼンテーションの状況です。

長崎県立大学佐世保校キャンパス整備に係る設計業務
におけるプロポーザルの審査結果

(1) プロポーザルの審査方法

プロポーザル審査委員会において、事前に定めた評価基準により、一次審査及び二次審査を実施し、最優秀提案者を特定し、併せて次点を選出。

(2) プロポーザルの経過等

- | | | |
|--------------------------------|---|-------------|
| ① プロポーザル公告（参加者募集） | ： | 平成28年11月22日 |
| ② 参加表明書の提出期限 | ： | 平成28年12月16日 |
| ・参加表明書提出者数 | ： | 10者 |
| ③ 技術提案書提出要請 | ： | 平成29年 1月11日 |
| ・技術提案書の提出要請者数 | ： | 5者 |
| ④ 技術提案書の提出期限 | ： | 平成29年 2月17日 |
| ・技術提案書提出者数 | ： | 5者 |
| ⑤ 公開によるヒアリングの実施
及び最優秀提案者の特定 | ： | 平成29年 2月26日 |

(3) プロポーザル審査委員会

- | | | |
|--|---|-------------|
| ① プロポーザル審査委員会（第1回） | ： | 平成28年11月 2日 |
| 審査基準等の決定 | | |
| ② プロポーザル審査委員会（第2回） | ： | 平成29年 1月10日 |
| 提出された参加表明書を審査し、技術提案書の提出者を選定。 | | |
| ③ プロポーザル審査委員会（第3回） | ： | 平成29年 2月26日 |
| 提出された技術提案書について、公開ヒアリングのうえ審査を実施し、最優秀提案者及び次点を選出。 | | |



※あくまでイメージ図であり、実際のデザインとは異なります。

今後のスケジュール

本日特定された最優秀提案者と、契約に向けての手続き後、平成29年3月に設計業務の委託契約を締結する予定とし、設計業務を平成30年9月末までに完了する予定です。

その後、建設工事に着工し、平成36年度までの完成を目指しています。

・設計業務及び建設工事のスケジュール

区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
設計業務	●————● (約1年6ヶ月)							
建設工事 (発注手続きを含む)		●————●						●

長崎県公立大学法人の経営戦略

中央教育審議会が答申した「我が国の高等教育の将来像」7つの機能別分化類型が示されている。本学は其中で、「職業人養成」及び「地域の生涯学習の機会の拠点」、「社会貢献」を本学の最も重要な使命として明確に位置づける。即ち、学部学生の教育に軸足を置き、教員の知と学生の活力をもって、地域の文化・経済の発展に貢献することを使命とする。そのために必要な大学資源を重点的に投入していく。

それを踏まえ本学は、長崎の歴史的・地理的・文化的特色を活かした本学独自の教育を推進する。それは単に「長崎に関することを知る」ということではなく、最終的に学部学科全体として学生の個の確立（発言、提案、議論、そして協働）に資するレベルまで止揚されたものとしていく必要がある。「主体的に学び、長崎から世界へ発信できる学生」を育て、社会に送り出すことを目的とした大学運営を行う。世界が向かうグローバル化の中で活躍できる卒業生の輩出を目的とし、教育の自律的質保証に向けた取組を強化していく。ここで最も重要なことは、教職員ひとり一人が組織の一員としての自覚を持ち、各々の役割・責任を最大限の力で全うし、学生の成長に喜びと誇りを感じることである。そのためのガバナンスのさらなる強化にも取り組む。

具体的には、下記の取組を中心に実施していく。これらの取組を通じ、本学をより魅力に満ちた選ばれる大学へと磨き上げていく。その結果、本法人最大の収入源である授業料収入を安定的に確保し、揺るぎない財政基盤を確立していく。

1 教育の質保証によるたくましい人材の育成

卒業時に、「主体的に学び、長崎から世界へ発信できる学生」を育成するために、教育体系を再構築し、その質の保証を目指す。それが、長崎県立大学の学生像であると、県民のみならず全国に浸透するように、教職員一丸となって取り組んでいく。

- (1) 学生を育てる過程の明確化
 - ・ 学生の受入方針、教育課程の編成方針、学位授与方針の3ポリシーを明確化
 - ・ 組織的・体系的教育の実現による出口の質保証を徹底
- (2) 就業力の養成
 - ・ 学生の就業力（個の確立）を入学時から養成し、高い就職率を維持
- (3) 国際性の向上
 - ・ 学生の意欲を引き出す教育で、高い外国語運用能力の養成
 - ・ 本学学生の留学、本学で学ぶ留学生の倍増

2 魅力ある教育の実施による志願者の確保

高校生や保護者の心に響く魅力ある教育を実施する。このために、長崎県の特徴を活かした教育の充実に取り組む。

- (1) 特色ある教育、魅力ある学問分野の創出
 - ・「しま」体験教育プログラム
 - ・「長崎学」科目群の設置
- (2) 教育環境の整備
 - ・佐世保校の建替に伴い、学生が魅力を感じ、足を運びたくなるような新しいキャンパスを整備

3 地域貢献の充実・研究の高度化

長崎県から交付される運営費交付金は、授業料と並び本法人の収入の柱であり、県内唯一の公立大学として地域貢献を充実しその存在意義を示すことにより、その安定的確保に努める。また、外部資金についても今まで以上の獲得に努める。

- (1) 長崎県に関連する研究への取組
 - ・「離島」「東アジア」「長崎の地域課題」に関連する研究への重点的な取組
 - ・「アジア・国際戦略」への貢献、シンクタンク機能の強化
 - ・産学官連携の推進
- (2) 研究の高度化による外部資金の増加
 - ・第2期中期計画期間中3億5千万円以上獲得
- (3) 県民への説明責任
 - ・法人運営や教育、研究に関する情報の積極的な公表

4 効果的な大学運営の推進

理事長・学長のリーダーシップの下、必要な大学資源の選択と集中を実施するなど、効果的な法人・大学運営を推進する。

- (1) 教育研究等の見直し
 - ・大学として推進する「しまプロジェクト」や「アジア・国際戦略」、「留学支援」等の教育研究への予算の重点配分
 - ・平成28年度までに物件費を1億2千万円削減
 - ・教員評価を全学的に見直し、理事長・学長が積極的に評価

(2) 分離キャンパスの組織運営

- 分離キャンパスを「禍」とせず、「福と為す」柔軟な組織再編

(3) 効果的な情報発信、大学ブランド力の向上

- 本学の学生像を意識させるような情報発信
- 大学のブランド力を高めるための広報戦略

平成23年12月7日

長崎県公立大学法人理事長 清浦義廣

クロスアポイントメント制度による教員の採用について



佐野 真由子（さの まゆこ）

- 専門分野 外交史・文化交流史、文化政策
- 担当科目 長崎と文化、地域文化論、文化政策論
- 学歴 東京大学 教養学部
 教養学科（国際関係論専攻） 卒業
 ケンブリッジ大学 国際関係論修士
 （MPhil）課程 修了
- 学位 ケンブリッジ大学 MPhil（国際関係論）
 東京大学 博士（学術）

■職歴

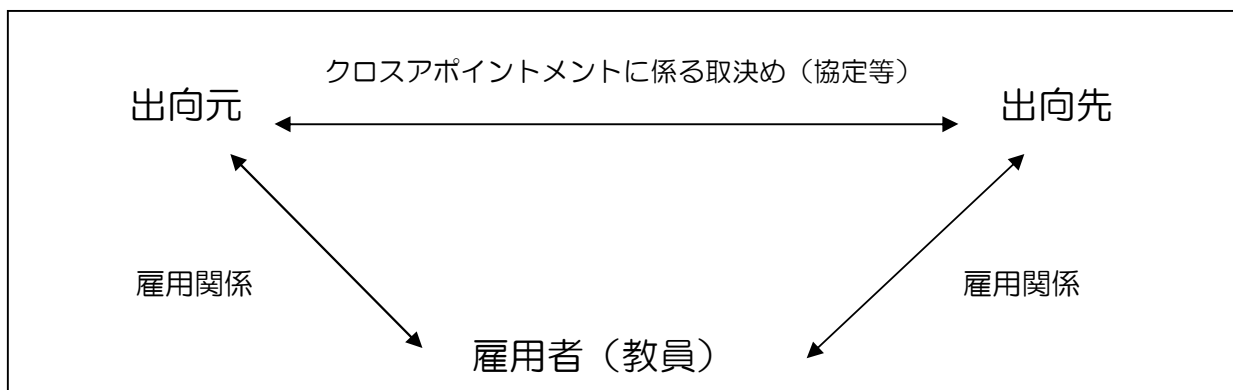
- 平成 4年 4月 国際交流基金
- 平成14年11月 国際連合教育科学文化機関（UNESCO）本部文化局
- 平成17年 4月 静岡文化芸術大学 文化政策学部 専任講師
- 平成19年 4月 国際日本文化研究センター 客員准教授
- 平成20年 4月 静岡文化芸術大学 文化政策学部 准教授
- 平成22年 4月 国際日本文化研究センター 海外研究交流室 准教授
- 平成29年 4月 長崎県立大学 地域創造学部 公共政策学科 教授

◇クロスアポイントメント制度とは

大学法人、研究開発法人、民間企業等が機関間でクロスアポイントメントに係る協定書等を締結することにより、職員がそれぞれの機関で「常勤職員」としての身分を有し、それぞれの機関の責任の下、必要な従事比率（エフォート）で業務を行うものです。

◇雇用形態

在籍型出向となります。



長崎県立大学は、公立大学として初めてクロスアポイントメント制度を導入しました。

全国公立大学初！人間文化研究機構と「クロスアポイントメント制度に関する協定」を締結しました

平成29年1月19日（木）、本学佐世保校において大学共同利用機関法人人間文化研究機構と長崎県公立大学法人による「クロスアポイントメント制度に関する協定」締結式を行いました。この協定は、本学の教育研究等のさらなる向上を図ることが目的です。また、本協定の締結は全国の公立大学として初となります。平成29年4月からは、協定に基づき人間文化研究機構所属の研究者が組織の枠を越え、本学にも所属し教育研究活動を行います。



稲永理事長（左）と立本機構長（右）



記念撮影

締結式では、人間文化研究機構の立本成文機構長と長崎県公立大学法人の稲永忍理事長が協定書に調印を行いました。その後の挨拶で立本機構長は、「今回の協定で、優れた研究人材を大学と本機構との間で活用できるようになる。構築されるネットワークが基盤となり、共同利用や共同研究に発展していくなど、連携が更に強化されていくことを願っている」と今後の発展への期待を述べられました。

また、稲永理事長は「長崎に居ながら、優れた研究者の先進的な講義を受けられることになり、学生にとって有意義なものになると確信している。今回の協定をきっかけに、人間文化研究機構との人材交流や共同研究を一層発展していきたい」と世界レベルの講義が受講できる喜びと、今後の抱負を述べました。



調印の様子



セミナーの様子

その後、協定締結を記念して行われたセミナーには一般県民や教職員など約80名が参加。人間文化研究機構への理解を深めたほか、長崎シュガーロードについての講演に熱心に耳を傾けました。

※クロスアポイントメントとは・・・大学法人、研究開発法人、民間企業等が機関間で協定書等を締結することにより、職員がそれぞれの機関で「常勤職員」としての身分を有し、それぞれの機関の責任の下、必要な従事比率（エフォート）で業務を行うもの。

長崎県立大学の教員評価の実施に関する基本方針

平成17年5月11日 制定

最終改正 平成29年2月7日

(施行 平成29年4月1日)

1 教員評価の目的

この方針は、別記1の「大学が求める教員像」を踏まえ、教員個々の大学における活動について、自律的・主体的な点検を基本として評価を行うことにより、大学の教育・研究等の一層の向上と活性化を図り、もって大学の基本理念の実現を図ることを目的とする。

2 評価の対象

教員評価の対象は、大学に所属する専任の教授、准教授、講師、助教とする。

3 評価実施組織と役割

①【学長】

- ・「教員評価の実施に関する基本方針」及び「教員評価実施基準」の検討等を行うために、大学教員評価委員会を設置する。
- ・大学教員評価委員会の検討を経て「教員評価の実施に関する基本方針」及び「教員評価実施基準」を策定する。
- ・学部長が行った第一次の教員評価に基づき、大学教員評価委員会の検討を経て、最終個人評価を決定する。
- ・「教員評価の実施に関する基本方針」、「教員評価実施基準」、及び最終個人評価結果を理事長に報告する。

②【副学長】

- ・学部長が行う第一次の教員評価について、学部間の公平性の観点から助言する。
- ・学長が行う最終個人評価の決定等を補佐する。

③【学部長】

- ・学部に第一次の教員評価のための検討を行う学部教員評価委員会を設置する。
- ・学部教員評価委員会の検討を経て、第一次の教員評価を決定する。

4 評価の領域・観点

- ①評価は、「教育」、「研究」、「社会貢献」、「大学の管理・運営」の4領域に係る教員の諸活動について、多面的に実施する。
- ②評価にあたっては、大学への貢献度を重視する観点から、別記2のとおり『教員像を踏まえ、教員評価の観点から推奨する行動指針』を定め、重点的に評価する。

5 評価期間

- ①評価は、「教育」、「社会貢献」、「大学の管理・運営」に係る活動については毎年度過去1年度分、「研究」に係る活動については原則として毎年度過去2年度分の活動業績について実施する。
- ②学長は、必要に応じ、複数年度にわたる活動業績について評価を実施することができる。

6 評価方法

- ①教員は、教員評価調査票により、毎年4月に、過去1年間（「研究」に係る活動については過去2年間）の活動業績に係る自己評価と根拠となる資料を、評価の基礎資料として、学部長に提出する。
- ②学部長は、第一次の評価において、別に定める「教員評価実施基準」等に基づき、教員の活動を、「教育」、「研究」、「社会貢献」、「大学の管理・運営」の4領域毎に総計ポイントを算定し、次の5段階に評価する。
 - 5 特に優れている
 - 4 優れている
 - 3 水準に達している

2 改善の余地がある

1 問題があり改善を要する

その領域毎の評点に、領域別ウェイトを乗じて総合評点を算定する。領域別のウェイトは、教員評価の実施に関する全学的な方針及び法人、大学、学部の目標を踏まえ、合計が1となるように、学部長が定める。

なお、領域別評価に当たっては、各領域において、教員が標準的に達成すべき水準を「3」とすることとし、これを基準として5段階に評価する。

5段階評価の基準は、職階別に設定することができる。

③教育の質的な評価については、学生による授業評価も活用する。また、他の3領域の活動についても、質的な側面について可能な限り評価する。

④学長は、学部長が行った第一次の評価を精査するとともに、学長による評価を実施し、最終個人評価を決定する。

7 意見の聴取

学部長は、第一次の教員評価の実施に当たって、必要に応じ、評価対象となる教員の意見を聴取する機会を設けることができる。

8 評価結果の通知、報告と異議申し立て

①学長は、評価結果を教員本人に対して通知する。

②教員は、自己に対する評価結果に異議がある場合は、異議申し立てを行うことができる。

③異議申し立ては、学部長を経由して、学長に対して行う。

④異議申し立てがあった場合、学長は、必要に応じて当該教員から意見を聴取し、必要な場合には再評価を行う。また、学長は、異議申し立てを行った教員に対し、当該異議申し立てに対する措置を通知する。

9 評価結果の利用

- ①教員は、教員評価調査票の作成及び評価結果により、自己の活動状況を点検評価し、その改善に努める。
- ②学長及び学部長は、特に高い評価を受けた教員に対し、その活動の一層の向上を促すために、適切な措置を講じる。
- ③学長及び学部長は、「問題があり改善を要する」と評価された教員に対しては、改善すべき点を明らかにし、適切な指導・助言を行う。
- ④学長及び学部長は、全学及び学部における教員評価結果をとりまとめ、全学及び学部の「教育」、「研究」、「社会貢献」、「大学の管理・運営」の改善に活用する。
- ⑤学長は、評価結果を教育研究費の配分に反映させる。
- ⑥学長は、活動業績にかかる評価の結果を教員の昇任・再任の可否に反映させる。
- ⑦理事長は、毎年度の評価の結果を教員の給与等の処遇に反映させる。

10 評価結果の公表

- ①教員個人の評価結果を学部・学科ごとに集計し、総合的に分析した結果は、学外に公表する。
- ②教員個人に係る評価結果について、評価の内容に関するものは個人情報として取り扱い、原則として学外には公表しない。
ただし、教育・研究の一層の向上と活性化を図るため、評価が高い教員については適切な方法で学内において公表する。

11 評価システムの検証

- ①学長は、学部長等の意見を参考に、教員評価の評価項目、評価基準、評価

方法及び実施体制について、その信頼性、妥当性、公正性、効率性等の観点に立って常時検証を行い、必要な見直しを行う。

- ②理事長及び学長は、評価結果を、教員の昇任・再任の可否、給与に反映させるに当たっては、評価結果の識別力、信頼性、妥当性、さらには評価結果を反映させる方法、程度等について検証を行い、必要な見直しを行う。

(別記)

1. 大学が求める教員像

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> I 学生の教育と研究に情熱を持って邁進できる教員 II 幅広い教養と規範意識を併せ持ち、地域に貢献できる高い資質を有する教員 III 組織の中における自らの役割を自覚し、大学運営に貢献できる教員 |
|---|

2. 教員像を踏まえ、教員評価の観点から推奨する行動指針

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> I 学生の教育と研究に情熱を持って邁進できる教員 <ul style="list-style-type: none"> → ① 教育に熱心であり、学生からの評価も高いこと ② 教育改善に向けた取組や学生の就業力養成に意欲的に取り組むこと ③ 本学ならではの特色的な研究成果の創出に向けて努力すること
 II 幅広い教養と規範意識を併せ持ち、地域に貢献できる高い資質を有する教員 <ul style="list-style-type: none"> → ① 自らの教育研究の成果等を地域や住民に還元するため、積極的に情報発信し、生涯学習やまちづくりなど県民のニーズに貢献すること ② 自らの研鑽に励むとともに、産学官連携等にも積極的に取り組み、地域に貢献すること
 III 組織の中における自らの役割を自覚し、大学運営に貢献できる教員 <ul style="list-style-type: none"> → ① 組織の一員として、中期計画をはじめとする理事長・学長が定めた目標や計画、方針等について、その達成のために尽力すること ② 組織の一員として、志願者の増加や大学運営のための資金増加にも積極的に取り組むこと |
|---|

教員の年齢・性別構成

平成28年5月1日現在

		教授	准教授	講師	助教	特任教員	合計
29歳以下	男性	0	0	1	1	0	2
	女性	0	0	0	0	0	0
30～39歳	男性	0	6	8	1	1	16
	女性	0	0	1	4	1	6
40～49歳	男性	12	15	3	0	6	36
	女性	3	5	9	0	0	17
50～59歳	男性	30	8	1	0	0	39
	女性	8	1	1	0	1	11
60～69歳	男性	21	1	0	0	4	26
	女性	5	0	1	0	1	7
70歳以上	男性	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0
男性計		63	30	13	2	11	119
女性計		16	6	12	4	3	41
合計		79	36	25	6	14	160

目標チャレンジ制度

I. 目的とねらい

1. 職員の人材育成につなげる

- ・能力開発と行動変革を促す
- ・成長意欲を刺激し、やる気を向上させる
- ・職員一人ひとりに対してきめ細かく支援する

2. 組織マネジメントを向上させる

- ・組織の中に職員一人ひとりの「強み」を活かす
- ・業務に対する認識、情報等を共有することにより相互理解を深める
- ・業務のつまづきを早期に発見し、適切な助言を行うことにより業務効率を高める

3. 風通しの良い職場づくりにつなげる

- ・職員との面談により悩みや不安等の解消を図る

職員個々人の能力を高め「個を活かす」ことにより、組織（大学）の力を高めていく

II. 今後の制度設計

平成25年度

- 10月 試行開始
- 12月 中間面談
- 2月 最終面談
フィードバック
- 3月 取りまとめ

平成26年度～

- 4月 組織目標の設定
- 5月 組織目標を踏まえた
個人目標の設定
- 6月 当初面談
- 10月 中間面談
- 2月 最終面談
フィードバック
- 3月 取りまとめ

・改善点、問題点等の把握

・制度設計・手法等の検証

・必要に応じて見直し

外部資金獲得状況

《中期計画に掲げる目標》

【件数:H17～22 計299件 → H23～H28 計330件以上】

【金額:H17～22 計330百万円 → H23～H28 計350百万円以上】

《獲得状況》

	件数(件)	金額(千円)
平成28年度	96	127,428
平成27年度	86	131,723
平成26年度	76	118,923
平成25年度	83	103,533
平成24年度	77	77,736
平成23年度	70	69,020
合計	488	628,363

○用語概説

	用語	解説
ア行	IoT推進ラボ	IoTプロジェクトを発掘・選定し、企業連携・資金・規制の面から徹底的に支援を行う。平成28年6月10日より、「地方版IoT推進ラボ」の募集を開始し、地域におけるIoTプロジェクト創出のための取組を「地方版IoT推進ラボ」として選定している。
	アジア・国際戦略	長崎県が策定した戦略。成長著しい東アジアの最前線に位置し、これまでの深い交流の歴史の中で築いてきた友好・信頼関係を土台として、アジアを中心に海外の活力を取り込み、長崎県の経済活性化に結びつける。
	アドミッション・ポリシー	入学者受入方針。 各大学・学部等が、その教育理念や特色等を踏まえ、どのような教育活動を行い、また、どのような能力や適性等を有する学生を求めているのかなどの方針をまとめたもの。 入学者の選抜方法や入試問題の出題内容等にはこの方針が反映されている。
	インターンシップ	学生が在学中に、企業等において自らの専攻や将来希望する職業に関連した就業体験を行うこと。
	eラーニング	電子ネットワークなどを利用した教育、研修。 WBT(Web Based Training)やdistance learningとも呼ばれる。
	AO入試	AO入試：アドミッション・オフィス入試。 アドミッションポリシー（大学が求める学生像）に基づき、学力では量れない受験生の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識などを多面的、総合的に評価し判定する入試。
	SD	Staff Development（スタッフ・ディベロプメント）の頭文字。 事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組。
	SPI	Synthetic Personality Inventoryの頭文字。能力面と性格面の2つの側面から総合的に人材の資質を測定・評価する総合適性検査の一種であり、リクルート社が開発したもの。現在では、SPIという名称が適性検査を表す言葉として定着している。
	FD	Faculty Development(ファカルティ・ディベロプメント)の頭文字。 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。 具体例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法に関する研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。
	FP（ファイナンシャル・プランニング）技能検定	顧客の資産に応じた貯蓄・投資等のプランの立案・相談（ファイナンシャル・プランニング）に必要な技能に関する試験。レベルは1～3級までであり、2級はビジネスでは必須と言われるレベルで、金融業界を中心に企業ニーズも高く、昇格要件とされるケースもある。

	用語	解説
ア行	遠隔授業	インターネットなどの情報通信システムを利用して、離れた場所を結んで行われる授業形態。
	オフィスアワー	教員が曜日・時間を決めて研究室に在室し、学生はその曜日・時間には自由に教員研究室を訪れて質問・相談等を行うことができる制度。
カ行	科学研究費補助金	人文・社会科学から自然科学まで、あらゆる分野における優れた独創的・先駆的な研究を発展させることを目的とする国庫の研究助成費。文部科学省、厚生労働省、日本学術振興会により審査・交付される。
	科目等履修生	正規の学生と異なり、大学で開設されている授業科目のうち、必要な授業科目や興味のある授業科目だけを選んで履修する学生。正規の学生と同様、履修した授業科目について試験の上で単位が与えられる。
	カリキュラム・ポリシー	教育課程編成・実施方針。ディプロマ・ポリシーで定めた学修内容を習得するためのカリキュラムを体系的に示したもの。
	カリキュラムマップ	履修系統図。学生に身につけさせる知識・能力と授業科目との間の対応関係を示し、体系的な履修を促す体系図。
	キャリア・ポートフォリオ	授業や学習活動の成果であるレポートや論文、課外活動での経験や身につけたスキルなどを記録保管するファイルのこと。これらを蓄積・保存し、振り返っていくことで、自分の将来を考えることに役立てることができる。また、履歴書やエントリーシートを書くとき等の材料としても活用することができる。
	クリッカー	学生一人一人が手のひらサイズのリモコンを持ち、講義中に出される質問に対してリモコンの番号を押して回答するシステムで、学生の回答は瞬時に集計され、結果がグラフ等でスクリーンに映し出される。講義者と学修者の双方向コミュニケーションを可能にするツールの一つ。
	クロスアポイントメント制度	大学法人、研究開発法人、民間企業等が機関間でクロスアポイントメントに係る協定書等を締結することにより、職員がそれぞれの機関で「常勤職員」としての身分を有し、それぞれの機関の責任の下、必要な従事比率（エフォート）で業務を行うも。
	高度専門職業人	深い知的学識に裏打ちされた国際的に通用する高度な専門的知識・能力を必要とする職業に就く者。
	コンソーシアム	連合体、共同体。
	コンピテンシー	経験を積むことで身についた行動特性。社会人基礎力。
コンピュタリテラシー	コンピュータを操作して、目的とする作業を行い、必要な情報を得ることができる知識と能力を持っていること。	

	用語	解説
サ行	サテライト・キャンパス	社会人など時間的・地理的制約等に大学の本校に継続的に通うことが困難な者に対して、授業の一部を行う本校以外の場所。
	COC事業	center of communityの頭文字。 文部科学省が実施する「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」で、大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としている。（平成25年度より開始）
	シーズ	大学がもつ「技術、ノウハウ、アイデア、人材、設備」などを指す。
	ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）	人と人とのつながりを促進・サポートする、「コミュニティ型の会員制のサービス」。Facebook、LINE、Twitterなど、多数のサービスがある。
	GPA	Grade Point Average（グレート・ポイント・アベレージ）の頭文字。 GPAは、アメリカ等の大学で一般的に用いられている成績評価法の一つで、学生の学業成績を客観的に計ることができるものとして、大学院進学や留学時の参考資料として活用されている。 具体的には、授業科目ごとの成績評価を5段階（A、B、C、D、F）で評価し、それぞれに対して、4、3、2、1、0のようにグレード・ポイントを付与し、この単位あたりの平均を算出する。 本学では、学生の卒業時におけるレベル確保等のために、成績評価基準にGPAを導入し、履修指導等に活用している。
	GP	Good Practice（グッド プラクティス）の頭文字。 本来、「優れた取組」という意味であるが、各大学が自らの大学教育に工夫を凝らした取組で他の大学でも参考となるようなものを公募により選定する文部科学省の事業の通称。
	「しまなび」プログラム （「しま」体験教育プログラム）	島嶼県である長崎県の特性を活かし、また長崎県の公立大学として「しま」を第3のキャンパスとして位置づけ、学生を在学期間中（4年間）に最低一度は「しま」を訪問させ、現地の生活や人との交わりの中で、実践的な学習を体験させる本学独自のプログラム。平成27年度より本格実施に伴い、「しまなび」プログラムと名称を改めた。
	就業力	平成23年度から施行される大学設置基準では、「学生が卒業後自らの素質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力」と定義されている。
	シラバス	各授業科目の詳細な授業計画。一般に、授業名、担当教員名、講義目的、各回毎の授業内容、成績評価方法・基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学習等をすすめるための基本となるもの。
セメスター制	1学年複数学期制の授業形態。 1つの授業を1年間通して実施する「通年制」の前・後期などとは異なり、1つの授業を学期（セメスター）毎に完結させる制度。 1学期の中で少数の科目を集中的に履修することで、学習効果を高めることができる。	

	用語	解説
サ行	情報処理技術者試験	情報処理技術者試験は、「情報処理の促進に関する法律」に基づき経済産業省が、情報処理技術者としての「知識・技能」が一定以上の水準であることを認定している国家試験。 試験区分はレベル1（ITパスポート）、レベル2（基本情報技術者試験）、レベル3（応用情報技術者試験）、レベル4として、情報セキュリティスペシャリスト試験など9分野の試験がある。 平成28年度より情報セキュリティマネジメント試験（レベル2）が追加された。
	ジェネリックスキル	社会でどんな仕事に就いても必要な力。専攻・専門に関わらず、大卒者として社会で求められる汎用的な能力。
タ行	大学コンソーシアム長崎	個別に取り組むと手間や費用がかかる事業等を共同で行うため、長崎県内の大学等が集まった組織。現在は、大学間で単位互換を行う「NICEキャンパス長崎」に主に取り組んでいる。
	大学ポートレート	データベースを用いた国公立の大学の教育情報を公表・活用する共通的な仕組みとして、大学の教育情報を広く社会一般に公表するためのWebサイト。 大学評価・学位授与機構に置かれる「大学ポートレートセンター」が日本私立学校振興・共済事業団と連携・協力しながら運営している。
	中国語検定	日本中国語検定協会が実施する中国語能力の検定試験で、1級から準4級までの6段階で試験が行われている。 2級の認定基準は、複文を含むやや高度の中国語の文章を読み、3級程度の文章を書くことができ、日常的な話題での中国語による会話が行えること。 3級の認定基準は、中国語の一般的事項をマスターしていて、簡単な日常会話ができ、基本的な文章を読み、書くことができること。
	チューター制	在学生、教員等が学生に対して、学習、生活上の精神的サポートとして、支援、助言を個別に行う制度。主に外国人留学生に対して個別の課外授業を行うなど、留学生の学習、研究効果の向上を図る制度。
	聴講生	科目等履修生と同様に、特定の授業科目のみ履修する学生であるが、単位を修得しない点異なる。
	長期履修学生制度	職業を有しているなどの個人の事業に応じて、大学の定めるところにより、学生が大学の修業年限を超えた一定の期間にわたって計画的に教育課程を履修し卒業することを認められる制度。平成14年度から実施。
	ディプロマ・ポリシー	学位授与方針。 卒業時に学生が獲得すべき能力や態度、知識などを示したもの。
	ティーチングアシスタント（TA）	優秀な大学院生に対し、教育的配慮の下に、学部学生等に対する助言や実験・実習等の教育補助業務を行わせ、大学院生の教育トレーニングの機会を提供するとともに、これに対する手当てを支給し、大学院生の処遇改善の一助とすることを目的としたもの。

	用語	解説
タ行	TOEFL	英語を母語としない人が、主にアメリカの大学・大学院に出願する際に、受験が義務付けられている英語力判定テストの呼び名で、310～677点の間のスコアで算出する。留学に必要なスコアは、大学・学部等によって異なるが、一般に500～550点以上とされている。
	TOEIC	英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストで、10～990点までのスコアで評価をするもの。一般に、730点以上で、どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えているとされる。
ナ行	長崎県立大学やるばいプロジェクト	本学や地域の活性化につながる学生の自主的な活動を促すことを目的に平成19年度に創設した学生支援制度。採択プロジェクトに対しては奨励金を助成している。平成24年度に「長崎県立大学活性化プロジェクト」から名称変更。
	長崎“新生”産学官金連携コンソーシアム(NRC)	産学官関係団体の連携を強化し、産学官の研究開発等を推進することにより、持続的・発展的にイノベーションを創出するシステムを構築し、科学技術による長崎県の産業振興及び県民生活の向上に寄与することを目的として、平成22年11月に設立されたもの。長崎県、長崎大学、長崎総合科学大学、長崎県立大学、佐世保工業高等専門学校、長崎県商工会議所連合会、長崎県商工会連合会、長崎県中小企業団体中央会、長崎県産業振興財団、十八銀行及び親和銀行の11機関が参加している。(金融機関は平成23年8月より加入)
	長崎留学生支援センター	長崎留学生支援コンソーシアムが開設した留学生の支援のための機関。 長崎地域における留学生の就職・生活を支援するとともに、留学生の力を活用し、地域活性化や観光振興に貢献することを目的とし、長崎への留学を促す広報活動なども行う。
	内部質保証	高等教育機関が、自らの責任で自学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を元に改革・改善に努め、これによって、その質を自ら保障することを目指す。
	ナンバリング	授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組み。
	任期制	任期を付して教員を任用する制度。 現在は、「大学教員等の任期に関する法律」(平成9年8月25日施行)により、「先端的、学際的または総合的な教育研究」等の場合に任期を定めることができるとされている。 なお、外国人教員については、「国立又は公立の大学における外国人教員の任用等に関する特別措置法」により、任期を定めて任用することができるとされている。
ハ行	ハラスメント	嫌がらせ。セクシャルハラスメントは性的嫌がらせ。
	販売士検定	販売員としての素養やサービス向上を目的に日本商工会議所が実施する検定試験。 レベルは1～3級までであり、2級は売場の管理者クラスのレベルで、店舗管理に不可欠な従業員の育成や指導、仕入や在庫の管理といった知識が必要。

	用語	解説
八行	ピア・サポート	「Peer」とは“仲間”、「Support」とは“支える、援助する”と言う意味。在学生が新入生を仲間として援助し、支える活動。
	PROGテスト	PROGは河合塾と（株）リアセックが開発した大学教育を通じたジェネリックスキル育成プログラム。PROGテストは、リテラシーテストとコンピテンシーテストの2つがあり、知識を活用して問題解決する能力（リテラシー）と経験を積むことで身についた行動性（コンピテンシー）の2つの観点でジェネリックスキルを測定するもの。
ラ行	ラーニング・コモンズ	自主的、自立的な学習活動（ラーニング）を支援するため、図書館が所蔵する図書や雑誌と、電子ジャーナルやデータベースなどの新しい電子資料の双方を自由に利用できるネットワークの環境が整った共有空間（コモンズ）。
	リサーチアシスタント（RA）	大学等が行う研究プロジェクト等に、大学院生等を研究補助者として参画させ、研究遂行能力の育成、研究体制の充実を図るとともに、これに対する手当の支給をするもの。
	リテラシー	新しい問題や経験のない問題に対して、知識を活用して問題を解決する能力
	臨床栄養師	人間栄養学に基づいた臨床栄養の知識、技術およびマネジメント能力を習得し、栄養ケア・マネジメントの質の向上に努めることのできる能力を有している学会員である管理栄養士。